

ファンによるファンのためのお笑い雑誌

fan*fun

Vol. **3.5**

ファイナリスト インタビュー **ラブレターズ**

赤坂をゆらせ!

キングオブコント 決勝直前 緊急特別号

Index.

Special インタビュー 1 : ラブレターズ - page 23

Special 1. キングオブコント2011特集 : 見守るしかできない

2700の正しい使い方 - なお(@hanao91249) - page 16 17

「トン子」が生んだ奇跡のコント『校歌斉唱』@ラブレターズ ～お笑い大好きトン子ちゃんが集めたコント師による、コントオンリーのコントライブ～ - はたはた(@kremomosnow) - page 17 19

新時代のリーダー選び ～KOCの魅力～ - 夏実 - page 18..... 23

「おばはーん！」論 - 菅家志乃歩(@Sugaya03) - page 19..... 25

ラブレターズ単独ライブレポ LOVE LETTERZ MADE vol.2 - Punch Line(@punch_line) - page 20 28

キングオブコント2011 : ニュージェネレーションの台頭 - Punch Line(@punch_line) - page 21 30

Special 2. ファン座談会 : 選ばれしヤツラに付きまとうヤツラ

トップリード : ファン座談会 - page 22..... 33

鬼ヶ島 : ファン座談会 - page 27..... 46

ラブレターズ : ファン座談会 - page 30.....58

Special 3. アンケート結果 : いろいろあれこれ - page 33..... 74

Special インタビュー2 : K-PRO主催児島さん - page 34..... 83

Regular Topics. 近未来からのどうでもレポート - うんなん(@27_21) - page 47..... 96

Collaborators. - page 49..... 98

Editor's Note. - page 50..... 101

(注 : page○○=epub頁数、 ○○=pdf頁数)

always been my friend. I'm had a sort of as an actor and a dance
Special Long Interview been a kindred spirit of a stage. You are.
come, enter into my life. **LOVELETTER2.** ラブレターズ I was never one for pride
pt upon you. On the contrary, you have become the star of my
ces. I wouldn't have you in any other place but by my side upon

2011年8月12日 @都内某所

聞き手・文：Punch Line、協力：はたはた

出会い



—今日はインタビューをお受け頂き、ありがとうございます。早速ですが、まだまだお二人のことを知らない方が多いので経歴から聞かせて下さい。大学時代に会われたと伺っていますが、更に詳しく聞いてもよいでしょうか。

溜口：二人とも日本大学の芸術学部出身です。大学時代はテニスサークルだったんですが、飲み会がいやですぐやめました。

塚本：大学自体が大きいので、学部ごとに部活があったんです。真面目な感じの。でもサークルの先輩によって飲み会とかいっぱいあって超やだった。僕は部長でした。一切飲み会とかやらなかった。同じテニスサークルでした。

—それが出会いですか？

溜口：いや、僕の方が先輩なんで違います。塚本は一浪してるんです。僕は現役で入ったんですが、飲み会にむかついて。テニスやりたかったのにできなかったの、一年で止めたんです。その後に塚本が入ってきて。そこではすれ違いです。

塚本：そうですね。

溜口：実際の出会いは、日芸で友達がプロデュースしてる舞台に出演していた時に、後から塚本が入ってきて、共演したことです。

—日芸のコースはどこですか？

溜口：僕が日大の映画学科の演技コースでした。

塚本：僕は文芸学科です。本を書くところです。

溜口：吉本ばななとか。

—エリートコースじゃないですか。

塚本：中に入るとあんまりです。暗かったんで。

溜口：全然面白くなかったです（笑）。

—それが単独の世界感につながるんです



(左：塚本 直毅 右：溜口 佑太郎)

ね？大学時代輝けなかったという。

溜口：僕は映画学科で共同で作業するので、友達いましたけど、文芸学部は一人で作業するところなんで、塚本はまじでヤバイです。

塚本：単独でやった、イケテル大学生を皮肉ったネタは作ってて一番楽しかったです。一日で100個くらいのあるあるができました。

—あれはうけてましたね。

塚本：自己満足です。

溜口：逆にそっち側の人はどう思うんですかね？イケてる組は？

—どうでしょう。ああいうイメージで見られるのかなと思って新鮮かもしれませんね。ライブでは共感の笑いでしたね。

溜口：ASH & D コーポレーションのお客さんは特に共感されるかもしれないです。

組んだきっかけはキングオブコント

塚本：結局大学では相方が4年で、俺が3年の時に一回舞台で出会って、それ以降は連絡も取ってなかったんです。で、キングオブコントが始まるというのを聞いて。きっかけはキングオブコントです。第一回からアマチュアで出てます。

—本当にキングオブコントのために組まれたんですか！

塚本：もともと劇団の人がコントユニットを組むってのはよくあったので、それをやるかと思ってましたね。遊びな感じで。

溜口：「年に一回コントユニットでライブが

出来たらいいね」って久しぶりに会って話したんです。

塚本：その時にキングオブコントが始まるという話を聞いて、じゃあやってみようかと。

溜口：ライブやる前に一回出てみようかって。

塚本：久々に会った時はお互い敬語でしたし。—なんで二人で組もうと思われたんですか？

溜口：お互い都合がよかったんですね。俺は台本書けないから。で、多分暇な人をさがしてて（笑）。

塚本：そんなこと思ってたんだ！俺は相方しかいないと思ってたんです。大学で一番面白かったんで。出会った人の中で一番だったんで。だって相方って面白いじゃないですか？

溜口：なんだよ。恥ずかしいよ。

塚本：この人とコントをやってみたいなって思ったんです。昔からうまかったし面白かったんです。性格はあんまよくない（笑）。

—演技が上手いですよね。テンションがパンと跳ね上がる感じとか。

塚本：はい。あれはすごい。

溜口：いやいや。まあ。

塚本：否定はしないんだ（笑）。謙遜してくれよ。僕はどっちかという書きたかったんです。大学4年の時に放送作家の勉強を始めてたんですけど、大変なばかりで何にも面白くなかったんです。で、コントが書きたくなって、相方がやりたいと言ってたのを思い出して、それからキングオブコントという大会にも出てという流れです。

—その時のキングオブコントの手応えはどうでしたか？

塚本：これがですね。相方は表舞台に立つのは慣れてたから身を委ねようと思ってたんです。

溜口：それまで1000人規模の舞台に普通に立っていたりしたので。

塚本：僕はすごく緊張してたんですけど。

溜口：「大丈夫だよ。俺が引っ張るよ」って言ったんです。

塚本：僕は初めて書いたコントだし、よく分からなかったんですけど、一番始めのところがわーっとウケたんです。おー、すげーやったーって。で、30~40秒経ったら、相方の顔が真っ青になってて、ネタ飛ばしたんですよ。その後相方が僕の頭を叩いて終わったんです。

溜口：2分尺を1分ちょっとで終わりましたね。もう最後の決め台詞言って、「どうもありがとうございました」って。

塚本：大分苦い出発にはなりましたが、ウケた手応えはあったので、やっても面白そうだと思います。

溜口：悪いから俺がエントリー料2000円払うよってことになって、それからしばらく連絡取らなかったです。

塚本：その時は遊びの参加だったので。でも一応その年のM-1にも、「どうしますか？先輩」と声をかけたら、相方が出ると言ったので、出ました。漫才やったことなかったから、軽い気持ちで出たら一回戦通ったんです。結構ウケたんですよ。二回目の舞台で結構ウケたから、真面目に考えたら結

構いけるかもと思って、がんばってネタを考えたんですが、声が小さいという理由で二回戦は全くウケなかったんです。

溜口：とがってたんですよ。コントっぽい漫才がやりたかったんです。

塚本：おぎやはぎさんみたいな。

溜口：そしたらグッチ裕三さんの悪口ばかり言うネタになって。ラフォーレでどんずべりましたね。で、また音信不通になったんです。

最初はお笑いは「外」というイメージでした

塚本：その年明けてから、また二人でユニットライブやるにしても舞台経験は欲しいし、お客さんも沢山入って欲しかったんです。小劇場でやってる人の友達ばかり呼ぶ内輪の感じがいやだったんです。

溜口：ラブレターズがライブやるなら客が入るようにしたかったんです。顔を売る為に始めました。

塚本：だから最初はお笑いは「外」というイメージでしたね。

溜口：どこかに所属するという意識もなく、とりあえず面白いコントをやろうと思いました。

—最初に出られたライブは何というライブですか？

塚本：中野のガチャライブとか、お笑いスター誕生とか。ノルマ制のライブです。

溜口：お笑いで天下とるとかじゃなくて、一回目のライブにお客さんを読んで成功させようとして始めたんです。

— 単独ライブをやりたいという感じだったんですね。だから異質なんですね。ネタも感情をゆさぶり、細かい笑いどころを増やすというより、全体の流れを意識されているなと感じます。

塚本：そうですね。そこは芸人さんと違うかもしれません。僕らも芸人なんですけど(笑)。

溜口：最初は単独ライブを成功させて、売れて、その後にお互いやりたいことをやろうと思っていました。塚本は作家、僕は役者というのがあったので。言い方は悪いですが、お互いを利用しようと思いました。

— セルフプロデュースしようとされてたんですね。

溜口：そうです。でもやっていたら、面白くなってきました。

塚本：本当にそうですね。相方は最初はライブのエンディングとかでボケるのも苦手でしたね。

— それがどうして変わったんですか？

塚本：始めて2~3ヶ月でいくつかの事務所から声をかけていただいたからですね。本腰を入れてやった方が自分達のためにいいんじゃないかと思いつきました。

溜口：シティボーイズの作家をやった方が一緒にネタを作らせてくださいと言ってくださったりしたんですよ。急に色々ありましたが、段々考え方が変わりました。

— 笑いを取るのが気持ちよくなったりということもありますか？

溜口：そうですね。ランキングを決めるフリーライブで上位に入ったりもするように

なって、そういう中でやっている芸人さんたちは、すごいなあと思うようになりました。

塚本：スタイルライブというフリーライブで前座のような形で出演したんですが、磁石さんとかアルコ&ピースさんとかがいる中で優勝できたんです。

溜口：お客さんに言われて、すごいことだと知りました。自信がつかえましたね。

塚本：その時に、ASH & D コーポレーションに声をかけていただいて、二人の希望と合っていたので、入ることにしました。もともとシティボーイズも好きでしたし。

溜口：役者もできるし。

塚本：僕らの経歴は変わってるかもしれないですね。お笑いの養成所にも通ってませんから。

相方がもっているキャラクターと台本上の笑いがぶつかり合うことがたまにある 

— 学校に通ったことによって型にはまってしまうこともありますからね。

溜口：僕はお笑い全然知りませんでした。塚本は詳しいけど。

塚本：僕はマニアですね。

— そういう(お笑いを知らなかった)溜口さんに書くということで意識していることはありますか？

塚本：僕は相方が大好きなのでやりやすいですよ。

溜口：どうなの？環八フルスイングでは他の人ができるユニットコントを書いたりもする

じゃん。

塚本：いやー、抜群にお前に向けてが書きやすいよ。

溜口：あははは。

塚本：他の人に書くのはちょっとやりづらいですね。僕は根本に“相方がどう動いたら、何を言ったら面白いか”というのを、大切にしてネタを書いています。

溜口：演出しててどうなの？他の芸人さんに関してとか。俺はいつも言われてるけど、他の芸人さんには言わないじゃん。

塚本：他の人には、今までやってきてる笑いが違うので、伝わらない時はあります。やっぱり相方は抜群ですよ。

溜口：いいよ、もう（笑）。

——信頼感があるんですね。

塚本：相方の事嫌いになったらネタ書けないと思うんで。それはすごく思います。

——今東京のライブシーンを賑わせている人は、コンビ間の仲が良くてそれがネタに反映されていますね。ジェネレーションの問題でしょうか。

塚本：でもけんかをすることはありますよ（笑）。お互い頑固なんで。

溜口：ネタに関しては何も言わないですけど、私生活について文句言ったりします。ちゃんとしてよ、もうって（笑）。

塚本：ネタの言い争いはわりとします。相方のキャラクターがあった状態で脚本書いても、自分のやる役と反発したりすることがあるので。相方がもっているキャラクターと台本上の笑いがぶつかり合うことがたま

にあるんです。そうするとあまりうまくネタが進まない。台本にそってキャラクターがのっかって進むとうまくいくんですが。そこでお互いが譲らないことはあります。

——確かに溜口さんのキャラは強いですよ。

塚本：ネタじゃなくて相方に目がいきすぎちゃうと、ちょっと。相方は面白いから目は行ってもいいんですけどね。

——ストーリー性がすごくありますよね。見ていると大爆笑しても何をやったか忘れちゃうこともあるんですが、ラブレターズさんはストーリーや設定などを覚えています。

溜口：確かにそうかもしれませんね。だから逆にショートネタが作れないというところもあるかも。

——お笑いを勉強したという背景がないので、笑いどころを詰めこむというネタ作りじゃないのかなと想像しています。溜口さんは素と舞台上でのイメージが違うので、舞台上で映える方なんだと思いました。結構エキセントリックな役だったりするので、びっくりしたり。

溜口：テレビで出来ないと言われてたりしました。



—そして、身長が違って面白い場合もありますが、同じ身長で見ためが似ているのに全くキャラが違うのが面白いです。同じ世界の住人だと感じました。同じマンガのキャラクターというか。

塚本：へー。

環八フルスイング

(環八フルスイング：ラブレターズ・御茶ノ水男子・カンフーガール・NO モーションと事務所もバラバラな4組が新ネタ、ユニットコント、企画などをやる、月一ライブ。ここでしか見られない長尺コントが魅力)

塚本：環八フルスイングというライブも大きかったかもしれません。始めて半年ですぐ10分のネタを作ることになったので。劇団でやるなら長いネタをやるイメージでしたが、普通のお笑いライブでは機会がない。でも環八のおかげで、長いネタを書くようになって、書き方のいい勉強になった気がします。

—漫才もやりましたよね。

塚本：あ、伝説の漫才。

溜口：もうやりたくないです (笑)。

—あはは。私は環八からラブレターズさんを好きになりました。毎回切ないネタで面白かったです。そんなことをやってる方はいなかったの。この間の単独のライブ最後のネタは泣いちゃいました。

塚本：ほんとですか？長いのも短いのもどちらもできないといけないんですけど、確かに僕らには長いほうがあるんですよ。だから環八はありがたかったです。

溜口：ポケの多いネタはできないですよ。ツッコミができないから。

—でもその分自然なストーリーで、笑い以外の感情をかきたててくれますよ。

塚本：じゃあ、そういうことで！

溜口：偶然が生んだんですけど！

塚本：入り口が他の芸人さんと違うという部分を武器にしていこうという意識はありません。ポケ方や芝居っぽいところとか。そういうところはなくさないようにしています。

—演技派コントって言われるようにどんどんなっていくでしょうね。環八フルスイングでも他のメンバーが影響受けている部分はありますよね。皆がちょっといい話になったり、御茶ノ水男子の影響でネタがブラックになったり。

塚本：なぜか環八のメンバーはよくわからないところでリンクすることがあるんですよ。テーマを与えられてもいないのに。全部のコンビが人が死ぬネタを書いたり。

—環八で長いネタをやりますけど、変化はありますか？

塚本：目に見えてはないですけど、あったと思います。

K-PRO ライス

—K-PRO ライブに出ると、環八とどちらに先に出だしたんですか？

塚本：環八のほうがずっと古いです。K-PROさんは事務所ライブを見てくれて、若武者ライブを立ち上げる時に声をかけてくれた感じです。

—じゃあ環八は大事な要素なんですね。

塚本：ネタ以外の平場の練習になりました。環八でのぼくらはいつもと違います。第一回でパンツ一丁になりました。

溜口：前回はすっぽんぽんになりました。お笑いに馴染めてない頃に出だしたので、このライブなんだろう？って思いました。ASH & Dと違うよって。

—ちなみに K-PRO に出ている芸人さんもどこか雰囲気似てくる感じがします。

塚本：そういうところはあるかもしれません。

溜口：僕たちは自分たちのイメージがどう見られてるかも気になります。知って武器にしたいので。K-PRO では先輩に恵まれますね。(突然塚本さんに)二人っきりで一緒に遊ぶなら誰がいい？

塚本：誰だろう？何この話？阿諏訪さんかなー。一緒にネタ書こうかって話もしたことあります。

溜口：俺は飛永さんかな。仲いいし。

キングオブコント

—キングオブコントの一回戦二回戦で短い尺のネタをやるのはどうですか？

溜口：きついですよ。

—二回戦、その日一番じゃないかというくらいウケてましたよね。

溜口：そんなことないですよー。

—三回戦が勝負ですね。

溜口：去年は三回戦止まりでしたから。



—二回戦で「校歌」をやったと聞いた時はびっくりしました。やるとは思わなかったので。結構勝負に出たなと思いました。

溜口：そうですか？

—歌ネタは正当派じゃないと思われることもあるじゃないですか。

溜口：結果攻めちゃった感じですか？うちの3分のネタはあれしかないからやったんですけど。あれやってかっこいいって言われた意味が分からなかったです。

—他の組とは違うという意思表示かと思いましたよ。

溜口：うちの的には置きにいったというか、今確実にウケるネタをやっただけです。

—あれを作る機会になったトン子(ライブ)でやったネタ三本はどれもすごかったです。

塚本：ただの歌ネタだろと思われないうちに、ウケないといけないと思いました。

溜口：今年のキングオブコントは面白いですね。皆仲いい人が準決勝いったらいいな。

—そうですね。シーンの若返りがあつたらいいですよ。

溜口：K-PROの皆がいったらいいですよ。

セルフプロデュース

—主催ライブをやりたいという意思はありますか？

塚本：やりたいですけど。

溜口：まだその段階じゃないかなとは思いますが。今色々あるユニットに混じるのもちょっとちがうかなと。徐々に成長して、実現していきたいです。

塚本：今は誘われたら出てはいますが。

溜口：戦略を考えたりセルフプロデュースするのは僕の役目なんで色々考えています。僕がラブレターズのリーダーなんで。肩書きが欲しかったんです。

塚本：リーダー（溜口）とリーダー以外全部やってる（塚本）って感じです（笑）。

—今はセルフプロデュースの時代ですよ。

溜口：塚本の書きたいネタと、うちらが見られているイメージが、そこでぶつかるかもしれないです。吉本さんみたいに大きな事務所じゃないので、余計色々考えないといけないと思います。うちの事務所のブランドを生かさせて頂くというか。慎重にやっていきたいです。

—お笑いをやりつつ、お笑いだけじゃないという感じでしょうか？

溜口：バランスをとってやっていきたいです。

塚本：いつどうやって頭一つ抜けるかの戦略は練りたいですね。相方のほうが考えてるとは思いますが。

溜口：ライブ毎に戦略を考えますね。

—今すぐではなくとも、一緒にやってみたい方がいたら教えて下さい。

溜口：（吉本の）グランジさんとかいいなあ。

塚本：色々な人とやってみたいですね。吉本さんとも。

溜口：吉本のライブも出てみたいなー。

塚本：色々な事務所のライブに出てみたいです。うしろシティさんともやってみたいし、グランジさんみたいなぶっとんだ人もやってみたい。フラミンゴさんとかもいいですね。ジグザグジギーとも何かやれないかなとずっと考えてます。

溜口：三四郎ともやりたいて言ってたよね。

塚本：浜口浜村もいいですね。4人並んだらどうなるのかなって。不思議な方たちですし、面白いです。まだ時間はかかると思いますが色々やりたいては思っています。相方がGOサイン出したら！

単独ライブ LOVELETTERZ MADE

—単独ライブについて聞かせて下さい。すばらしかったです。コレドシアターは変わった劇場でしたね。

溜口：もともとは社長が見つめてきたんです。うちらは正直な話、普通の劇場でやりたかったです。

塚本：演出もどうできるのか自信がなかったので。

溜口：初めてでしたし。でもよく考えたら他の芸人さんと差をつけるチャンスだと思いました。

塚本：この劇場を上手く使えたらいいなと。

溜口：成功したかは分からないですけど、ラブレターズはこういうことをやってるっていう発信になればいいなと。初単独以外にも色々意味があったと思います。自分達の存在をアピールできたかな。

—真ん中に机と椅子が置いてあって、その前後に客席があるという構造は相当インパクトがありました。劇場に入ってすぐのところにバーがあるのも驚きましたし。

溜口：入っていきなり何ここ？って思いますよね。

—双方向から見せるのは滅多にないですよ。全部見えてますし。

塚本：正面がないのが今までとは違うので、それは大きかったですよね。

溜口：いきなりここかって思ったよねー(笑)。

塚本：まじかってね。僕ら最初に見に行ったときポルトガルのフリーマーケットとかやってたんですよ。イベントスペースで(笑)。やりきるしかないの、やりきりました。

—正面がないから気を使った事はありますか？

塚本：表情が見えないんですよ。横顔になりますし、後頭部もすぐ見えてしまう。ウケるのかって心配に思いました。

—客同士もお互いが見えているので緊張してましたね。

溜口：最終日は大竹まことさんが来て下さったので、客席がそわそわしてました。

塚本：ポケる度に大竹さんをお客さんが見て

ましたね。その後一応ダメ出し頂いて、打ち上げで焼き肉をご馳走してもらいました。

溜口：緊張してたし、いい肉すぎて全然味わからなかったです。

塚本：めちゃくちゃ良かったけど、訳が分からなかったです。

—地震で初単独ライブが流れちゃいましたが、一回目とは内容が違うんですか？

塚本：全然ちがいます。

溜口：将来的には初単独をやり直すというか、ベストライブとしてやりたいですね。ネタは違うかもしれませんが。

—ほんとにすごくおしゃれな場所でしたね。単独全体の構成もスタイリッシュに作るつもりだったんでしょうか。

塚本：普通の場所じゃないので、他の芸人さんと違うものにしようとは思いました。ああいうバーが併設された特殊な場所だったので、おしゃれさはあった方がいいなとは最初は思ってましたが、劇場がおしゃれだから、中身は自分で好きにやればいいかなと。でもあの劇場が普段お笑いで使わない場所なんで色々な弊害が出てきてしまったんですよ。それをちょっとおしゃれで隠そうかと思いました。おしゃれ隠し、おしゃれで埋めてったら、結果えらいおしゃれになっちゃいました(笑)。

—場所のメリットデメリットをうまく利用したんですね。すごく器用ですよ。

溜口：セルフプロデュースしてるとか言って、おしゃれ隠しとかいうと全部計算みたいに見えないかな。ちょっと恥ずかしくなってきた。

—あはは。パソコンを客前で操作するのも狙いですか？

塚本：あれは裏で出来ないというのが分かってあなりました。じゃあ見せちゃおうと。王子小劇場でやったライブも制約があって幕間の着替えを舞台上で見せることになってあなりました。(舞台上に衣装や小道具がずらっと並べられ、幕間にはしぼった照明の中で客席に背を向けて着替えるという演出があった。)

—あれはすごくよかったです。パフォーマーとしての身体に色気がありました。

塚本：相方がぼちゃっとしてて大丈夫かと心配しましたけど。

—溜口さんのそういう親しみやすさも魅力だと思いました。本当に演出力がありますね。頑固さはあっても、場所に合わせてスタイルを変えたりという柔軟さがすばらしいですよ。

塚本：ASH & Dはおしゃれイメージがある

んですけど、そこにひっぱられすぎるのもどうかと思います。うちらそういう感じじゃないので。

—おしゃれさとキャラクターとのギャップが良い部分もありましたね。でも単純にオープニングの映像などがすごく質が高くて、場の雰囲気酔える感じでした。映像はどなたがやられたんですか？細かく発注されたんでしょうか。

塚本：大学で同期だった同い年の同居人を作ってもらいました。同居人はおしゃれなんですよ。

—単独では、ありネタと新ネタを組み合わせたショーケース的なものをやろうとされたんですか？

塚本：色々今までやってきたのを入れ込んでみました。単独は二種類に分かれると思います。独立したネタが面白いのと、全体を通して面白いパターン。僕らは後者だったんじゃないかと思います。1時間通して一



つの作品というか。ああいう不思議な空間に1時間ちょっといてもらえれば。

— オール新ネタではない中で世界感作るの難しくなかったですか？

塚本：今までやってきたネタを入れ込んでいく中で、ギクシャクする部分が出ちゃうかと思いましたが、無理矢理弄った方がいいかなとか葛藤しましたね。単独は三回やりましたが、全部変えました。

— 大学時代の生活が反映されたネタが面白かったです。

溜口：あこがれでしょ？

塚本：あんなの憧れてないよ！僕らが経験できなかったことを大人になってから経験しようとは思ったかな。当時持ってた“なんだよこれ”という感覚は大事にしています。村上隆読んでるアピールするなよとか、なんで用もないのに学食いくんだよ！とか(笑)。でも二人でこれは絶対いいと思ったのはウケなかったんです。幕間で使った「女子はまとまって平日にディズニーランドに行く」っていうあるあるは全開ですべりました。

— そんなにディズニーランド行かないですよ？

塚本：偏見を偏見でかぶせたんですよ。同居人にもウケないって言われましたけど。

— ネタ作る際に季節感を意識されてるって聞きました。

塚本：なんかいいじゃないですか。ネタをかける機会が限定されちゃうんですけど。でもなんかいいじゃないですか(笑)。パレインデーだけでやったネタとかもあり

ます。折角だし。

— スペシャル感があっていいですね。ネタは量産というよりじっくり作って練っていく感じですか。単独を見ていて、全体の流れを感じたんですけど、時間の流れが今から大学生という過去へ行って、子供時代に行くという構成が不思議な感じでした。最後のネタは泣きました。

塚本：他のネタは順番を変えましたが、最後のネタはずっと最後にやりました。

— あれはすごいです。笑ってるのに泣いてるっていう表現。

塚本：今の若手芸人であれができるのは相方だけです。

— 感動させるのは難しいですよ。しかも笑った後に。

塚本：お前だからできるんだよ。

溜口：やめるよー(照)。

— 最後に泣いてるところを見せないところにぐっときました。演出がすばらしかったです。

塚本：そう言っていたらよかったです。

— 感動をネタで生むのは難しいですよ。いやらしくならないようにするのも難しそうですし。

塚本：不安はありましたけどね。ド直球なコントではないものなので。でもやってみたかったんです。普通のライブなら笑いで終わった方がいいんですけど、チャレンジで泣きで終わったらどうなるかを試してみたかった。相方の演技も見せたかったし。環

八でしかやってなかったネタです。

—ネタを書く際に、最後に残る感情を考えてらっしゃるんですか？何を描きたいかということに関してのこだわりはどこにあるんでしょうか？

塚本：感情に関してはありますね。ネタによって違いますけど、一番意識しているのは、他の芸人さんを見た後には残らない不思議な感覚が、自分達の色として残ればいいなと思っています。

—それは大成功でしたよね！感情がゆさぶられます。なかなかできないことだと思います。意図が見えすぎても失敗になってしまいますから。

塚本：相方がいないとできないですから（真顔で）。次をどうするか分からないですけどね。壊しちゃうかもしれないですし。

—楽しみです。感動のイメージがつきすぎるのも本意ではないんですね。

塚本：あまり決まらない方がいいとは思っています。

これからのこと

—今後の目標を聞かせて下さい。

塚本：この間の大竹まことさんのゴールデンラジオでも言ったんですが、去年くらいまでは毎年毎年こういう風になっていこうとこのを考えていたんですが、今のところ達成してきているんです。割とここまでスピードがある感じで来ているので、5年後を想像するのは恐いんです。

溜口：ストップかかるんじゃないかなと思ったり。近くに予定されているライブを頑張

ろうとは思いますが。キングオブコントの決勝に行きたいとか。

—今やってることでここだけは続けたいというようなこだわりはありますか？

塚本：ライブで圧倒的にウケたいというのがあります。ウケやインパクトで圧倒的になりたいですし、コントはやり続けたいです。

—コントをやるということが続けている中で大きくなってきているんですね。

溜口：今の仲間から飛び抜きたいという目標はあります。「ラブレターズも出てるからライブに行こう」じゃなくて、「ラブレターズを見にライブに行こう」と思って欲しいです。ブランドを確立したい、圧倒的になりたいというのはそういうことです。

塚本：単独は他の方とは違う、どうしても見に行きたいものにしたいと思います。僕、将来は童話を書きたいです。

溜口：絵本？

塚本：絵はへたなんで、童話です。

—塚本さんは分かりやすく面白いネタを書かれるので、童話を書きたいという話を伺ってどうしてそういうものを描けるのかということに関して腑に落ちました。童話に描かれる感情ってピュアなので、ラブレターズさんのネタを見て感じる感情と通じるものがあると思いました。童話という普遍的な物語を書くという意識と通じているんですね。将来楽しみです。きっと叶いますよ。

塚本：人生経験を積んで40～50歳になってから書きたいです。童話とコントが書きたいです！

——マルチな活躍を期待します。今そういう方多いです。

塚本：書く仕事はしたいです。

溜口：塚本の仕事が増えればいいです。僕は人間国宝になります！紫綬褒章！

——期待しています（笑）。ありがとうございました。



（後日、キングオブコントの決勝進出が決定した後に、簡単に意気込みを伺った。）

塚本：なるべく緊張しないでやりたいですね。

溜口：普段通りにできるようにがんばります！

塚本：全然面白くないけど平気かな？でもそれしかないんで、がんばります！



このインタビューはキングオブコントの二回戦が終わってすぐ収録させて頂いた。その時にキングオブコントの決勝に行きたいなどと冗談まじりにおっしゃっていたのだが、それが実現してしまったのだから、なんともすごい！そして塚本さんのネタを書く才能と、溜口さんの演技者としての才能がぶつかる様が彼らの面白さの根本にあるのだなと改めて思った。本当にキングオブコントの決勝では、是非一番の若手として爪痕を残して欲しいと切に願う。きっと彼らが活躍する事で、ライブシーン全体が盛り上がり次へつながるはずだから。がんばれ！ラブレターズ！

キングオブコント2011特集
見守るしかできない



これをお読みになっているようなお笑いファンの皆様であれば、面白さよりもまず緊張感に押し潰されそうになるという経験をお持ちの方も多いでしょう。そんな極限の舞台をひたすらに楽しく賑やかなものにしてくれるであろうと思っているコンビがいます。それが2700です。

「演奏」を担当する八十島と「ダンス」担当のツネ、最近ではテレビでも彼らのリズムネタを目にすることができます。何度か見ただけで頭から離れなくなってしまう独特の動きとメロディはとても印象的なものです。よく見たらキレがいいだけで単純な動きの繰り返しですし、歌詞にも大した意味はありません。そもそもコントなのか漫才なのかも良く分かりません。それでも延々見ていたくなってしまうのが彼らのすごいところです。



決勝ではもしかしたらリズムネタではないかもしれませんが、やはり彼らの代表作とも言えるものだと思いますので、今回はリズムネタに特化して紹介させて頂きたいと思います。

しっかりした伏線やストーリー性、どんでん返し、予想外のオチ。良く出来ていると評価されるコントの多くにはこういった要素が含まれています。2700のコントにこれらがあるかと言えば、ないでしょう。展開といっても「小中高といろいろ習ったけどこのダンスをしています」とか、「トゥルトゥルンって言っている口を『イ』にするとティリンティリンになりました。驚き！」とかその程度のものです。書き出してみたものの意味が分からない。彼らのネタって基本的にはこんな感じです。それでもわたしには彼らのネタは「良く出来ている」と思えるのです。お腹が痛くなるほど面白いのです。それは、とても単純でくだらないことを全力でやりきっており、その結果謎の完成度の高さを見せるからではないかと思います。

では、どこを見れば彼らの「全力のくだらなさ」を存分に楽しむことができるのか。それは、彼らの表情です。

動きやメロディに気を取られがちですが、実は彼らはとても表情が豊かなのです。踊っているツネさんのみならず、演奏している八十島さんまでもしっかり顔を作っています。先ほど「意味が分からない」と紹介した展開にも表情が伴う。オーバーなぐらいしっかりと顔で演技をしているのがおかしくて仕方ないのです。別にストーリーがあるわけじゃなし、手を抜いても良さそうな

ものですが、彼らのこの顔が常に「全力」なため、くだらなさを増長し、完成度を高めているのだらうと思います。

深く考える必要はないのです。彼らの提供してくれる底抜けの明るさに全力で乗っかることが大切です。例えば、何だか疲れているなあという自覚があるとき。頭が働かないなあというとき。そんなときは頭をからっぽにして2700を見てみましょう。そうですね、できれば3本ぐらい一気に見てみるといい。そうすればいつの間にかニヤニヤしている自分に気付くはずです。やったね！

これがわたしなりの「2700の正しい使い方」です。他にも、ずっと歌っている割にはあまり上手くない八十島さんの歌唱力であるとか、客席を煽るツネさんの動きであるとか、細かいところに注目すればするほどより彼らのネタを楽しむことができるのではないのでしょうか。

KOC第一回大会の決勝ではなかなか寂しい結果に終わった2700ですが、ここ数年でくだらなさも勢いもどんどんレベルアップしていますし、自分たちのネタだけでなく、ライブやコーナーそのものを盛り上げることに大変一生懸命になるコンビです。見切り発車の謎のくだりやしつこい絡みにハラハラさせられたり脱力させられたりすることも少なくはないのですが、それらも全てコンビ揃ってサービス精神の強い2700だからこそ。彼らのいる決勝は、きっと楽しいものになることでしょう。しっかり準備体操と発声練習をして、のびのびと戦ってきて欲しいなあと思っています。

(イラスト：かじ@h_kaji)

「トン子」が生んだ奇跡のコント『校歌斉唱』@ラブレターズ～お笑い大好きトン子ちゃんが集めたコント師による、コントオンリーのコントライブ～：はたはた(@kremomosnow)

2011年3月30日、東京は中野にある、なかの芸能小劇場で「トン子」というライブがあった。内容は副題にもあるように『お笑い大好きトン子ちゃんが集めたコント師による、コントオンリーのコントライブ』。2011年9月現在、2回開催されている。

…まあ簡単に言うと、かもめんたる岩崎う大さんの奇才な脳内を垣間見ることが出来る、とても面白いコントライブです。1回目と2回目（以下、vol.1・vol.2）ではちょっと内容も違いました。（ちなみにこのトン子ちゃんというのは、一応「影でこのライブを仕切るお笑い好きな謎の女の子」なのですが、要はあれです、う大さんです（笑）。秘密だよ！）

ふと、私がこのライブに足を運んだのも奇跡だったなあなんて思ったり。震災でライブが軒並み中止になったり、毎日の生活も大きく様変わりしている中、なんとなくライブを見て笑いたい気分になったのかもしれませんが。だってこのとき、まだ私は出演者の誰もそこまで追っかけようと思っていないくらいフラットな状態だったんですもん。今から出演者書いたら「嘘だ！」って言われそうだけど、本当なんだから！

さて、この「トン子 vol.1」の出演者はというと、まず主催者である（トン子ちゃんは置いて）、かもめんたる。それからゲストとして、ジンカーズ・わらふぢなるお・うしろシティ・ツィンテル・ラブレターズという顔ぶれでした。今思うと豪華！というか私の好きな人たちばかり！けどこの時の私は、強いて言うならうしろシティが見たいなって思うくらいで、あとは特に思い入れはなかったんです。いやホントに。

実際にどのようなライブだったかを振り返ると、vol.1は、通常コント2本と、3日前に各コンビごとにお題を与えられ、オチ台詞は当日舞台上でくじで引いて決定というコント1本。各コンビ計3本のコントをやる、というものでした。

そしてこのライブが終わった時、私はラブレターズのポテンシャルの高さと、ツィンテルの面白さに興奮していました。ここからですよK-PR0ライブに通い始めたり、ツィンテルを好きになったのは。だから私がよしもと以外の劇場に足を運ぶことになった一番のキッカケは、この「トン子」なんだと思います。

それではライブ内容を思い出してみるとしましょう。今回はK0C特集として書いてるので、ラブレターズを中心にいってみましょかね。タイトルにしちゃったし☆

ラブレターズが今年のK0Cに決勝へ進んだとき、やった！という喜びとともに、行きそうな気がし

ていた、という気持ちもあったのです。それはなぜか。彼らが2回戦で「校歌斉唱」のネタをやったと聞いたから。

実は「校歌斉唱」のネタは、この「トン子」というライブで生まれたものだったんです。先にライブの内容を書きましたが、このネタは【3日前にお題を与えられ、オチ台詞は当日舞台上でくじで引いて決定】したコント。つまり“「トン子」のために急遽作ったネタ”だったんですよね。能動的なものではなく、受動的に生み出されたものだったんです。

ラブレターズに与えられたお題は「歌ネタ」。オチ台詞は「ストレートパーマかけ直せよ！」でした。今はさすがにこの何の脈絡もないオチ台詞はなくなっていますが、この時作られた歌ネタ「校歌斉唱」はラブレターズの飛び道具として、「トン子」を見たファンから絶賛され、ネット上で語り継がれ、まだ見ぬファンたちに待ち焦がれられるコントとなったのです。正直、コントとっていいのかよくわからないこのネタは、もう二度と日の目を浴びることはないのではないかとすら思っていました。だってこの時は舞台袖に歌詞のカンペを貼ってやってるくらいの、本当に即席コントだったんです。

けどそんなある日、毎月最終金曜日に渋谷ラママで行われている伝説のコントライブ「新人ラママコント大会」にコーラスラインで出ていたラブレターズが「校歌斉唱」を披露して大爆笑をかささらっていたと聞き、私は胸が躍りました。また見るチャンスがあるんだ！と。

それからというもの、ラブレターズは度々「校歌斉唱」のネタをライブでかけていました。私も何回かライブで見る機会がありましたが、これをやってウケを取っていない時は一度もありませんでした。けどコントとしてはかなりの飛び道具。これをまさかKOCの賞レースにかけてくるなんてことはしないだろう、と思っていたのです。彼らには他にもストーリー性のある素晴らしいコントがたくさんありますから。

そしたら、まさかまさかの2回戦でかけた。驚きました。編集鳥であるぴっぴさんとも「ラブレターズ、仕掛けたね（ニヤリ）。」と話し、「これもしかしたらラブレターズ行くかもしれない。あのネタをこの舞台でかけられるなんて、波が来ている気がする！」ときゃっきゃと盛り上がりました。思わずお2人にもインタビューの時に言うくらいにはテンションが上がりましたね。

そして準決勝。KOCの中でも最も厳しい過酷な戦いの中、彼らはこのネタで勝負しました。結果は、見事決勝進出。彼らはトン子ちゃんに与えられたお題に答えるべく作ったコントで、奇跡を起こしたのです。このコントの面白さは彼らの純朴そうな見た目とコント内容とのギャップだと思うので、そこをチョイスしたのはもちろんセンスということになりますが、「トン子」がなければきっとこのコントは生まれていなかったと思います。

そんな奇跡を生み出したライブ「トン子」。これにもちょっと触れたいと思います。このライブの一番の見所は、なんとと言っても“かもめんたるう大さんの発想力の素晴らしさ”だと思います。2回見て思った感想は、あんなの凡人には思いつかない！ということ。それを一言で言った「狂ってる」になっちゃうんですけど、とにかくう大さんの才能をいかに発揮しているライブだと思います。出演者がvol.1よりもvol.2のほうが多く、そして豪華だということもすごいと思いますし、このライブではちょっとしたオープニングコントやエンディングコントのようなものがあるのですが、それがもうなんか、すごいんです。出ている演者さんですら「う大さんの言ってることが理解できない」と言うくらい、う大ワールド炸裂。

Vol.2でのオープニングコントでは、ジンカーズらがオープニングトークをしているところに他の芸人さんたちが後ろをバタバタ走り抜けたり、う大さんがニヤニヤしながらうろついたり、よくわからない動きを芸人さんそれぞれがしていき、最後は何故かムートン島田さんが出て来てオトす、っていう…とにかく全然意味がわからなかったんです（笑）。

実はう大さんがこのコントで表現したかったもの、それは「夢」。寝てる時に見る、あの夢です。う大さん曰く「ライブに来てる夢みたら、こんな感じかなあって。夢を見てもらったの」。…ああもうわけわかんない！と思っていたところに、う大さんが放った名言「…僕はみなさんに初体験をしてもらいたかったんです！」これには爆笑しました。

以前、かもめんたるの単独を見た感想をう大さんがツイッターを始めたときに伝えたんですが、そのお返事で「僕はコント中にお客さんを別の世界に連れて行きたいと思っています」って返ってきたんですね。まさに「トン子」のオープニングコントで連れて行かれましたよ。見たことない世界に。初体験でした（笑）。

余談ですがvol.1の時、最後に「握手会」がありました。全員ちゃんとスーツに着替えて、長机を用意して、全員横一列に整列して。結局壮大なミニコントだったわけで、空気を読んだお客さんは壇上には上りませんが（笑）。その時スーツ姿のラブレターズ溜口さんが「俺これちょうカッコイイでしょー！」と子どものようなキメポーズをしていて、それに対して放ったう大さんの一言が「…成人式でこういう奴いるよね」。これも本当にう大さんの淡々とした言い方で言われるとおかしくて。文字で伝えられないのがもどかしい！（是非一度Podcastで毎週配信されている[“ラジオかもめんたる”](#)を聴いてみてください。う大さんの発する言葉の面白さが伝わります。）

「トン子」。ここから奇跡が生まれたのは、きっと出ていたコント師のみなさんが本当にコントが好きで、全てのコントを楽しんでいたからに他ならないでしょう。きっとこれからもこのライブは続くと思います。是非、次の時代の目撃者になるべく、足を運んでみてください！

というわけで、なんだかふわっとした記事になってしまいましたが、今回のKOCはラブレターズが

今までのKOCとは違う何かを見せてくれるのではないかと期待しています。もちろんその期待のひとつは「校歌斉唱」をやってくれるのかどうか！
みなさまも9/23はテレビの前で、楽しみましょう！

がんばれ！ラブレターズ！

群雄割拠のお笑い界。

その戦いのメイン舞台となる賞レース。

M-1、R-1、オンバトのチャンピオン大会、その他様々なコンクールや漫才大賞などがありますが、中でも私が一番好きな賞レースはキングオブコント（KOC）です。好きな賞レース、だなんて、ちょっと変な言葉かもしれませんが。賞レースなんてみんな同じようなものなのに、好き嫌いがあるの？って。確かにそう思うのが自然だと思います。逆に言うと、みんな同じではなく、ちょっと特殊だからこそKOCが好きなのです。今回はこの機会を頂いて、私が考えるKOCという大会自体の魅力についてお話をさせて頂けたらと思っております。

この雑誌を読まれている方にはもう周知の事実だと思いますが、一応整理させていただきます。キングオブコントは、2008年から始まった賞レースで、今年で4年目。大きな特徴といえば、やはりその審査方法ですね。今までの賞レースでは、審査をするのは、大御所・師匠クラスの芸人さん方。しかしKOCで審査するのは、準決勝まで進出した、同じ大会に出ていたライバル達。芸人さんたちが、自分たちと同世代の芸人さんたちを審査する。私はここに、すごく大きな魅力を感じています。以前、ぴっぴさんがツイッターでおっしゃっていたことがありました。M-1は独裁的、KOCは民主的といえるのではないかと。私はそのつぶやきを拝見した時に、ああ、これだ！と思いました。私がKOCを好きな理由は、ここにあるのかと。

M-1は、島田紳介という強力な存在と、松本仁志をはじめとする名だたる大御所芸人さんが引っ張ってきた、独裁的な体制。権力を持ったお上から選ばれる、という体制。もちろん、その方々のネームバリューがあったからこそ、M-1があれほど大きく、権威のあり、注目される大会になったことは間違いないと思います。対してKOCは、M-1の真逆を行っているのではないかと思います。誰か上の人に決められるのではない。自分達の中で面白いと思う人達を、自分達で決めていく。そこには、年齢も、芸歴も、事務所も、何も関係ない。某党の代表選のような、派閥争いも思惑も心理戦も、何も存在しない。これこそが、新時代のリーダー選びのあるべき姿なのではないかと思うのです。妥協ではない、うわべでもない。真の、満場一致のリーダー選びの姿がここにあるような気がしています。

今までのKOCの中で、私が大好きなシーンが二つあります。一つは、09年の、東京03の2本目のネタ終わり。ものすごいウケで、どかんどかんと会場も盛り上がった後、審査員席に向けられたカメラは、どれも芸人さん達の素敵な笑顔を映しだしていました。あの審査員席にいるのは、準決勝で負けてしまった芸人さん達。本当は自分達も、舞台上にいたはずだと思えます。悔しい思いをしているはずだと思えます。それでも、あの瞬間は、みんな心から笑っていた。みんないい表情でした。ここに、KOCの魅力を感じました。純粋に面白いネタをした人達が、純粋に認め

られるのだということを感じられたから。そして、本当に満場一致で、新しいリーダーが誕生した瞬間に立ち会えた気がしたのです。

もう一つは、10年の、キングオブコメディの1本目のネタが始まる前の紹介VTR。キンコメが今までツイてないコンビだと紹介された後、高橋さんが語ります。

「そうですね…親父が借金を作って……」

この話、お客さんはドン引きしていて全く声が聞こえてこないのに、審査員席の芸人勢は爆笑（笑）。きっとこのVTR作った方は、ここまで芸人勢が笑うと思っていたらしゃらなかったんじゃないでしょうか（笑）。私はこの瞬間、ああ、芸人さんっていいなあって思いました。大変だったことも、つらかったことも、全部笑いに変えてしまう。過酷な職業かもしれないけれど、芸人さん達はこうやって、どんなことでも笑いというパワーにして乗り越えてきたように感じています。そして、笑いの起こらなかった客席の様子を聞くにつけ、その思いを共有しているのは、あの審査員席にいる人達だけなんだろうなあ、とも。

私は今年、準決勝2日目を見に行きました。そして決勝進出者8組の名前を見て、本当になんと表現したらいいのでしょうか…しびれました。ネームバリューなんて関係ない。正真正銘、その日にウケたかどうかだ。賞レースって、すごくシビアな世界。でもそれと同時に、すごく夢のある世界だなということも、改めて感じました。

今年はどんなリーダーが誕生するのかが、そして、審査員席の芸人さんたちの笑顔を見るのが、本当に楽しみです。

大手検索サイト「google」の検索窓にキーワードを入力すると、続けてそのキーワードに関連する言葉が並ぶようになってくる。例えば【ラーメン】と入力すると、【ラーメン二郎】【ラーメン博物館】【ラーメンランキング】などの言葉が、その後には並ぶ。利用者が次に入れるだろう言葉を先に提示して、検索しやすいようにしようという魂胆なのだろう。だが、それら提示される関連キーワードとはまったく関係のない言葉を打ちこもうとすると、この機能はまるで無意味だ。むしろ、ジャマにすら感じられる。

しかし、ごく稀に、それら関連キーワードを眺めていて、新しい発見が得られることもある。例えば、ある特定の人物について調べようと、その名前を入力すると、意外な関連キーワードが提示されることがある。個人の主観では得られなかったであろう情報が、それによって得られるケースもあるということだ。また、関連キーワードを見れば、入力していたキーワードが今、どういう側面から注目を集めているのかが分かったりもする。余計に感じられるものでも、目線を変えれば実に楽しいものになるということなのだろうか。

さて、ここで「google」の検索窓に、あるお笑いコンビの名前を入力してみる。すると、関連キーワードの一つに【つまらない】という単語が出てくる。この状況に対して、あまり違和感を覚えられない人も少なくないのかもしれない。何故なら、多くの人が利用するインターネット上で、お笑い芸人は批判の対象となりやすいからだ。彼らがどんなに真剣になってバラエティ番組を支えていても、見る人によっては「ただ遊んでしゃいでいるだけ」と捉えられる。番組の演出でやっていることも、個人によるスタンドプレーだと思われて非難される。それは芸人に限らず、テレビに出演している人間なら誰もが背負わされる有名税の様なものだ。つまり、この様に【つまらない】などと検索されて、何処からか同意見を拾ってこようという人が出てくることも、仕方のないことなのである。

とはいえ、彼らがそのような扱いを受けているという点において、僕は些か疑問を感じずにはいられない。何故ならば、バラエティ番組での立ち振る舞いはともかくとして、少なくとも彼らのコントはここ数年のお笑いにおいて非常に目新しく、また実に挑戦的であったからだ。それらのコントが、凡百の視聴者によって「つまらない！」と一刀両断にされる状況を、僕は芳しいとはとても思えない。いや、はっきり言って、口惜しい。だから今、僕は彼らについて書かなくてはならないと思う。

そう、関西からやってきたコントの風雲児、ジャルジャルについて。

ジャルジャルは大阪府出身の後藤淳平と兵庫県出身の福德秀介によって、2003年に結成された。NSC大阪校の25期生に当たり、同期にはプラスマイナス、銀シャリなどがいる。他に類を見ない

スタイルのコント職人として大阪を中心に活動していたが、2007年に「爆笑レッドカーペット」への出演を果たす。その後も数回に渡って出演し続け、じわじわとその存在が全国に認知されていく。翌年の2008年に「THE THREE THEATER（後に「爆笑レッドシアター」）」のレギュラーの座を獲得。2010年に井筒和幸監督作品『ヒーローショー』にW主演、注目を集めた。同年、「めちゃ×2イケてるッ！」が行った新メンバーオーディションに合格し、レギュラーとなった。現在は全国区・関西ローカルの番組を問わず、精力的に活動している。

個人的な印象だが、彼らが「つまらない」などと声高に言われるようになったのは、「めちゃ×2イケてるッ！」へのレギュラー出演が決まって以降のことだったように思う。少なくとも、それ以前にはそこまで彼らが叩かれている印象はなかった。しかし、考えてみれば、それは仕方のないことなのかもしれない。もはやベテランと称しても過言ではないメンバーが揃う同番組に、いきなり結成十年にも満たない若手が飛び込んできたのだ。それも、同局で放送されていた若手番組にレギュラー出演していた若手が、である。まだまだ年功序列と横並び思想が根強い日本において、彼らに対する多少の拒否反応が生じても致し方のないことだろう。……何にしろ、それまで培われてきた芸の評価を一刀両断されては困るのだが。

以下、本題に移る。

ジャルジャルのネタに総じて言えるのは、とにかく「くだい」「しつこい」ことだ。一本のコントの中で、同じ言い回し・同じやり取りを、何度も何度も何度も何度も繰り返す。彼らが「キングオブコント2010」決勝の舞台上で披露したコント『おばはん』は、まさにその典型ともいえるコントだろう。バス停でバスを待ち続けている中年女性（後藤）に、不良学生（福德）が「おばはん」とからかう。ただ、それだけ。一見すると、それ以上は何も展開していないように見える。そのシンプルすぎる内容に、手抜きだと批判する人も少なくなかった。……が、それはまったく的外れな考察だ。むしろ、その内容がシンプル過ぎるが故に、『おばはん』の構成は精密に組み立てられている。

まず、バス停でバスを待ち続けている中年女性に、不良学生が「おばはん」とからかい始めるくだり。この時点では、まだ状況は日常のそれを逸していない。今日も何処かで行われているだろう、実に当たり前の風景だ。しかし、観客は少しずつ、その状況の異変に気付き始める。「おばはん」とからかい続ける不良学生が、その次の段階に進まないからだ。観客に遅れて、中年女性もその異変に気付く。そしてつぶやいた一言が「なんや、この状況は！」。中年女性と同じ気持ちになっている観客は、ここでワッと盛り上がる。続けて「家帰って、このことどう説明したらいいの！」と口にして、更に観客の同意を得る。……と、実はここまでが前フリとなっている。

この時点で、観客は『おばはん』を「不良が中年女性に「おばはん！」とからかい続けるコント」として認識する。事実、ここまでに不良が取っている行動は奇妙ではあるが、それはあく

までも「中年女性をからかう」という枠の中に収まった行為だ。しかし、そう認識させることこそが、彼らの思惑なのである。ここから、ただただ中年女性に「おばは一ん！」と言い続けていた不良が、それまでとは少し違った行動を取り始める。タクシーを止めて運転手に「おばは一ん！」、中年女性を指差しながら誰かに聞かせるように「おばは一ん！」、宴会を盛り上げるかのように「お・ば・はん！お・ば・はん！」、耳元で囁くように「おばはん」……と、どんどん本来の意味から逸脱していく。その奇妙な行動に中年女性も思わず「ヤンキーかな思ったけど、ただの変なヤツやったわ！」と指摘し、観客もそれに同意して笑う。

全体の展開も然ることながら、中年女性が発する台詞の絶妙なタイミングも無視できない要素の一つだ。観客が場の状況を理解した時間（笑いが起きた時間）から少し遅れて、その状態に最適の一言を発する中年女性の台詞は、このコントにおける肝と言っても過言ではない。台詞が出てこなかったり、少しでもタイミングがズレてしまったら、『おばはん』の全てはその瞬間に崩壊してしまうことだろう。手を抜いているどころか、少しの油断も許さないコントなのである。

一見すると、ただただ下らないことをやっているだけにしか見えないのに、そこには綿密な打ち合わせと確固たる笑いの方程式が組み立てられている。それがジャルジャルのコントだ。勿論、そういったお笑いを生み出すスタイル芸人が、過去に存在しなかったわけではない。だが、彼らのそれは、あまりにも研ぎ澄まされている。無駄を完全に削ぎ落とし、剥き出しになった根幹部分に最低限の笑いを配した彼らのコントは、珠玉の一言だ。

『おばはん』の翌年に行われた「キングオブコント2011」では、惜しくも準決勝敗退となった彼ら。しかしきっと、彼らは再び決勝の舞台に戻ってくることだろう。そうじゃなければ、もはや日本のコント界に未来はない。……こともないだろうけど、失望してしまうかもしれない。「ネクストコントジェネレーション」は「ネクストコントレボリューション」になれるのか。ひとまず、来年の「キングオブコント2012」にて、良い結果を残してくれることに期待しよう。

ラブレターズ単独ライブレポ LOVE LETTERZ MADE vol.2 - Punch Line(@punch_line)

芸歴たった3年でキングオブコント決勝に進出したラブレターズ。
彼らのネタはお笑いを見るという気持ちでスタンバイしていた観客の気構えをいつのまにか解凍し、観客誰もがもつ、ノスタルジーや感傷をかきたてる。そしてその感覚が唯一無二だから、お笑いから少しはみだしているから、またあの世界に行ってみたいと思わずにいられないのだ。少なくとも私は。

ラブレターズはAsh & Dコーポレーション所属。東京のライブシーンではその演技力とストーリー性のあるコントで若手随一と言える人気を博している。彼らはぴったり同じ身長162cm。小柄でとても親しみやすい雰囲気。なのに、かわいいなあと思って見ていると、とんでもない突拍子もないキャラクターが飛び出してくるので、度肝を抜かれてしまう。坊主頭の塚本氏が書くシンプルでありながらもちょっと胸締め付けるストーリーを、おそらくは描かれている以上にリアリティをもって溜口氏が自由自在なテンションで演じきる。そのキャラクターは中学生、おじさん、チャラ男と多彩。でもその小柄さゆえか、何をやってもどこかかわいらしく、にもかかわらずとてもエキセントリックだったりするから、見るものは翻弄されてしまう。

私はいつの間にやら彼らの世界感に骨抜きにされてしまっているわけだが、それが決定的になったのは、7月に開催された単独ライブだったように思う。大地震の影響でvol.1が流れてしまったため、なぜか初めての単独ライブはLOVE LETTERZ MADE vol.2と銘打たれていたが、初回とはいえ、彼らの世界を十二分に堪能できる素晴らしいものだったので、彼らがどんなネタをやるか全く知らない人の為に簡単にレポを残しておこう。

この単独ライブは、新ネタとありネタの両方をやる、ラブレターズをお披露目するショーケース的なものであると同時に、全体的に構成を考え抜かれた完成した一つの作品というおもむきもあった。要は一粒で二度おいしい素晴らしいものだったのだ。そしてキングオブコント予選で披露した、あのネタやあのネタを見ることができたので、今となってはとっても贅沢なライブだったと思う。ラブレターズの単独ライブは今年中にまた開催される予定だ。こんな小さくて濃密な空間で彼らのネタを堪能できるのは今だけかもしれない。是非なるべく多くの人に足を運んでほしい。

(注：以下多少ネタバレの要素を含むのでKOC前にネタの情報をいれたくない人は回避推奨。)

ラブレターズ単独ライブ LOVE LETTERZ MADE vol.2
(7月22日~7月24日 @コレドシアター)

オープニング映像

①ピアノのある生活

音楽のライブにも使われることがあるらしい、コレドシアター備え付けのピアノを利用したコント。ピアノがある生活に対する皮肉たっぷり。

②涙の「……」

話題沸騰の校歌ネタ。トン子で生まれたとのこと。くわしくははたはた氏記事参照。

③ follow up study

追試。追試を受けている生徒（塚本）の様子がどうもおかしい。翻弄される教師を溜口が演じる。

④ 超偏見コント

大学時代に輝けなかったラブレターズによる偏見に満ち満ちたコント。楽しげで浅はかな大学生のあるあるをばんばん連発。小柄でちょっと地味目な見ための彼らがチャライ大学生を演じているだけでおかしい。ボタンを押すと背後にあるあるがうつるという仕掛けあり。

幕間V：ネタにおさまらなかった大学生への偏見

⑤ Q&A

異常犯罪者であるサイコパステスト。狂気の人を自然に演じきる溜口氏に脱帽。

幕間V：サイコパスより怖い回答を考えよう。

⑥club 『Vanilla』

偏見コントの大学生がクラブに遊びにきた模様。溜口氏がキレッキレに踊る。そんな特技があったとはと驚く。でもやっぱりさえない感じが拭いきれない。そういう微妙な感じを実にうまく表現。

⑦ 愛を万人に

環八フルスイングでかつておろされた、一部で伝説だったネタ。夏の海を舞台にした少年達の切ないお話。日常と非日常、笑いと涙。色々な相対する要素が自然に盛り込まれた珠玉のネタ！

エンディングトーク

今年はなぜかキングオブコント(以下KOC)がとても楽しみだった。それはもちろん、私が個人的にコントをものすごく好きになっていたからというものもあるが、それ以上にコントが、今の空気であっていたからではないかとも思うのだ。人はきっと物語を、そして笑いを求めていたように感じる。そして、今年決勝に進出したメンバー(トッブリード/TKO/ロバート/ラブレターズ/2700/モンスターエンジン/鬼ヶ島/インパルス)を見ても、新旧入り交じってるとはいえ、明らかに一般的に無名な芸人さん達が増えたことから、ニュージェネレーションの台頭を感じざるをえなかった。

笑いというものは、生身の人間が、生身の人間を相手にするパフォーマンスだからこそ、世相を真っ先に反映すると思う。だから、今年は今まで求められていた笑いと、異質なものがウケるようになった気がした。現実の過酷さに対峙しうる強度のフィクションとしての笑い。観客は笑うということに関して、それはもう底抜けにシンプルで、ばかばかしくて力強い何かをどこかで求めているのかもしれない、と感じた。キングオブコントでなんとなく感じたウケるネタの傾向の違いも、そういうところに起因しているように思うのだ。

今年は本当に色々なことがあった。大きな地震、津波、放射線の漏洩。人の現実に対する認識自体が変わらざるをえないと思うようなことが沢山あった。それまでリアリティを感じていた生活が、いとも簡単に覆されるのを体験したのだ。つまり、認識可能な世界の破壊と構築を身をもって体感してしまった。そうすると、世界をばらばらにして、編み直すような、脱構築の物語はもはや現実に勝てなくなってしまったのかもしれない。コントに関してはその傾向があるようで、現実の世界をばらばらにして、やや不条理にシュールな世界(現実を超えた世界)に編み直す、いわゆるシュールなコント師達は軒並み苦戦していたようだ。例えば、それこそ去年は圧倒的強さを誇った、レッドシアターで活躍したしずる、ジャルジャルなど。彼らはやや不条理で脱構築的なネタをするが、どうも今年にははまらなかった。アンケートで来年に期待を寄せられたリスや犬の心もそうだ。なんとなくネタのクールさが観客に届きづらかったように思う。

私たちの目の前に横たわる世界は、現在あまりにも暴力的だ。だから、それに対抗しうるのは、繊細に構築された世界ではなく、乱暴なほど強引な強い存在感のあるキャラクターや世界感だったのではないだろうか。今年のキングオブコントの決勝に進出した面々を見ても、今回ご協力いただいたアンケートでも寄せられたが、今年はわかりやすいもの、あるいはインパクトの強いものが通りやすかったように思う。もっと言えば、異常な破壊力のあるものが結果として勝負強かった。そして、そういうどこか荒削りでもパワーのある若手達が新しいお笑いの世代として、活躍してくれるのだらうと、淡い期待を抱かせてくれもした。

そして、賞レースには多かれ少なかれつきものの、大人の事情があまり感じられなかったのも新鮮だった。つまりはテレビの人気者だからといって、有利になるということがほとんどなかったように思えた。この大会は夏実さんも言うように実に民主的な大会だ。特に今年からは。だから

こそ、ファンの期待も高まり、決勝進出者が決まってからのファンのボルテージの上がり方もちょっと尋常じゃないくらいだ。本当に、この大会でコントを愛するコント師さんが人気者になることを願うばかりだ。

どうか、面白いコントが、この世界を吹き抜けますように！

ファン座談会

選ばれしヤツラに
付きまとうヤツラ



トップリード：ファン座談会①

(参加者：ぴっぴ.サイノ, はたはた, ちゅちゅ 2011年9月13日)

【トップリードとの出会い】

ぴっぴ：ではトップリード（以下、トップリ）についてお話ししましょう。多分とっぴりクラスタは知ってると思いますがネタリストです。http://www.ningen-concent.com/free_176434/free.html まずは軽くファン歴と自己紹介をお願いしまーす。

サイノ：私は2008年1月に初めてお笑いライブに行ったのですが、その時に観て好きになりました。ネタは「こんな感じの…」です。

ちゅちゅ：トップリードのファンになって半年もたっていない新参者なんですが、トップリードのコント大好きなのでよろしくをお願いします。

ぴっぴ：私はNHK演芸新人大賞ですね。それからじわーっとKPROライブなどで見るようになって好きになった感じですね。私が見たとき、審査委員長の方がトップリードに全く女っぽくない女役で新鮮だというようなことを言われていました。放送にのったか定かじゃないんですが。後で放送でみて、この人たちは生の方が断然面白かったと思いました。テレビだと彼らの動きが追いきれないんですよ。いわゆるライブ芸人さんなのかなと、その時は思いましたね。

はたはた：本誌『fan*fun vol.2』にも記事を書いています。トップリードを知ったのは去年の10月のNHK新人演芸大賞。すごく衝撃的だったのを覚えています。コンパのトイレタイムが初めて見たコントですねー。

サイノ：「コンパのトイレタイム」ですね。良いネタですものねえ。

はたはた：題材自体は珍しいものではないのに。表現の仕方に驚いたというか。コンパの最中はサイレントなのに、マイムで全てが理解できて、かつ面白いという今まで見たことないコントだ！と感動しました。そこからDVDを買って「二日酔い」をすごく好きになりました。でもライブ自体を見るようになったのは年明けからなので今年に入ってからです。

ちゅちゅ：合コンのネタDVDではじめて見たんですが、まさにトップリードって感じで好きです！ほっこり!?オチ!?

サイノ：私が初めて見たのは行列の先頭だったので、風藤松原/フルーツポンチ/快児/イワイガワ/THE GEESE/カルパチーノ/トップリード/フラミンゴ/ラバーガール/ピース/タイムマシーン3号/POISON GIRL BAND/東京ダイナマイト/エレキコミック/東京03/スピードワゴン/2丁拳銃

という面子と一緒に出ていました。どの組もウケてて魅力は発揮していたと思うのですが、その中でも印象に残ったのがTHE GEESEとトップリードでした

ぴっぴ：もう行列の先頭に出てたってことは評判だったんでしょうか？

サイノ：で、『トッパレ』に行くようになってからはもう勝率も高かったんで、その前の年

に『トッパレ』に初登場→優勝だったのでオファーされたのかも知れないですね。

ぴっぴ：へー。行列の先頭はK-PROの児島さんが最も入魂されてるライブらしいですし、結構評判はよかったということでしょうね。(本誌収録インタビュー参照。)

ちゅちゅ：私がおはじめてトップリードを見たのは、確かK-PROプレミアムライブで「泥棒」でした！その後じわじわ気になっていてfan * fun のはたはたさんの記事を読んでDVD 見て一気にハマりました。はたはたさんに感謝です！

ぴっぴ：にしてもトップリードはネタが多いですよ。当時と今って同じのやってることあります？

サイノ：去年までは割と新作中心だったみたいです。『月笑』は必ず新作を下ろしていたみたいですが。で、『トッパレ』にかける。

ぴっぴ：ライブ自体のしぼりですか？

サイノ：自分たちで決めてるみたいです

ちゅちゅ：私もまだまだ追いきれてないので、昔のネタとかやってるのかなぁーと気になります！

ぴっぴ：すごいですね。自分でリズム作ってるんですね。トップリードのネタ量産っぷりはおそろしいくらい！

サイノ：最近はお昔のものもやり直す方向にあるようです。

ちゅちゅ：そうなんですね！8月月笑→9月トッパレも例に漏れずそのパターンでしたね。

ぴっぴ：その中から徐々に勝負ネタを絞り込んで行く感じですか？

ちゅちゅ：ネタリスト見て昔のも気になるの多いので、見たいです！

サイノ：おそらくそうですね。とはいえ、なぜここでこのネタを、というのはファンの勝手な目線ではありまして…

ぴっぴ：トップリードでもそういうことがありますか！なんとなくですが、トップリードはどのネタも熱量が高くて当たり外れがない印象です。質が比較的均等。

サイノ：例えば去年のK0Cでは何人かのファン同士で、「なんでトップリードが落ちるんだよ！」と言っていました。準決勝でかけたネタを知った後に「ああ…まあそれはね…」という。

ぴっぴ：失礼ですが何を？

サイノ：「ヨクルトのおばさん」です。

ぴっぴ：面白いけどなんとなくまったりしてますか？ファンの的には今イチだったんですね。

サイノ：同時期のネタだったら「こんにちは赤ちゃん」が白眉でしたから。

ぴっぴ：なるほど。意外と皆が面白いと思ってるネタをご本人が気に入ってなかったりしますよね。

サイノ：もっともあのネタは決勝用にとっておいたのかもしれませんが。そして気に入るのはファ

ンと違う場合もありますしね。

ちゅちゅ：去年はファンの的にイマイチだったんですね…ファンが好きなネタと本人がかけたいネタの違いどうしてもあるようですね。「こんにちは赤ちゃん」見たことないです見たい！

サイノ：あれは名作です。

ぴっぴ：最近かけてます？ネタ多い人は過去の名作がなかなか見られないのがつらい！

ちゅちゅ：名作！ますます気になります！

サイノ：私は去年の9月に観たのが最後ですね。

【単独ライブと二人の魅力】

ぴっぴ：新妻さんはこれからやる単独のネタも全部できたとおっしゃってました。あのネタの作りっぷりは、ちょっと他に類を見ないタイプですよ。

ちゅちゅ：もう1年やってらっしゃらないんですね。見たいー！

サイノ：去年の単独もベスト版かと思っていたら8本中6本が新作でしたし。「待ち合わせ」と「走馬灯」だけが旧作です。

ぴっぴ：ものすごく良かったと評判ですよ。

サイノ：ものすごく良かったです。ただし私も含めてソフト化されていないが故の記憶の美化はありますのでそこは注意です。

ぴっぴ：あははは。

サイノ：磁石永沢氏と一緒にですね。先に作ってものすごく練習するという。

ぴっぴ：東京コント師さんの伏線でつなげるタイプですか？そういえばジンカーズ馬場さん主催のトークライブ『Baroff』で、昔は脚本なしでやっていたとおっしゃってましたね。今は書きおこすらしいですが。

サイノ：前は、外枠に絵本作家と編集者のやりとりというのがありまして、幕間が絵本の話で、そこからキーワードがコントのタイトルになるという流れです。物販がその絵本でした。

ぴっぴ：おおおお、すてき！しかも絵本というところが、なんだかトップリードの優しい感じにあいますね。

ちゅちゅ：すごい!!もっと早くトップリードを知って前回単独見たかった…

サイノ：DVD化されないと知ったときの絶望感と言ったらもう…

ちゅちゅ：今年の単独も期待です！

ぴっぴ：太田プロってあらかじめ告知してDVD化するんじゃないんですか？不意打ちもあるんですか？

サイノ：そのときは、今回のライブはDVD化されません、と事前に告知があったのです。



ぴっぴ：皆さんのトップリードのここがいい！というのはどこですかね？色々な側面があるとはおもいますが。

サイノ：(勿論ネタによりますが)緻密な脚本とそれを活かす演技ですかね。特に武器としての和賀の強力さは突出していると思います。

ぴっぴ：和賀さんですか！

ちゅちゅ：私は、動きとか会話も凝っていて笑えて、それでいてほっこりできるところが好きです！

サイノ：和賀氏と組みたいって芸人さんはたくさんいると思います。新妻氏が絶対離さないと思いますが。

ぴっぴ：演技力のうまさ、つつこみのうまさはもちろん。皆さんだんだん和賀好きになるともっぱらの評判ですね。魅力をぜひ語っちゃって下さい

サイノ：女子が語った方が良いのですがw…

ちゅちゅ：私もまさに今和賀さん好きになりつつあるところです！和賀さんはツンデレですよ
ねww

サイノ：和賀氏の魅力としては1. ツッコミを始めとするクレバーさ。2. にこやかさと、そこからブチギレる演技の振り幅(「恋愛相談」「コンパのトイレタイム」など)。

ネタとしては最後にひっくり返す系統のものの手際が良いと思います。

はたはた：私が好きなのも和賀さんのツッコミですねー。

サイノ：「コンパのトイレタイム」も、「オクテなんだから仕方ないでしょうよー！」がやはり良いと思います。

はたはた：あ、ラストのところですね。思い出して笑っちゃいました。和賀さんの言葉で再生されるなー。

サイノ：ちなみに「コンパのトイレタイム」を『トッパレ』で観たときはミラクルが揺れました。次のアルコ&ピースがしょんぼりしながら出てきましたもの。平子「こんなのやられちゃ勝てないよー」って。

ちゅちゅ：その平子さん目に浮かびます!!ww

ぴっぴ：アルピーとのライバル関係はいいですよねw

はたはた：ええーすごい！ライブでイチバン笑ったのはなんだろう。「タクシー」を初めて見たときかもしれません。和賀さんのツッコミって、「ツッコミ」という役を演じているというより「和賀さんから出ている言葉」って感じがします。無理がないというか、自然。

ぴっぴ：実際あれは本人が考えているのかな？新妻さんが書いているんでしょうかねえ？あてがき？

はたはた：新妻さんじゃないですかねえ。前にSSPで小学生の時の思い出話してたとき、和賀さんが最初から「俺ツッコミがやりたい」って言ったというのを聞いたとき、そこからあの2人

の運命は動き出したんだなーと思いましたけど。

ちゅちゅ：ツッコミのフレーズとか細かい言い回しはどちらが考えてるんでしょう!?

はたはた：新妻さんの中に和賀さんが住んでるんじゃないですかね。ベタ惚れですし・・・w

サイノ：たしかにベタ惚れですね。新妻氏の中野乙女が恋をしている感じです。

はたはた：あ、でも前々回のBarOFF（ジンカーズ馬場さん、うしろシティ阿諏訪さん主催のトークライブ）で言ってた気がします！和賀さんはツッコミのセリフ変えちゃうって。しっくりくるやつで言うって。あ那时候、新妻さんが「ファンタジー要素を入れてる」とか言ってたとき、そんな話になって和賀さんがツッコミは自分で変えろって言ったと思う。

ぴっぴ：ああ、それとファンタジー要素をいれるって考えてるってところが面白いなーと思った記憶があります。

ぴっぴ：じゃあやっぱりそこに和賀さんのつつこみの上手さがでるのかもしれないね。

はたはた：自分の言葉になっているから面白いのかもしれないですねえ。

ぴっぴ：確かに新妻さんの作る世界はファンタジーというか空想っぽいけど、和賀さんのつつこみでリアリティが出る感じがします。結構説明的なつつこみですよ。例えたりとかはしないけど。

ちゅちゅ：ある程度自分の言葉だから、コントにすごくマッチしてるんですね。

サイノ：その説明的なところもキレっぷりが良い方に中和させてる気がするのです。

ぴっぴ：あまり説明的だとちょっとうざい感じになっちゃうかもですしね。

ちゅちゅ：和賀さんのツッコミはくどさはないですよ！

はたはた：結構ツッコミ量自体はあると思うのに不思議。

話ちょっとかえちゃいますが、ずっと私は聞きたいんですが、新妻さんの女装とかって皆様の的にどうなんですか！そこがいいのかしら？勝負ネタにもありますし。カラオケとか。

はたはた：私は違和感とかは感じないですね。

ぴっぴ：ふむふむ。

サイノ：ちゃんとサイズが合ってる服というのも大きいみたいですね。

はたはた：初めて見たのが「コンパのトイレタイム」で、女装があまりにも「女の子」に見えたので。むしろ女性に見えてしまいます・・・

ぴっぴ：ちゃんと男性用の女装服専門店で買ってるんですってね。

はたはた：だから初めて男性役のネタを見たときに違和感があって。今はどっちも大丈夫ですけどw

ぴっぴ：女性っぽい女性じゃないのにそうとしか見えないと思う人がいる。それはすごいですね。リアリティがあるのかな。うさんくさい女性っぽいなよとした感じがしない。

はたはた：そう、だから初めて生で新妻さんみたときに、「あ、結構男っぽい（見た

目が) . . .」ってショックを受けた気がw

サイノ：女形みたいなところもあるのかも知れないですね。

ちゅちゅ：私は女装も見やすいからコントとしても見やすいと思います！かわいいかは置いていて…

はたはた：なんかトップリードのネタで女性が出てくるやつって。怒ってるやつが多い気がするw
プリプリしてる女性が多い。

ぴっぴ：たしかに！他のネタではそうでもないのに！

はたはた：だからなんか面白いのかも。

ぴっぴ：かわいく怒れるとは！自分が一番かわいく見える感情をしているんでしょうか？wおそろしやwセルフプロデュースは出来てそうですね”

はたはた：出来てると思いますねー。

サイノ：ものっすごく出来てます！

(イラスト；ふさのり@husanori)

【KOCについて】

ぴっぴ：KOCについて聞かせて下さい。トップリはシードで二回戦から参加ですね。二回戦のネタは家庭訪問だそうです。

サイノ：名作です。

ぴっぴ：ネタ選びのセンスはどうですかね？

サイノ：2分バージョンでも笑いを取れるネタです。

ちゅちゅ：私は準決勝を見ていて、前がニッチェ阿佐ヶ谷姉妹すごい空気の中、出てきてすぐトップリードの空気になったと感じました！

ぴっぴ：準決勝はタクシーですね。

はたはた：予選は私は三回戦しか見てないですね。ネタは『先行く男』。なんかミスったみたいで通ったあとに新妻さんも和賀さんも危なかったーよかったーってツイートしてたのが印象的。

サイノ：セリフを1つ飛ばしたみたいですね。

はたはた：あと帰り道で見た和賀さんが憔悴しきっていたのを見て、すごい賭けてたんだな、って思った記憶があります。

ちゅちゅ：準決勝のネタはタクシードライバーで、最後の展開で拍手が起きてそのまま拍手笑いで終わって感動しました！

サイノ：そうか。どっちも化けたネタですね。

ぴっぴ：たしか三回戦の後、新妻さんはあまりにショックで呆然として、電気屋をうろついたのでしたっけ？おちたーと思ったと。

はたはた：そうですそうです。頭真っ白の状態で作ってたって言ってましたね。

ぴっぴ：そうは見えなかったですね。

ちゅちゅ：3回戦は先行く男ですよ？あのネタはミスできないネタですもんねー。

はたはた：一つミスすると回収が出来なくなっちゃうから・・・。

ぴっぴ：確かにいつものトップリードほどウケてなかったかもしれないですが。

はたはた：でも通るなと思うくらいのウケでしたよね。

ぴっぴ：そう、多分大丈夫だろうけどっていう。そのくらいの安定感がありますね。余談ですが、かもめんたるは無理だと思いましたし。

サイノ：嗚呼…。

ぴっぴ：小道具落として流れがとぎれてしまった。客にも分かるもんですね。ああ、もったいない。正直見ながら、悲痛な気持ちになりました。

サイノ：ポッドキャストでも長いこと言ってましたもんね…。

はたはた：そうですね…。

ぴっぴ：だから、ミスから回復できたってのはトップリードの強さですよね。練習量でしょうか。それでもできちゃうくらい。トップリードって隙がないっていう感じがすごいです。良くも悪くも完璧主義。ある意味落語のような完成度。だから、破天荒な笑いが好きな人の好みとは違うだろうな—とったりします。

はたはた：そうですね—優等生なコントというか。

サイノ：だからトップリと鬼ヶ島（以下、鬼）がいた頃の『トッパレ』は異常に盛り上がっていましたよ。鬼はめちゃめちゃですから。

サイノ：（しかしネタ下ろしの時点では結構隙はありますが）。

ぴっぴ：全く違うタイプのコントが見られる訳ですもんね！で、その二組が決勝にいったとはほんとうにすごいことですね。ぴっぴ：というわけで決勝の順番の話にもどります。

ぴっぴ：鬼とトップリはトッパレで対決していたころ、どちらが勝率よかったんでしょうか。

サイノ：断然トップリードです。

はたはた：おお、やっぱり！よく二連覇の常連って言われてますもんね。

ぴっぴ：決勝戦でどっちが勝つか気になります！

はたはた：わくわくします。

サイノ：トップリードは28回出て10回優勝してます。

ぴっぴ：なんたる勝率。

サイノ：鬼は13回で4回かな。

ちゅちゅ：3回に1回優勝。

はたはた：おすごい勝率。鬼ヶ島もすごい。

23:58ぴっぴ：トップリ3割5分。鬼3割の勝率ですか。直接対決のときは、どっちが勝つんですかね。

サイノ：トップリードはしかも21回は3位に入ってます。トップリードは決勝でかけるネタによっては東京03の時みたいな事になるのではと思います。

ぴっぴ：圧勝はありえそうですね。

サイノ：まあその後に壊し屋が多いので展開が読めないですけども。

はたはた：今回のKOCでトップバッターだということに関しては、みなさんどんな風に思っただけですかね？

サイノ：それは私も聞きたいです。

ぴっぴ：ちゅちゅさん結構見てましたよね？

はたはた：トップリードが決勝の出番1番を引いたのは良かったんじゃないかなあ。

ぴっぴ：トッピードはネタがいきなりトップスピードに入る感じがするから1番目でも全く問題ないですよ。空気とか関係ない気がする。

サイノ：きっちり世界を作れる感じで。

はたはた：むしろ空気を作ってくれる感じがしますもんね。トッピードが基準となると鬼とか2700ってどうなるんでしょうね？wそこが楽しみかなーとか思ったり。

ちゅちゅ：トッピードだったら1番でもしっかり空気作れそうですね！

ぴっぴ：この間の○○な話でまっちゃんが鬼に関して「考えさせられるなあとか、めちゃくちゃやな」と言ってましたっけ？

はたはた：言ってましたね。

ぴっぴ：意外と気に入ってそうにみえたので気になるところです！w

はたはた：ついにこういうのが出てきたか！というワクワク感だったりしてw

ぴっぴ：初回だとえーってなって終わるかもですが二回ネタをやれるってのは鬼にとって有利かもしれないですね。

サイノ：鬼は芸人間では知られてますしね。

ぴっぴ：トッピードはNHKで色々出てますがはたして審査員に残った準決勝進出組の芸人さんは見えますかねえ？

はたはた：見てないんじゃないでしょうか。でもトッピードは初回でも全然違和感なく見れますよね。私がそうだったように。鬼はどうだったかな。ただただビックリしたかもしれませんがw覚えてないや。それだけトッピードは印象に残っているなあ。見たのが大会だったからかもしれないけど、コント好きじゃなかった人をコント好きにさせるくらいの力があると思った。

ぴっぴ：トッピードはネタの状況説明も過不足なくありますしね。新妻さんの説明のモノローグが結構あるような気がする。ト書きを読む感じなプロットが案外大事ですよね。

サイノ：あ、そうだ、トッピードはメタの扱いが適度なんですよ。今のコントは単純なメタはもう当たり前ではないですか。私はベタメタと言っているのですが。トッピーの場合、初見のネタでも置いていかれないのですよね。

はたはた、ぴっぴ：なるほど。

ぴっぴ：確かにメタやシュールはちょっともう目新しくないから厳しいと思いました。

予選を通して、シュールはものすごく不利でした。ウケづらい。

サイノ：シュールは突き抜けるパワーがないと難しいのでしょうか…特に会場が大きいと難しい。

ぴっぴ：レッドシアター系シュールがいまいちでしたからね。それでも去年はしずるやジャルジャルがうけたんですがねえ。

ちゅちゅ：確かにトッピードでついてけないってネタはないですね。

ぴっぴ：わかりやすさと、構造のきれいさのバランスのよさですかね。それに共感しやすいストーリーがのったり、オチで展開させたりと工夫が沢山ある。

はたはた：ある方が言っていた「トップリードのコントには矛盾がない」というのが見やすさってことになるんですかね。

ぴっぴ：違和感は感じづらいかも。話を戻します！トップリは今年はKOCの決勝行くだろうって思われてたと思うんですよ。去年と違うという感じはありました？サイノさんどうでしょうか？私は、去年も多分準決勝見てると思うんですが、あまり印象にないですよ。今年ほどの安定感はなかったんでしょうか。

サイノ：ネタ自体の強さが出たのはあるかと思います。今年よくやっている「タクシードライバー」はかけていくうちに化けました。

はたはた：ネタ選びが上手くなったのでしょうか？

サイノ：「さき行く男」もそうなんです、彼ら自身が好きなネタをとにかく磨き上げたという感じ。ネタをやっていく中で、結構ばっさりカットした部分もあるので。

ちゅちゅ：そうなんですー！かけていくうちに良くなっていくのは嬉しいですよ。それ以外にもオンバトで今年チャンピオンになった勢いはきいてきそうですよね？

はたはた：へえー！それはありそうですね！自信に繋がるだろうし。

ぴっぴ：じわじわとネタを直し、自信もつけここできた！という感じですね。磨き上げが上手くなったと。オンバトでついた自信で、本番うまくやってくれるといいですね。そして、「まっちゃんに立ち位置的にたたかれたらどうしよーう？」（きゃっきゃ）という新妻さんの夢が自然に叶うといいですね。

トッブリード：ファン座談会④

【応援コメント】

ぴっぴ：さてさて何気に結構長々話して参りました。トッブリードの魅力を再度軽くお聞きした上で応援コメントなどお願いします。

はたはた：トッブリードの魅力は「見る者を選ばない面白さ」だと思っています。コントを心底愛する二人が、汗だくで頑張っている姿を応援します！

ちゅちゅ：トッブリードのあったかい空気と分かりやすさ大好きです！応援してるので楽しく頑張ってもらいたいです！夢は叶う!!www

ぴっぴ：そうそうほっこりできるのはすばらしい！

サイノ：ウェルメイドなコメディを4分に落とし込む脚本の見事さと構成の緻密さと、それらを十分に活かす演技が素晴らしいです。夢を叶えて欲しいです

ぴっぴ：正当派という冠を抱いているのはトッブリードくらいかも？是非とも見せつけて欲しいです！ファンタジックなコント楽しみます！

ちゅちゅ：トッブリードがんばれー！

ぴっぴ：一番正当派だからこそ一番苦戦を強いられるかもしれないけどがんばってほしいです！トッブリードはライブシーンでの集客もすごいですもの！人気も実力も折り紙付きですもの！ちゅちゅさんみたいな新しいファンをどんどん魅了できるところがすばらしいですよ。そういう華と面白さがありますよね。

サイノ：今年の単独は凄くなりそうです！

ぴっぴ：サイノさんにベストネタを聞いてみたい気がします。ベスト3とか？

ちゅちゅ：私もサイノさんのベスト3あればお聞きしたいです！

サイノ：観た範囲では「こんにちは赤ちゃん」「コンパのトイレタイム」「恋愛相談」ですかね！

ぴっぴ：おおー。その三ネタが決勝でかけられるかも要注目ですね！

最近テレビにも出てるんで、じわっと吉本の芸人とかにも名前が広まっているでしょうしね。どうなるか楽しみですねー。

サイノ：オリラジのあっちゃんなんかは知ってるでしょうけれど。っていうか『10カラット』と一緒にしたからね。

ぴっぴ：アームストロングも共演してましたね。

はたはた：ライバルという意味ではアームですね。

ぴっぴ：トッブリードは犬の心ともやってみたいって言ってましたね。彼らはお互い意識しあっているかな？

ちゅちゅ：おお！ネタ数豊富なトッブリードどのネタで来るのかも楽しみのひとつですね。

はたはた：本気ライブとかの印象なども他の芸人さんに聞いているのかもしれないですね。

ぴっぴ：事務所の垣根を越えてもりあがってほしいですね。KOCがなったらさらにうれしいですね。
。トップリードは色々乗り越えてしまう明るさがあるように思います。

はたはた：そう思います！

サイノ：本当に思いますね。

ちゅちゅ：トップリードがんばれー！

ぴっぴ：トップリードがお笑いシーンに風穴をあける突破口になることを期待しています！が
んばってください！

鬼ヶ島：ファン座談会①

(参加者：ぴっぴ、深読モカコ、サイノ、フウ、にそうしき、あや、2011年9月10日)

【鬼ヶ島との出会い】

ぴっぴ：では早速、まず皆様の鬼ヶ島ファン歴を簡単にお聞きしたいと思います。

にそうしき：6年前くらいです。浅沼さん在籍時から。

あや：私はあと少しで2年です。2009年の11月くらいに好きになったので。

フウ：私は1年半前くらいからでしょうか。

深読モカコ：自分のブログの記録には2005年6月バカ爆とあるんですが、その前のキングオブコメディトークライブで、こんど新たに結成するとゲストできて紹介されたような気が…。そんときのトークがおもしろかった記憶がうっすらあります。

ぴっぴ：モカコさんはトークで気になりだした感じなんですね。意外です。

深読モカコ：意外w

サイノ：私は初めて観たのが2008年頭で、好きになるのは半年くらい経ってからだったかと。

ぴっぴ：一応あまり知らない方のために簡単に彼らの経歴をちょっと聞きたいんですが。人力舎で皆それぞれのコンビを解散してから鬼ヶ島になったんですよね

深読モカコ：解散してからというより、組みたくて大川原さんが解散を森枝さんにきりだしたっばいです。

あや：ボケがやりたかったんでしたっけ？大川原さんが。

ぴっぴ：じゃあかなりこの人となら！という思いがあって結成されたトリオなわけですね。

にそうしき：浅沼さんと組む予定で、野田さんも流れ着いてきたんじゃないかな。

ぴっぴ：野田さんが流れ着くw

あや：さすが「島」ww

深読モカコ：客前に出るときはもうトリオだったような。大川原・野田が組もうとしてたところに、浅沼からアポ→野田に電話で了解を得て、大川原・野田・浅沼でスタート。それが2005。

ぴっぴ：大川原さんが野田さんをさそって和田さんが後からですね。ちなみに、それぞれ前コンビ時代と比べて、この三人だとやはり相性がいいという感じだったんでしょうか。

深読モカコ：大川原さん野田さんはとにかく楽しそうでした。

ぴっぴ：で、2007年、和田さん加入。これはやはり決定的なものだったんでしょうか彼が入る事によってかなり変わったんでしょうか？

深読モカコ：キターーーー！！！！と思いました。

ぴっぴ：おー。今の形になって明らかに良かったということですね。

にそうしき：本職のツッコミ加入でしたものね！

ぴっぴ：なるほどツッコミ不在からツッコミありへ。今あまりツッコミ感を感じてませんでしたw

にそうしき：浅沼さんはツッコミというよりかはイジられ役でしたからね。「年に2回しか笑いを取れない」とか言われていました。

サイノ：最初はなんだか不穏なものを観ている感じがしました。

深読モカコ：フッフ！>不穏

にそうしき：不穏www

【ライブシーンでの人気急上昇！】

ぴっぴ：やはり和田さん加入してからファンが増えたのかな？という感じなんでしょうか？サイノさん、あやさんの好きになった時期を見ても。

深読モカコ：たしか、和田さん加入当初は、まだ浅沼さん時代のネタでやってたんですよ。

にそうしき：即身仏も浅沼さん時代からありましたものね。

あや：へえー！即身仏ってそんな前から！

ぴっぴ：徐々にネタも今の三人でのものになっていったんですか？

深読モカコ：和田さんをちゃんとイメージしたネタはいつからだろ…？とにかくそれが板についてきたのが2008年かもしれませぬね。

ぴっぴ：なるほど。で、その頃からじわじわライブシーンで人気が出てきたのですね。

にそうしき：ただ、一反木綿のくだりは（多分）浅沼さん時代にはなかったのですよ。和田さんの演技力が加わることにより、よりよいネタになったのかと思います。

深読モカコ：『天文部』もだいぶ面白くなったし。

ぴっぴ：へー。確かに和田さんの演技はしっかり脇を固めている印象があります。

深読モカコ：ふふふ！

あや：私はその和田さんの演技にひきこまれてファンになった感じです（笑）。

ぴっぴ：破壊力があるネタなだけに、そういう部分（和田さんの演技）がしっかりしているというのが説得力に関わってくるのかもしれないですね。

あや：官能小説だったんですが、最後の最後のアレが！ww

深読モカコ：浅沼さんがいる時代からあるネタですが、彼の加入によって官能小説などのネタに代表されるSEXYとかウサンくさいという武器？が加わったのは大きいですね。

ぴっぴ：今ものすごく人気がありますが、明らかに人気急上昇！ってなったのも2008年くらいからなんですか？それともかなり最近ですか？芸人支持が高いというののもかなり異質な気がします。

にそうしき：ライブで人気の芸人！って感じになったのは去年からくらいかと。それまではじわ

じわ、ですかね。

あや：私が好きになった2009年末のときは「鬼トーク」もチケットがとりにやすかったから、人気急上昇になったのって昨年からのイメージだったりします。

ぴっぴ：そんな急激に人気があがったとは！

深読モカコ：吉本にこびを売り出して…じゃない、吉本芸人との交流も大きいかと。

サイノ：2009年の5月に単独があったのですが、どうも即完だった模様です。小屋が中目黒のウッドシアターってのはあるのですが。

ぴっぴ：あ、そうなんですか。他所からファンを獲得したんですかね？ 芸として明らかに変わったという感じはありました？あるいはオーラが出だしたとか。

深読モカコ：ベストライブ『学生気分』@ミラクルも、ちゅうえいさんetc.芸人さんも。満杯でした。

サイノ：中目黒の時の『ファンタジーゾーン』では後ろの席にいとうせいこう氏がいて自分の中で色々と繋がるものがありました。

ぴっぴ：私は吉本ファンでもあるのですが、2009年あたりからM-1の予選敗者復活戦、KOCの予選などで見て印象にのこりましたね。賞レースで圧倒的に変だ！何この人達！と思いましたw吉本ファンには賞レースでも認知されだしたかもしれません。

深読モカコ：ふむふむ>賞レースで。なるほど。あやさん、サイノさんから見て「変わったな」と思う時期ってあるんですかね？

サイノ：私の場合は、最初に観たときは既に面白く、自分の見方を変えさせられたという印象です。

ぴっぴ：後浅草花月の人力舎と吉本のライブとか。

深読モカコ：あ、あれでかいかも！>浅草。でも人気上昇した理由に、まず芸人の間でほめられはじめ、自信をつけてきたというのがあると思います。

サイノ：自分のブログを読み返してみて、2008年は「面白いけれどオチが」って延々書いていたのですが、2009年になってからはでたらめで最高的な感じに変わってました

あや：私もちょっと考えてみたんですが、既に結構世界観ががつつり出てたですよー。

ぴっぴ：2009年のM-1でやっていた、鬼ヶ島は来年優勝を目指しますというネタ一本でぐいぐいだった時は衝撃を覚えました

あや：あれは衝撃でした（笑）。

ぴっぴ：あれはちょっとメタなネタでもあり、そのうえ最高にくだらなくて感動しましたねー。

サイノ：ネタのクオリティが去年くらいから上がった感じがします。あと4人目使うネタもかなりすごかった。

にそうしき：M-1のネタはよかったですよー。コント職人だから「漫才風のコント」をやる

んだっていう意志表示にも取れましたし。

ぴっぴ：ボケの数とかも少なく、当時の手数論とは真っ向からぶつかるなど。M-1のはほんとかっこよかった。結構友人も、後でからあれが鬼ヶ島だよっていうと覚えていたし。

にそうしき：2010年のM-1で4人目に飛石連休藤井さんが出てきたことがあって、「この人たち頭おかしい！（いい意味で！）」って衝撃を受けた覚えがあります。

あや：私も吉本から入った人間なので周りも吉本好きが多いですが、吉本好きからも鬼ヶ島って好評なんですよー！

サイノ：アルピの漫才と鬼の漫才はコント師じゃないとできないものが多いような。

ぴっぴ：私は全くお笑いを見た事がない知人を浅草のライブに連れて行ったんですが、鬼ヶ島が面白いとってました。インパクトが大きいんですね。

あや：鬼ヶ島って着眼点がおもしろいですよねー！普通そう考えないのな。

サイノ：私は『トッパレ』でトッピーとバチバチやってた時期に好きになりました。

ぴっぴ：そのあたりからやっぱりファンが増えてますね。トッピーと鬼は芸風などが対照的な感じします。

深読モカコ：そうするとK-PROの『トッパレ』がでかいのかも。

ぴっぴ：K-PROで知ったという方は相当数いそうですね。

あや：そうですね！私もK-PROライブでした！

サイノ：私は最初の頃は『トッパレ』で観ていました。

ぴっぴ：結構ずっとK-PROライブには出てるんですかね？

サイノ：『トッパレ』は2008/2/13からです。初登場で2連勝してますね。

ぴっぴ：すごいですね。

フウ：いきなりですもんね、衝撃的！

ぴっぴ：この頃から鬼やトッピーがばちばちやって、どんどん両者ともに腕をあげていったんですかねえ。

深読モカコ：ほんとだ『トッパレード』ってタイトルだ（観てた）。

【KOCについて】

ぴっぴ：さて、そろそろKOCの話に移行しましょうか。今年のキングオブコントの鬼ははたから見
ていてもすごかったですね。何回戦でしたっけ。会場がゆれたのは。

フウ：3回戦ですね

ぴっぴ：あれはほんとうにすごかったですね。

フウ：ナイトオブファイヤーww

深読モカコ：2回戦みれてないんです。どうでした？

ぴっぴ：2回戦から何をやったかちょっと教えて頂けます？とにかくあのパラパラのはすごか
たですね。賞レースに向けて調整してるなという印象はありましたか？

にそうしき：2回戦のネタ、「メデューサ」だって人づてに聞いた覚えがあります。

ぴっぴ：あべこうじさんが、鬼ヶ島単独みたいになったといっていましたね。休憩前でよかった
ねと。

フウ：ちょっと個人的な話で申し訳ないのですが、直前のラブレがやばいなと思いました。3回戦
はアナウンサーになる息子が上京するやつでしたが、ほんとうに、ラブレが鬼の前でよかつ
たですね。

深読モカコ：でも、あのストーリー仕立てのラブレあってこそ、その次のハチャメチャが効いた
かと。ある意味、名アシスト。

サイノ：ちょっと去年の話なんですけど、「メデューサ」と「くまごろう」が揃った時点で優勝あ
るんじゃないか？と思ったんですよ>KOC

ぴっぴ：いいネタがそろったということですか？

深読モカコ：「くまごろう」は大きいですね。ハチャメチャに、ちょっと童話性が強まったとい
うか。

あや：「くまごろう」はいいネタですよー！

ぴっぴ：確かに鬼ははちゃめちゃだけど、どこかファンタジーな感じありますね。

深読モカコ：ファンタジーゾーン！

あや：だからこそ狂気な部分が和らいでただ怖いだけじゃないんだと思います。

ぴっぴ：友人が破綻のある感じが面白いといっていましたねー。

深読モカコ：以前はただ恐いだけってのもありましたもんね。

フウ：「操り人形」は初見の時は怖かったです。

ぴっぴ：じゃあじわじわといいネタが増えてきたんですか？

にそうしき：ネタがシュールな感じかポップな印象になりましたものね。「くまごろう」のあたりから。

ぴっぴ：確かにポップ！KOC向けにネタ調整されてるって聞きました。

あや：最初「操り人形」はオチが違いましたもんね。

サイノ：今年は名作連発って印象があるのですが。

ぴっぴ：来るべくしてきたんですね。

フウ：とにかく爆笑するネタしかない印象はありますね。

ぴっぴ：周りをなぎたおして面白いみたいな。

サイノ：焼け野原ですね。

フウ：焼け野原w w

あや：ばったばたとw

深読モカコ：エレジョン加藤さんが焼け野原の言いだしっぺですね。

にそうしき：迷惑な出場者ですねw

サイノ：因縁深い加藤さん…

ぴっぴ：よくいわれる鬼ヶ島の後には焼け野原ってのは言い得て妙だと思いましたね。だから賞レースで勝つ！というイメージがわくというか。色々な芸人さんが、きっと優勝するとか決勝行くとかいいますよね。

ぴっぴ：ネタにファンタジーが加わり、受け入れやすい形になり、KOC向けに調整が上手くいったのでしょうか？主催ライブ「十」とかも調整ライブなんですか？

深読モカコ：ファンタジーは前からあるんですが、少し可愛らしい寄りになってきたように思います。

サイノ：『十』は新作をかける主催ライブだったかと。（予選で噛まなかったと聞いて何の奇跡かと思いました。）

にそうしき：今年はネタを死ぬほど練習したそうです。それで噛まなくなったのならとても大きいですね。（※大竹まことのゴールデンラジオより。）

サイノ：ラバーガールの主催していた『10』から毎月新ネタを作ってたのはでかいのでは。

深読モカコ：確かに『10』『十』は功績でかいと思います。

ぴっぴ：あ、じゃあラバーガールから引き継いだ『十』は調整というだけではないんですね。ああいうライブがあることにより、のっていると感じましたね。人力舎に期待されてるなあ。

あや：操り人形やホストのネタは『10』で出したネタですもんね！

にそうしき：数を作って厳選していた印象もありましたしね。

ぴっぴ：色々な環境がめぐまれていたんですね。

フウ：『十』の前は大川原さん死にそうになってましたけどねww

サイノ：KOC決勝進出前に単独決まったのも期待の表れでしょうし。

深読モカコ：ひとつ挟むとすると、『エンタの神様』の頃に、ネタがちょっとらしくない感じになってしまってたのですが、番組が終わって、のびのびできるように再びなったのも大きいと思います。

ぴっぴ：テレビはやはり微妙なんですね。良くも悪くも変えてしまう。

あや：のっているといえば、DVD発売も決まりましたしねー！

サイノ：お蔵になり続けた分まとめて来てる印象があります。

深読モカコ：お蔵続きもありましたねー。

にそうしき：No more OKURA!

ぴっぴ：まとめるとファンタジー要素がうまく加味され、人気もあがり、『10』『十』で良いネタを色々つくれたと。テレビ出演のお蔵入り時代をへての今があるんですね。

深読モカコ：時代w

ぴっぴ：そういう流れがあって、ファンの期待も高まったのKOC！で爆発！

あや：どかんと！w

ぴっぴ：今年はかなり破壊力のあるライブシーンのスターが決勝にいきましたね。

深読モカコ：でもお蔵続きでファンのサポートし続けたい精神が持続したのもあるかも。あ、野田さんがぽっちゃりしてきたのも、おもしろくなって芸人に支持されるようになった要素だとも思います。

【三人のバランス】

ぴっぴ：見ための変化はおおきいですよね。バランスが大事ですから。

にそうしき：和田さんも一時期に比べてやせましたものね。ビジュアル担当に。

フウ：和ダイエットの成果でしょうか。

ぴっぴ：野田さんはぽっちゃりしてても服がポップでかわいいなと思います。

フウ：マスコットの可愛さ。

サイノ：野田さんの下手すると棒とも拙いとも言える独特の節回しがマッドなファンタジー世界に観客を誘うポイントではないかと思っています。

ぴっぴ：大川原さんも独特の存在感でいいですね。こわい！すてきwみたいな。

サイノ：静かに狂ってるというか。

あや：普通そうで普通じゃないみたいな！

ぴっぴ：一番見ため普通なのに一番狂ってるというのはいいですよね。

サイノ：一番目が怖いんですよね。

にそうしき：狂気満載のネタを作っているのは大川原さんでしょうしねー。

サイノ：あとガンガン行っちゃうところもすごい。

ぴっぴ：そうそう、基本的な事なんですけど、ネタ作りはどなたがされてるんですか？皆で作ってるタイプですか？

にそうしき：大川原さんと野田さんで作っているはずですよ。和田さんは交通費の関係上、ネタ作りに参加せず。

あや：あとコーヒー代が出せないw w

にそうしき：そうそう。ドトールは無理だとw

フウ：ライブの当日にこれやるからって台本を渡される。

サイノ：給料を受け取る係は和田さんがやっていると聞いたことがあります。

ぴっぴ：すごい！それでできてしまうとは！

あや：私、それすごいと思ってたんですよ。

深読モカコ：そう、なにげにすごいですよね。

ぴっぴ：和田さんはかなり器用な方なんでしょうか？

フウ：器用な方…だと思います。

ぴっぴ：役に入り込むタイプでしょうか。憑依型？そういうのとも違いますかね。

深読モカコ：どうだろ…CUBE（前コンビ）のときも、和田さんのほうが演技力あった気がします。さらっとやるイメージですね。

ぴっぴ：演技力があるのに、あまり感じさせないのもいいのかもしれませんがね。やたら上手いって感じると入りづらくなったりしますし。

にそうしき：与えられた役をたんたんと、そつなく上手にこなす印象です。安定感の持ち主かなと思います。

ぴっぴ：鬼は皆さんキャラがたっていて、バランスもぎりぎりのところで絶妙なんですよ。

あや：そうですねーいいバランス！

深読モカコ：身長が同じぐらいなのもなにげに奇跡だと思ってます。

フウ：狂気とクズと真のクズですけど、嫌いになれない。むしろどんどんハマる鬼マジック。

ぴっぴ：売れますよ。鬼はテレビに出てる絵が浮かびますもの。

あや：あんなにテレビに出ちゃダメだなんだ言われてたのにw

にそうしき：「売れないで欲しい」って色々な芸人さんから言われているのにw

深読モカコ：そうですね。だから見こんで好きになったわけですが。

【KOC 準決勝前後】

ぴっぴ：でもだめだって思われるくらいでないといんパクトないですよ。ではKOCにもどりましょう。準決勝前にK-PROのコントコントコントとかあってあまりうけてなかったから一部では心配されてましたよね。

フウ、あや：見ました！

にそうしき：何のネタやったのですか？

深読モカコ：観ました。心配しました。

あや：2本目・・・：「吉田」、です！w

にそうしき：ああー、あれですか。

フウ：最初はものっすごくインパクトあるんですけどね

深読モカコ：大本命の「あやつり人形」（1本め）もMAXウケではなく。

吉田って、先述の迷走期のネタな気がします。（要確認）

ぴっぴ：なるほど。「あやつり人形」はコントx3のとき結構変えてたんですか？

深読モカコ：序盤からなんかフワフワしてましたね。

ぴっぴ：鬼ファンの方にかえられてる、まずい！と聞いた気がします。

深読モカコ：和田さんセリフがちょっと削られてた気が。

サイノ：マイルドになってる感があります。

ぴっぴ：結局不安を抱えたまま準決勝本番でもあやつり人形でしたよね。

ぴっぴ：準決勝ではデキなどふくめてどうでした？

フウ：野田さんの顔がすごかったですね

深読モカコ：準決勝は冷静に観られなかったもので、よくわかりません（苦笑）。ただ帰り道、二十歳ぐらいの女の子二人が「自分自分自分のひと、おもしろかったー。歌っちゃうー。」と言ってて、ようやく手ごたえを感じました。

フウ：悲鳴にも似た声を聞きましたww

ぴっぴ：悲鳴ありましたね。私のそばの吉本ファンとおぼしき人が、良い意味で、なにこれ一的な事も言っていましたね。今回は終わってみれば、歌ネタ有利ですね。

あや：正直会場が大きくてウケがよくわからなかったんですが、会う人会う人に「鬼ヶ島ウケてたねー！」って言われたんでウケてたんだろう、と思ってました（笑）。

フウ：私の後ろの席の方も「面白かったー！」って。

ぴっぴ：とはいえ3回戦があまりにウケていたのでもっといけるはずだと思いました。決勝いっ

たんじゃないか？いや、でもどうなるんだろうとちょっと思いました。

あや：そうなんですよ。3回戦がすごかったので、準決見るまでは「腹話術」と「ホスト」逆に
したほうがよかったんじゃないか・・・と思ったりもしました。

ぴっぴ：決勝何やるか楽しみですねー。

あや：何やるんでしょうかねー！！わくわく！

にそうしき：楽しみですねー！

フウ：仮に、準決勝で終わった場合、DVDに収録されない可能性も考えてたと思います。

【応援メッセージ】



ぴっぴ：そろそろしめなくてはならないのですが。皆様から今年の鬼ヶ島への応援というか期待のコメントいただけたら。応援しましょう！他に、テレビスターになった場合どうしてほしいとかありますか？

フウ：鬼ヶ島の狂気な笑いで一杯に！（応援メッセージか？）

深読モカコ：鬼ヶ島のみなさん、この勢いのまま進めば、ぜったいだいじょうぶです！体調管理に気を

つけつつ、思いっきりやっちゃってください！

ぴっぴ：タレビスターきつとなるとおもいます！

サイノ：ネタは問題なく揃っていると思います。ハンデ(人力舎が2連勝しているのはなんだかんだで印象)を跳ね返して焼け野原にして欲しいです。

フウ：あ、マックで良いのでお食事会しましょうね！も。（大川原さんが優勝したら賞金でファンにおごると公言している。）

にそうしき：練習の成果を出して決勝の舞台に爪跡を残して欲しいです。だからお願い、噛まないでください！

あや：狂気と優しさと温かさと愛と切なさt(ry いろんなものが含まった鬼ヶ島のネタが大好きです。いつも通り暴れてくれればもう何も言いません！頑張ってください。あ、あと噛まないでください！笑

ぴっぴ：正直私は一番鬼ヶ島が可能性あると思っています。優勝しなくても、試合に負けて勝負に勝つみたいな事になるかと。きっと一番インパクトを残すはず、これからもがんばってほしいです！はばたけ、ライブシーンのスター！

にそうしき：そうですね！オードリーのような印象の残し方をしてもらえればベストですね！2位狙いで！www

あや：はばたけー！！

サイノ：それはあると思います。多くの人気が気付くときが遂に来た訳です！

あや：私もまた書こうかな、鬼ヶ島の記事（笑）

ぴっぴ：またぜひ！

フウ：やついさんが根回しで0点入れてくれっていう話題もつくってくださってますよね。

深読モカコ：検索したときに、ゲームの『新・鬼ヶ島』を上回るようになってほしい！いや、きつとなる！

にそうしき：ありがとうございましたー！！！！ m(_ _)m

(新・鬼ヶ島良ゲーなんだけどな…)

ぴっぴ：大会一番の風雲児としての活躍を期待しています！

ラブターズ：ファン座談会①

(参加者：ぴっぴ、ナオミ、サイノ、りく、フウ、深読モカコ、2011年9月10日)

【ラブターズとの出会い】

ぴっぴ：こんにちは。ラブターズ(以下ラブレ)のファン座談会を始めましょう。皆様自己紹介をお願いします。ラブターズは芸歴三年ですが、いつから見られています？かなり最初期から成長を見守ってきたという方が多いように思います。

りく：私は環八フルスイングというライブの一回目から見えます。

ぴっぴ：私も環八vol1.で出会いましたね。

フウ：私が彼らを応援しているのは、おそらくは1年間です。ちゃんと個人を認識したのは今年の1月ですね。

ナオミ：環八1回目からです。

サイノ：ラブレを最初に観たのは2009/3/23『東京コントメンvol.4』の新人コーナーです。

フウ：皆さん早いな～。私は、ちゃんとお話始めたのがAsh & Dコーポレーションに所属が決まる直前ですね。

ナオミ：環八第一回2009/10/19ですかね。最初は笹塚ファクトリーで開催されていました。

りく：環八ってそんな前でしたか。懐かしい。

ぴっぴ：何やってましたっけ？確か中学生コントだったような。泣ける系。その時は漫才もやってました。

フウ：もしかして単独でやった最後のネタ？

ぴっぴ：いえ夏の海のは初回ではありませんね。夏にやった環八でした。

りく：ちなみに漫才は色んな意味ひどかった記憶がw

ナオミ：環八1回目は中学生コント、という記録しか残していません。残念。

サイノ：次に観たのが翌日の『スタイル』ライブで、終わった後にうっかり話しかけました。

ぴっぴ：KOCに出る為に組んだそうです。今回ラブターズにインタビューをしましたが、スタイルライブでウケたのがかなり芸人としての自信につながったと話していました。

サイノ：磁石に勝ちましたからね。

ぴっぴ：ラブターズは最初からすごいという印象がやっぱりありますね。明らかに質が違うというか。ストーリー性が明確にあって、それが嫌みもない。泣けるのに！

りく：環八でもラブターズにひっぱられてましたしね。

ぴっぴ：環八は明らかにラブターズの影響でみんながストーリーを重視したものを作るようになりましたね。

フウ：そうなんですね！環八はまだ2回しか見たことなくて。

ぴっぴ：（御茶の影響で？ブラック増えたりもしてましたがw）聞くとところによると、環八と他のライブでは全然彼らの雰囲気も違うらしいです。

フウ：あ、ブラックなのは塚君そのものもありますよww

【多彩なイメージ】

りく：塚本さんの考えるネタは色々な種類ありますね。

ぴっぴ：御茶が最初にやって、解禁されたという印象でしょうか。

フウ：やっていいのかな？がやってもいいんだ！になったってことでしょうね。

ぴっぴ：環八は10分の長尺コントができるということで、かなり皆作り込んだものを投入していました。ラブレターズのしっかりしたストーリーを描く能力が開花した気がします。私は後からK-PROライブに行くようになったのですが、追試のネタとか、あれ？こういうのもやるんだって思いました。

サイノ：あれが正しく出世ネタなのです。コントメンでやったのもあれです。スタイルの新人コーナー(当時は新人コーナーをやって勝ち上がり組が本戦にも出場)で勝ったのも追試でした。

りく：警察官の張り込みネタもありますよね。UNOとか。

ぴっぴ：なるほど、じゃあ追試はかなりよくかけていたのですね。

りく：追試は自信あるんですね。

ぴっぴ：環八系の長いネタと、追試とかのコンパクトなネタでかなり印象が違うというのも、彼らの強さでしょうか。

サイノ：オンバトも追試で初0.A.だったかと。追試自体バージョン違いが異常に多いです。

りく：でも追試はKOC決勝ってかんじじゃないかも。

ぴっぴ：サイノさんは環八行ってます？

サイノ：環八は行ってないのです。なので、メインはラ・ママとK-PROですね。

ナオミ：ほー、環八でしか見たことないので、追試をそんなにやってるとは知りませんでした。

ぴっぴ：やはり、環八に行ってる人とそうじゃない人だとまた印象がちがいそう。

フウ：確実にライブ毎にイメージは違うと思います。なにより本人達が言ってますから。環八はいろいろ気にしないでやれる・みたいなニュアンスでした。

ぴっぴ：環八では実験してるんですね。勝負もないですし。

サイノ：多分自分たちだけでやれるのが大きいのでしょうか。いろんな人の意見を取り入れた結果別ネタになったのもあった筈です。

ぴっぴ：追試はそんなにあるんですか。こないだ環八でやったのはいい話になってましたね。ラブレターズはかなりネタを細かくいじるんですね。量産タイプではないが、じっくり練る。

フウ：元ネタがどれかわからない。

ナオミ：環八でしか見てないから、ネタが変わるとか全然知らない！いつでも新ネタ！

ぴっぴ：環八は新ネタをおろすライブですね。

りく：あ、確かにオチ違いみたいなありますね。

フウ：確かに何本かネタはあるんですけど、それを細かく変えることによってどんどん進化させていくから面白いんで、ハマっていく。

ぴっぴ：それは結構得難い個性な気がします。

フウ：そうですね、飽きない。

サイノ：ホームが複数あるのも大きい気がします。『コントメン』『環八』『ラ・ママ』『若武者』

ぴっぴ：なるほど。

りく：みんなから愛されるラブターズw

ぴっぴ：結構違う客層を相手にしてますね。

フウ：どの会場もウケてますね。

りく：K-PROファンの心をわしづかみするラブターズw

ぴっぴ：あまりにぐいぐい行くから、他の芸人さんに脅威として見られてますよね。

フウ：でも可愛げがあるから嫌われない。

ぴっぴ：ものすごくいじられますよね。テレビとかであのキャラがうまく今後生きてくればなとおもいます。

【演技派コント】

サイノ：あと単純に演技が上手いですね。

ぴっぴ：ラブレと言えば演技ですよ。溜口さんのテンションの振り切れ方がすばらしい。

フウ：溜君はそれこそ劇団出身。

サイノ：唐突に名前を出しますが、かもめんたるとラブレは別格な感じがします。

りく：演技力にひきこまれますなあ。

ぴっぴ：ああ、確かにかもめんたるも演技力ありますねえ。結構お互い意識していますよね。

りく：かもめんたるはかもめんたるの世界がありますよね。。

ぴっぴ：かもめんたるのポッドキャストにゲスト出演したりして仲良しですし。

サイノ：かもめんたるは悲鳴起きるときもありますしね。ちょっと脱線しました。

りく：あの悲鳴がいいんだとおもってますw

ぴっぴ：そういえば、ツイッター上で溜口さんがかもめんたる主催ライブ「トン子」で、う大人にKOC決勝前に喝入れてくれと言っていましたね。トン子は二回戦、準決勝でかけたあの校

歌が出来た場ですから。

フウ：ないネタをつくらうって企画でしたよね？

りく：う大さんが出したリズムネタというお題で校歌うまれたのがまたwまさかあのネタを予選にかけるとは一。

サイノ：それが凄いですよね。苦手克服であのネタができるという。

ぴっぴ：すごい。軽くハードルを越えて行く。彼らは見ためも結構うまく利用してますよね。あの真面目そうで小さくてかわいい感じとラップのギャップ。けっこう溜口さんが、ぎりぎりでやばい人やっていますが、見られるのはかわいらしさがあるからですよね。

りく：自分らを分かってるってことですかね。

ぴっぴ：演劇をやっていたこともあって、なんというかキャラクターとか、見え方とかに関する意識が高そうな気がしますね。

サイノ：コミカルに見えるというだけではなくて、ストーリーのどの部分で活用できるか武器として計算してますね。

深読モカコ：ふむふむ＞どの部分。

ぴっぴ：演出をよくかんがえていますよね。単独の夏の海を舞台にした少年達の夏の思い出を切なく描いた「愛は万人に」ネタもまさに。最後馬をかぶることによって、泣くシーンのあざとさが緩和される。

りく：「愛は万人に」、は泣きますね。何度見ても。

ぴっぴ：タイトルは溜口さんがつけてるらしいですよ。

ナオミ：溜口さんが付けたタイトル…よくわかりませんw

フウ：タイトルだけじゃ、どんなネタかわからないようにしたかったって言ってましたね。

ぴっぴ：あれを初めて見た時は衝撃でしたね。劇場からすすり泣きが聞こえました。

深読モカコ：ほうー。環八でもなさったネタなのですね。

ぴっぴ：環八でおろしたネタです。10分くらいの長いコント。

フウ：私も泣きました。

りく：環八で啜り泣きは鳥肌ものでした。

フウ：確か、去年の今頃？

ぴっぴ：そんな気が夏におろしましたから。

りく：たしか海の日前後だった気が。

ナオミ：2010/7/20です。

サイノ：やはり環八は大きいのですね。

ぴっぴ：季節感を意識されてるそうですよ。以前記事にもかきましたがラブレターズは細かいボケをつめこむことなく、時間がゆったりながれるのがいいなとおもってます。じわっと感動

できる。サイコパステストも多分環八でおろしたんじゃない？ビバさんが、溜口さんは正常者に見えないからテレビ出れないんじゃない？と心配してましたね。それだけ演技力があるということですがw溜口さんのかわいい少年も、異常者もできてしまうというところはすごいですね。

フウ：めちゃテレビ出てますけどね、演技者としては。

ぴっぴ：あはは。確かにテレビ出てますが、ちょっとおかしいおじさんとかやるネタはテレビ向きじゃないかもですねえ。

りく：夏の環八で怖い系のがやりたくてサイコパスつくったとかー。

ぴっぴ：いつ何をかけるかというセンスもあるのかもしれないね。それが結果的にKOCでのネタ選び成功につながったのかも。

フウ：KOC 3回戦は、周りになんで校歌じゃなかったんだって言われてました。

【郷愁を感じさせるネタ】

ナオミ：環八と単独しか見てませんが、彼らのネタには哀愁を感じます。郷愁…。

深読モカコ、ぴっぴ：うんうん>哀愁。

りく：哀愁ただようコント…

ぴっぴ：切ないんですね。

フウ：そのなかになぜか校歌。

サイノ：超秀才ってイメージがあるんですよ。

ぴっぴ：胸がしめつけられる。二人とも日芸出身らしいです。塚本さんは文芸学科。溜口さんは映画学科の演技コース。超エリートです。

深読モカコ：え！優秀！

フウ：二人して頭いい。

りく：なのに超偏見コントでの爆発したかんじw（チャライ大学生のネタ。）

ぴっぴ：（実際もてなかつたらしいですよー。）

深読モカコ：そのうち、芥川賞作家になってもおかしくないですね。

ぴっぴ：そう思いますね。書きたいし書ける人かと。みうらじゅんさんでしたっけ。童貞力（DT力）っての提案されてましたけど、それをすごく感じます。

フウ：私、いつか2時間くらいの舞台用の脚本書いてほしいと願ってるのですが。

ぴっぴ：おお演劇も見たいですね。もともと大学で芝居を一緒にやったのが出会いらしいですよ。

ナオミ：校歌もネタ内容はアレですけど、大人にとっては哀愁やら郷愁のワードですからねえ。

りく：舞台やってほしいですねえ！

ぴっぴ：この辺りはインタビューで！演劇は閉鎖的すぎるので、お笑いを選んだらしいです。そういう戦略があって頭がいいところが、新世代だな、結構貪欲だなと頼もしく思いました。

サイノ：選んだのもASH & Dコーポレーションですしね。

ぴっぴ：すごーくかしこい。末恐ろしいというか今恐ろしい。私は少年の感覚をもったコントが好きなんですが、ラブレはほんとにはまる。マンガっぽいかわいさもあってすばらしい。



【ファンの親心】

深読モカコ：ぴっぴさんがいきいきしてるw

ぴっぴ：はっ。ラブレターズには親心がwずっとみていたもので。

サイノ：それは大きいですね>親心

ぴっぴ：多分結構な人数が親心もってますよね。芸人さんもふくめて。そういう愛され方ができるってすごいですね。テレビで売れてほしい。でもまだ心配！みたいなw

りく：環八からだと自然と親心が…！

深読モカコ：最近嫉妬もあるかと。『トン子』で『校歌』だしたあとのエンディングの空気を忘れないw

ぴっぴ：トン子の校歌いじりのところは笑うなという設定があった気はしますが、エンディングはがちでしょうね。

フウ：ここだけの話、正直まだ決勝には行ってほしくなかった。

深読モカコ：うん。わかる。

ぴっぴ：まだライブシーンで見たいというのがありますね。

サイノ：(一番嫉妬しているのがTHE GEESEではないかと邪推している。)

ぴっぴ：まだまだ成長する余地がある！

りく：まさかこの芸歴で決勝いくとはって感じでしたしね！

フウ：3年ですからね…

ぴっぴ：すごく期待していると同時に、どうかつぶされなくて欲しいという親心。

サイノ：この世代で最初に行ったのは意外でした。

ぴっぴ：ほんとですね。うしろシティも相当くやしかりょうと。

りく：ためぐちさんも自分等びっくりしてますって言ってましたしw

深読モカコ：唐突ですがラブレとギースで2マンやってほしいなー。

ぴっぴ：ラブレはこれから色々企画ライブ増えそうですねえ。

りく：そういえばやりそうなのに、やりませんねラブレギースって。

ぴっぴ：Ash & Dコーポレーションは結構謎な事務所ですね。単独の場所選びも不思議でしたし。

フウ：あそこは不思議な舞台でしたね。

ぴっぴ：それでも見事な単独でしたね。

りく：コレドシアターは良い劇場でしたけどねー。

ぴっぴ：今年のベスト5ライブには確実にはいりますね。

ナオミ：お笑いライブを前後両方から見ることになるとは！>単独

サイノ：ただやっぱ狭いですね…。観られなかった方が多いのは残念です。

ぴっぴ：そうそ、単独は演劇畑出身のかれらだからなんとかなったって思いますね。

【KOC2011予選について】

ぴっぴ：ではぼちぼちKOCの話をしましょう。去年は三回戦止まりでしたが、今年はすごいですね。一回戦からさらしましょう。

フウ：去年は3回戦まででしたので絶対準決勝行きたいと言ってました。

フウ：一回戦は「新社会人の君へ」をやりました。（タイトルちょっとあってるか心配です。）
新社会人になる君、がんばれ！！みたいな。二人で応援する…コント？

りく、深読モカコ、ぴっぴ：見た事ないです。

ぴっぴ：おやレアネタですね

フウ：2分ネタなので…

ナオミ：2分ネタ！そんなのもあるんですねー。

フウ：もともとはもっと長いらしいですが。

ぴっぴ：へええ。ちゃんとカットしたんだ。そういう器用さがすごいなあ。若いのに！

サイノ：塚本さんが本当にちゃんと書けるんですねえ。

ぴっぴ：二回戦が校歌、三回戦が上京、で、準決勝が再度校歌ですかね。（注：勝手に呼んでい
るので正式タイトルではありません。）

深読モカコ：突然ですが、ラブレターズは演技力が高いので、ネタを観たあとの充実感が高い
です。

ぴっぴ：なるほど、演技力が高いと、見た後にお芝居見たような気持ちになりますよね。

りく：上京ネタいいですよええ。

ぴっぴ：あれも泣けますね！ちゃんと展開があって笑いになってるし

ぴっぴ：「上京」は溜口さんがお父さんで、塚本さんがアナウンサーになるってやつですよ？
別れのシーンの。

りく：あめんぼあかいなあいうえお！っていうやつでしたよね。

フウ：あやっぱ赤くねえや。

りく：あれ決勝戦でみたいなあ。

ぴっぴ：ラブレターズはストーリーもよく演技力もあるのに、言葉のセンスもかなりあります
よね。天才ではないかと思えますねえ。あめんぼあかいな、みたいな事がかけちゃう能力が
あるからこそラップネタでもかなり印象的なリリックがかけたんでしょうね。

深読モカコ：塚本さんの半生が気になる。

ぴっぴ：塚本さんの半生！ちょっとはインタビューでききましたがwいずれひもといてもらいまし
ょう！トークとかで。

りく：あのセリフまわしからの、校歌の歌詞…すごいですー。

ぴっぴ：確かに台詞まわしがあってからラップに急になるので、落差がすごい。眼鏡くいつてす

るのもおかしいです。ちょっと下ネタもあったり。

りく：「愛は万人に」の泣かせるセリフを考えたひとがああのラップの歌詞w下ネタも嫌な感じしないですよええ。

ぴっぴ：ほんとに色々出来ちゃう感じですね。

フウ：単独で、本当にこれ全部同じ人が書いたのかと疑いたくなる幅の広さ。

ぴっぴ：でもちゃんとラブレカラーがあるし。

深読モカコ：いろいろ小説読んでそうですね。

ぴっぴ：KOCでは、一瞬で自分達の世界感を伝えないといけないとおもうんですが、ラブレもそれが出来てると思いました。ところで、準決勝で校歌見たときどうおもわれました？冷静に見れてなかったのってどんな感じだったかなと。皆様の感想を聞かせて頂きたいです。

深読モカコ：キターーーと思いました。

フウ：ウケたー！！

ぴっぴ：明らかにどっかーんってしてましたよねあの日1. 2を争うウケだったかなと。ひいき目じゃないですよええ。

フウ：裏話なんですけど、溜君、準決勝終わりでやりきったって泣いたんです。

ぴっぴ、深読モカコ、サイノ、りく：おお！

ナオミ：そのくらい力が入ってたんですねえ。

深読モカコ：渾身の！ってことですね。

フウ：もう、落ちてもいいって思ったらしく。あとまだあってあとまだあってノブコブが次の出番だったんですが、めっちゃ吉村さんに睨まれたってww

深読モカコ、ぴっぴ：あははは。

ぴっぴ：確かにラブレも場を荒らしましたねえ。あの後はいやでしょうw

深読モカコ：それだけウケやがったと思われたんですね。すごい！吉村さんも見る目ありますから。だからすごさがわかってつい睨んだと。（フォロー）

サイノ：あれも舞台を焼き払うネタですからね。

ぴっぴ：鬼といいラブレといい、今年は破壊力がすごい。

ナオミ：KOCの決勝進出が決まったとき、直前の環八で前説をやった芸人さんが、環八の中でラブレのネタが一番面白かったと言ってたのです。（ネタは追試）

ぴっぴ：ビスケットィですね。

ナオミ：1年目の芸人に言わせるって、なかなかですよ！

深読モカコ：ほうー。

ぴっぴ：そういえばあべこうじさんが、間のMCとエンディングでラブレにふれてましたね。

フウ：それがまたうれしかったですね。

ぴっぴ：西岡ちゅうがっこーうとか歌ってませんでしたっけね。あべちゃんがいじるってのはお墨付きになるってことですからねー。「すんげおもしれー。」とか言っていました。

深読モカコ：教師が歌う感じ？W

(イラストレーター：meG@Si_me9)

ラブレターズ：ファン座談会③

【KOC 決勝と今後の話】

ぴっぴ：多分かなりの芸人さんがラブレターズを意識したでしょうね。で、今年は期せずして歌ネタが多い。

ナオミ：ネタも見た目もインパクトありますからね！

ぴっぴ：ラブレの校歌、鬼のあやつり人形、2700のキリンスマッシュ、モンエンのミスターメタリック！

深読モカコ：もしラブレも決勝で校歌やったら、来年は学ランコントが超若手ライブシーンに増えたりしそう…

ぴっぴ：どうなるんでしょう。楽しみです！歌ネタも増えそうですね。この歌ネタ百花繚乱がどうなるんだろうとときどき。

サイノ：衣装に関しては、もうぶかぶかの制服を見るとラブレを思い浮かべちゃいますからね…

ナオミ：学ラン着ただけで中学生に見えるのはあの2人しかない！

りく：見た目ずんぐりしてるふたりw

ぴっぴ：学ランはたしかに似合いますね。衣装着替えるだけで何にでもなれちゃう。おっさんも学生も！

フウ：童顔と坊主のコラボ。

サイノ：巨匠の本田君も似合ってるのですが、やはりラブレが頭に浮かびます！

ナオミ：環八のユニットコントで見せる溜口さんのオッサン姿は強烈ですね

フウ：あ、塚君の女装も。

りく：あのオッサンコントは環八でしか見られないというw

ぴっぴ：溜口さんのオッサンや塚本さんの女装もいつかテレビや他のライブでもやってほしいですねwラブレターズは正直かなりのダークホースで予選のうけからすれば納得ですが、まさか行くとは思わなかったですね。

フウ：確かに行くとは思わなかったですね。

ぴっぴ：KOCで一番意外性があったし、無名なわけですねこれがどうなるかかなり注目ですね。

フウ：正直、私は3回戦で、あ、やばいかもって。直後が鬼ヶ島でしたし。

ぴっぴ：3回戦はわりとさらっと終わりましたしね。ラブレ鬼のならばはやかったですね。順番逆じゃなくてよかったとおもいました。

サイノ：決勝の1本目はロバート→ラブレ→2700だからどう転ぶか分からないですね。スリリング。インパルスは鬼が焼き払った場を整えられるので、他の人達にとってはそこだけはラッキーでしょうね。

深読モカコ：そんならびでライブみたことないですもんねw

りく：ロバートさんがどんなネタやるのか。

ナオミ：2700の破壊っぷりは怖いですね。

サイノ：この八組なら5000円でも行く人がいるのではw

りく：吉本にはさまれるラブレターズなんてw

深読モカコ：10000出す！

ぴっぴ：おおw高値がw

フウ、りく：出しますよ。

ぴっぴ：ロバートとかインパルスとか場数踏んでるからやっぱり強いでしょうし、2700も結構ありえそう。

ナオミ：ロバートはなんだかんだで大人にもウケますから。（ルミネ本公演での感覚）

りく：いやーわからないですねえ。

ぴっぴ：鬼やトップリの決勝進出には納得しても、ラブレターズにはまだ負けたくなくて皆さん思ってそうですよね。優勝したらどうなるか。

サイノ：一組がっとう行くとお互いに刺戟になるでしょうしね。

ぴっぴ：そういう影響まで考えてしまう大事件ですよ。そして、今回はレッドシアター組とはねとび組の入れ替えがありましたね。これも象徴的な事件かもしれない。ぴっぴ：ある意味、わかりやすいコントに戻った気がしますね。シュールはうけづらかったというか、しれっとしたネタはうけづらかったようにおもいました。なにセインパクト！わかりやすさ！演技力！みたい な。

深読モカコ：インパルスも、『エンタ』終わってやりたいようにやれるようになったのも大きいかと。。

フウ：尚更、ライブが重要になってくるんでしょうね

ぴっぴ：いまやオンバトしかネタ番組ないですし。

フウ：ラブレはそれこそライブしかない状況ですし。

ぴっぴ：KOCは正統的なネタ番組として楽しみですよ。

深読モカコ：ふふ、なのに中身の音ネタ率、破綻率…！

フウ：あ、塚君のお母さんはいまいちKOCがなんなのかわかってらっしゃらなかったようですよ。

ぴっぴ：お母さんは事の重大さがわからなかったのでしょうかねーw

深読モカコ：天然？上流階級？

フウ：普通に知らなかったと言っていましたよ。

ナオミ：世間のKOCの知名度ってそんなもんなんですよ。

フウ：逆に溜君のお母さんはスポーツ誌を全部買いあさったと。

ぴっぴ：溜口さんのお母さんは息子ファン！

ナオミ：おー！そういうのいいですね！

フウ：親孝行できたな～って言ってました。

サイノ：良い話ですね…

フウ：まあ…書く言う自分も買いましたけどねww

りく：それも親心w

ぴっぴ：ラブレターズはじわーっと人気でできてますね。濃いめのオタクにうける感じもあります。このままがんばっていただきたい。

サイノ：あー。そこは自分は感覚が麻痺してます！最初から”磁石に勝ったコンビ”ですのでw

りく：オタクってみんなそうですよw

深読モカコ：あ、ひとつ聞きたいんですが、環八では自分らの分析的なことは言ったことあります？性格とか芸風とか。

ぴっぴ：言わないですねえ。インタビューで多少聞きましたよ。かなり自分達のことをわかってるなと思いました。

深読モカコ：なるほど。

ぴっぴ：ここだけの話初めてのインタビュー返しがありました。僕らの印象どうですか？知りたいですと。

サイノ：塚本さんは確実に状況も自分のことも把握してますね。

ナオミ：自分たちのことをわかってるからこそその中学生コント！

ぴっぴ：溜口さんから聞かれました。色々参考にしたいとのことで、かなり戦略家ですね。今まではそんなのなかったんです。皆さん一生懸命答えてくれるだけで。おお？聞きたいのかと新鮮でした。

深読モカコ：おおー。

ぴっぴ：面白い人達ですね。新人類なのかしら。意外とこのファンの感想を参考にするかってのは大事かもですね。

サイノ：溜口さんはいつの時代だとしても馴染みきれない不穏さを醸し出してしまう方だと断言します(根拠レス)。

ぴっぴ：今回ファンの下馬評が結構KOCの結果をあててましたし。

りく：ファンの感想ないとどのネタで勝負すればいいのかわからなくなりますしねえ。

サイノ：ガチの植田まさしファンというのもまた。

ぴっぴ：塚本さんのスマートさと、溜口さんの雰囲気。

りく：バランスいいなあラブレターズ。

フウ：鬼もそうですが、バランスって大事ですね。

ぴっぴ：やっぱり奇跡的な出会いがあるんでしょうねえ。

りく：なるべくしてコンビ組んだんですね。

深読モカコ：ラブレもすわりのいいコンビですよ。身長とか。

フウ：162cm同士ですからね。

ぴっぴ：そうそう身長のすわりがいいw同じマンガのキャラって感じ。BarOffというジンカーズ馬場さん主催のトークライブで、トップリード新妻さんが、ラブレターズはぴったり同じ身長でそこがいいみたいなことを言ってましたね。

ナオミ：少年マンガを見ている気分です。

りく：小さい妖精コンビみたいなw

サイノ：同じマンガのキャラ！それは是非大きめのフォントで。

ぴっぴ：同じ世界にちゃんと存在しているというリアリティがあるんですよ。それが説得力をまして、自然さを加味するというか。

フウ：違和感のなさも、コントに影響あるんでしょうね。

ぴっぴ：見てる側も自然に世界にはいれますよね。

サイノ：どうい世界が一瞬で明らかにできるというのは大きいですね

ぴっぴ：誰もが感じるノスタルジーを書いてるから共感もするし。

りく：塚本さんが作る物語にすっと入り込む溜口さん。

深読モカコ：トプリ、ラブレの影響で“ほっこり系コント師”も増えそうだなーと思ったり…。

ぴっぴ：ほっこりいい話コントは増えそう！安易に真似すると火傷するぜっと思いますがw

フウ：やっぱり、好きだなあ（告白）。

【最後に応援コメント】

ぴっぴ：いい感じなので皆様締めに応援コメントを！

りく：緊張すると思いますがラブレターズらしく楽しんでください！

ナオミ：日本中をラブレターズの世界に惹き込んで欲しい！号泣する準備はできております。

りく：私も泣く準備できてるw

サイノ：準備はできてないけど多分普通に泣きます。

フウ：私は、準決勝で本人の前で泣いていますので。

ぴっぴ：ラブレターズの世界を是非お茶の間に！

深読モカコ：初めて観たときからすぐに軌道に乗るお二人だと思ってました！KOCも、KOC後もご活躍楽しみにしております。ぜひGEESE兄さんと2マンやってください。

ぴっぴ：ネタでも泣いて結果でも泣きたいですね。

りく：親心で号泣w

ぴっぴ：お母さんずっと応援するから。。

サイノ：私は親戚の伯父さん目線で。

ナオミ：ラブレターズにはたくさんのお母さん（ファン）がついています。

ぴっぴ：テレビでやったらまたお母さんが増えそうですね！

フウ：いつものライブのように、素敵ラブレターズを日本中に届けてね！応援してるから、大丈夫だよ。

サイノ：存分にハマってきてください！

りく：あとは、自信もって！としか言えません。

ぴっぴ：ラブレの躍進が同世代芸人へ火をつけますように！



今回は、なるべく多くの方のKOC2011に関する感想を集めるべく、アンケートにご協力いただきました。予選を見に行かれた方の回数は、2～3回の方が最も多かったようですが、中には4～5回通われている方も。今年初めて予選を見たという方が多かったのも印象的です。そして、大会最中に化ける芸人さんを目撃したり、決勝進出組予想が変わったりと、お笑いファンの脳内はとても忙しかった模様！今年や来年の予想や好きな芸人さんの名前がどこであがるかなどを、眺めてみると面白いですね！ここで人気な方は来年かなり期待出来そうです！！(合計36名の方

に任意の質問に答えて頂きました。)

1.お目当ての芸人さんはどなたでしたか？

- 鬼ヶ島 - 10
- うしろシティ - 6
- ラブレターズ - 5
- トップリード/ジャングルポケット/THE GEESE - 3
- ジューシーズ/パンサー/エレキコミック/アルコ&ピース/ときどきキャンプ/ライス - 2
- ニブンノゴ/しずる/アームストロング/フラミンゴ/ツィンテル/うしろシティ/ジグザグジギー/ドレッドノート/アストロNエース/シソンヌ/がっつきたいか/馬鹿よ貴方は/犬の心さん/ギンナナ/インパルス/しずる/グランジ/さらば青春の光/ななまがり/かもめんたる/中張又張/2700/ずん/アンジャッシュ - 1

2.お目当てやそれ以外の方をふくめ、ウケていた／面白かったと思った組は？

- 鬼ヶ島 - 9
- THE GEESE - 7
- トップリード/ラブレターズ/2700 - 6
- ラバーガール - 4
- アルコ&ピース/ニッチェ/モンスターエンジン/アストロNエース/ライス - 3
- インパルス/かまいたち/ジャングルポケット/GAG少年楽団/ジグザグジギー/エレキコミック/フラミンゴ/夜ふかしの会/ななめ45° - 2
- ジューシーズ/グランジ/ピテカントロプス/ソーセージ/ケチン・ダ・コチン/ずん/ヒカリゴケ/サービス/かもめんたる/ときどきキャンプ/ローズヒップファニーファニー/トット/大黒天/ツ

3. 今回のKOC予選を見ての感想をお聞きします。今までと違うと思った点はありましたか？

- 今までは予選をあまり見ていなかったのですが、トリオが多い印象がありました。
- 3人組が多く勢いもある ただ突き抜けていけない感じも。
- トリオが増えていた気がします。あと、爆発力があるところが順当に進んでるような気がしました。
- 審査に疑問を感じなかった。ここが通らないとおかしいって思うウケの人たちが順調に通った感じ。
- ∞系の客が多かったように思う（2回戦、3回戦）
- KOCの予選を見るのは、今年がはじめてだったんですが、漫才より好き嫌い関係なく笑えた気がします！同じような設定でも全く違うものになるからおもしろい！設定がおもしろかったり、単純にボケがおもしろかったり、ほっこりできたりKOCの予選見て、さらにコントにハマりました！
- より公平な審査でした。
- 開催されるか一度危ぶまれていたこともあったからか、ネタのチョイスの慎重さ、緊張感が伝わりました。
- K-PROライブでお馴染みの演者さんたちが順当に勝ち上がっておられたのが印象的です。決勝のメンバーも！
- ライブ感が強く、賞レース特有の緊張感をあまり感じなかった。
- キングオブコントの予選は今回初めて行きましたが、空気がちょっと重いかな～と思うことは何度か。
- 初めて二回戦を観たのですが、空気がピリッと始めた気がしました。一回戦は温かい目で観てる雰囲気を感じたので。

4. 本番の空気はどうでしたか？感じた事があれば何でもお願いします。

- 緊張感がありつつも、MCのあべこうじさんが和ませてくれて、普通にお笑いライブを見ているような気分で見ることができました。
- 3回戦くらいになるとお客さんも笑いを選んでる気がした。演者さんたちは思っていたよりいつもどおりの雰囲気が出来ていた気がする。最初のほうに少し客席の心を掴んでくれる組があると本当に流れが変わる。
- 全体的に空気が重かったです…。その日の序盤に出てきた人は不利な気がしました。前のコンビがすごくウケると次のコンビに集中できない(前のコンビの余韻で)。
- もっとピリピリしてるかと思いましたが意外とそうでもなく（M-1は予選を見たりしてましたが準決はだいぶピリピリしてた記憶があります・苦笑）若干1日目（25日）は空気が重いかな？と思ったりもするものの、面白いところではウケてたりしてたので緊張もそこそこあ

りましたが楽しめました。

- 客席の空気感はM-1と比べて和やかでした。
- 序盤は空気が重くて、観る側も緊張しました。
- 後半になるにつれて観客も増え、温まってきたと思います。
- あべこうじさんが軽快なトークで場をほぐしていたので、緊張の空気は薄れていたかもしれません。
- 基本ピリピリとした空気が混ざってハラハラしました。
- 会場の空気が張り詰めていて、それを打ち破ったところが通る、という印象がありました。
- MCのあべさんも言っていましたが、かなり緊張感が漂っていました。今まで決勝に進んでいたコンビでファンも多いであろうコント師に対してもネタ次第でシビアな雰囲気。下ネタや連呼ネタだとウケていても審査員には選ばれないということを感じました。
- 例年かもしれませんが、準決勝は音響が抑えめでなおかつ空調が効きすぎなので、文字通り客席があっただけなのに時間がかかった印象です。
- 軽くて良かったです。
- 全体的に温かったです。女性中心で休憩時間は女子トイレが大行列でびっくりしたことを覚えています。
- 有名どころの芸人さんは自分たちの空気にするのが上手いなと感じました。
- やはりと言うか芸人さん方から物凄い緊張感が漂っていた気がします。
- 緊張感はありつつも、お客さんは温かったと思います。ただ、ネームバリューのある方々でも、面白くなければ笑いが起こってなくて、その点ではシビアだと思いました。

5. どういうネタがウケやすいなど傾向はありましたか？

- 準決勝になるとすべる人はあまりいないので、やはり印象に残るネタがウケていたと思います。
- わかりやすいボケのネタで、かつ流れが自然なもの。要は見やすいものってことなのかな。考えなくてもいいネタというか。
- 自分たちの空気に持っていったコンビトリオが、ウケてたと思いました！あと、準決勝は3回戦と違うネタを持ってくる方がよかったと思います！
- 結果を見ても捻ったネタというより、ネタの強烈さが強いところがウケてたんじゃないかと。
- 個人的には余力が見えるチーム（まだまだネタがありそう等）が見ていてもっと見たい気がしました。
- わかりやすくシンプルなネタ。
- ライブシーンでなじみのコンビがやはり歓迎されていたように思う。
- ネタ時間が短い中、きちんとまとまったネタがウケていたと思います。
- 舞台をフルに使ったネタが受けやすかったですね。
- 今までに見たことがないようなコントは、やっぱりウケやすかったような気がします。

- キャラ、リズム、綺麗なオチのあるネタ。
- 会場が大きいので、動きが大きいネタの方がわかりやすい。台詞や表情だけで笑いをとろうとすると、後ろの席ではほとんど伝わらない。またTVに出ている人の方が、登場したときから会場がウェルカムな雰囲気になっているので、やはり有利なことは間違いないなあと思った。ただし「面白いはず」という前提で見るので、あまり名の知られていない人たちよりも「大爆笑」は取りにくい気がする。
- やはり歌ネタ、音ネタはウケやすいと思いました。当然かもしれないですけど、見たことないようなキャラが出てきたりとかはわかりやすくウケてたと思います。
- 面白ければ割と何でもウケていたように感じました。
- 拍手笑いはネタの中で強弱をうまく付けられているコンビに起きていた印象です。その中でも例えばかまいたちは、流れに勢いがつくネタ運びができていたことに加え、楽器を使用していたこともあり、会場がより盛り上がる工夫がなれていたと感じました。
- 構成がしっかりしたネタですかねー。
- 今どきのというかエンタメ系？
- 賞レースという場では、最後に向かって、盛り上がったり畳み掛けたりするネタがいいのかなと思います。面白くても最初から最後まで一辺倒では、なかなか難しいのかなと感じました。

6.準決勝を見られた方にお聞きします。結果は納得でしたか？ はい／いいえ

- はい - 13
- いいえ - 3

7.準決勝を見ての感想があればなんでもお寄せ下さい。

- 普段、東京吉本のライブにばかり行っているのですが、もっといろいろな事務所の方の出るライブに足を運ばないと...と思いました。コント師大好き（特にトリオが好き）なので、一度にたくさんのコント師が見れて楽しかったです。応援している芸人さんについては、あまりに置きに行ったネタをしすぎたので少しがっかりしましたが、今年の結果を反省して来年頑張っしてほしいと思います。
- 準決勝すごくおもしろかった！最近見始めた東京の若手が、3組決勝に行ったのが嬉しかったです！でも、全体的に東京勢より大阪勢の方が不利だった気がして、ちょっと残念でした。
- 比較的ライブと同じような感覚で見れました。ま、とはいえ、好きなコンビ（トリオ）のときは手に汗握りましたが（笑）。
- 見に行った準決勝2日目から合格した組が少ないので何とも言えないのですが、確実にみんな面白くてどの組が合格してもおかしくない。と思いました。合格不合格あるけれど見ることができて良かったです。

- 名前は知ってるけれどネタを見たことのない方ばかりが揃ったな、と。
- THE GEESEも通過すればよかったなと思う。
- こんな豪華なメンツのライブが3500円って、おそらく日本一費用対効果の高いお笑いライブだと思いました。普段ライブで見ない芸人さんを新規開拓したり、テレビでしか見ない方のネタを生で見ることでもできたり、ほんとに面白いライブです！
- 個人的に鬼ヶ島は3回戦の方が良かったですが、やっぱり枠外だなあと。他もトリオ好きとしては良かったですが、爆発力で負けたのかなあと。
- 他にもウケていたコント師がいたのに...と思ってしまいました。
- 仕上がったネタのストックがあるはずなのに、3回戦と同じネタをやっているコンビは、どうしてそこに勝機を見出せたのだろうか、ちょっとジレンマに感じた。ジャンポケやライス、もっと勝負ネタあるでしょう？と。
- 準決勝の初日はかなり空気が重かった。どうしても2日目の方が豪華なメンバーが多いのでファンも笑いやすい雰囲気になっているのかなあと思った。
- 直前のコンビが大ウケすると逆にこの直後のコンビは普段ならもっとウケてもいいはずのネタにもかかわらずウケてなかったりはしました。
- 本当にみんな面白かったです。ただ、準決勝まで来るような方々は、もう面白いということは前提になってしまっているのかも感じました。その上でどれだけ自分達の個性を出せたか、自分達だからこそできることをやれるのかが、決勝との分岐点なのかもしれないです。

8. 決勝進出組の予想をしましたか？

- はい - 24
- いいえ - 7

9. 誰を予想しましたか？ 当たりましたか？

- 鬼ヶ島 - 8
- トップリード - 7
- インパルス - 4
- 2700/モンスターエンジン - 3
- ラブレターズ - 2

(インパルスイラスト：スイッチ@ちちくりマンボウ@waaaalaugh)



10. KOC予選開催中に決勝組の予想は変わりましたか？理由等もあればお教え下さい。

- 変わりませんでした - 4
- ラブレターズが2回戦で「校歌」をやったと聞いたときに、仕掛けてきたな！今の勢いなら

いけるんじゃないかと本気で思った。鬼はウケは尋常じゃなかったし、いってほしいけど、あれを放送できるのかというところで悩んで外していたw

- 2回戦を見た時に、今年は総入れ替えが起こると感じたが実際その通りになった。（今までの常連組？が新しい流れに乗り遅れてる感じがしたので）
- 実力があるインパルスやTKOが怖い存在ですが人力舎の鬼ヶ島が優勝だと思います。
- エレキコミックは準決勝見て、行かない気がしました。去年と比べて、どうかなと思ったので。
- 行った方の感想を見てると2700の評判が良かったので、もしかしたら決勝に行くかなと思うようになりました
- 変わった。若手がたくさんあがってきてうれしい。しかし関西組が少ない。
- ライスさんが行くのでは、と思ったのですが。
- トップリードを3回戦で見て、こんなに面白いのかと思ってこれは決勝に入るかな？と思ったらやっぱり来て納得しました。
- 予選開催中の別のライブで演者さんが「今年の2700は仕上がっている」と言うのを何度も聞いた（印象的だったのは、8月の『ずしゃる』で、しずる、エレキコミック、ラバーガールが話題にしていた）。同業者の前評判はすごい的確と思った。
- 正直、ラブレターズの校歌のネタはどう判断されるかわからなかったんですけど、ネタ終わっていくかもしれないとは思いました。
- ラブレターズは準決勝で変わりました。あれほど評価が高い芸人は初めて見ました
- ラブレターズ。2回戦で観たのですが、本当に面白くてももしかしたら...と思ってました。ネタ時間が3分しかなかったので、決勝で4分バージョンのネタを観れるのが楽しみです。

11.その他今年の感想をなんでもお寄せ下さい。

- バリエーションに富んでいるので決勝が楽しみです。
- こんなにも、ライブで観る人が決勝に進んで、ビックリすると同時に、ワクワクします。
- 良くも悪くも、お笑い界が動いた年だなあと感じているので、KOCがどのような位置づけになるのかなあと考えてます。
- ライブを中心に活躍してる組が多いのがうれしい。
- 今年は忙しくてKOCを見に行けなかったのが、決勝をとにかく楽しみにしています！
- いいメンツが決勝に行ってくれて、ほんとに嬉しいです！今年はDVDじゃなくてブルーレイで出して欲しい！
- 今年は今までよりもファン目線でファイナリストが決まったので驚きました。
- 3回戦で見たしずるが、準決勝ではあまり評判がよくなかったのが意外だった。今年の顔ぶれは少しフレッシュさが増したので、いい方向の賞レースになるんじゃないかと期待。
- とりあえず結果だけ見て、鬼ヶ島ファン（笑）としては興奮しましたし、トップリードもラブレターズもよくライブで見ていて面白いと思っていた面々だったのですごく嬉しかったです。決勝がすごく楽しみです。

- THE GEESEの準決勝の「大人の階段」に感動しました。終わった瞬間、「なにこのすごい」と心をつかまれた。決勝にいけなくて残念です。
- 現在の都内ライブシーンを観ている方々の鬼ヶ島への期待の厚さがすばらしいと思いました。鬼ヶ島なら何かやってくれる！と私含め皆思っているのだな、と。
- 鬼ヶ島がほんとに決勝に行くとは...！
- 漫才もコントも決勝に残ってる2700はあらためてスゴイ。
- 2700さんが残っていて感動！
- 2700のリズムネタが私はあまりハマらないんですが、キリンスマッシュは面白かった。あとやっぱりとにかく今回は鬼ヶ島でした。3回戦が一番圧巻でした。決勝でも「ホスト転校生」が見たいです。
- 今年は雰囲気ガラリと変わったように思います。生で見たかった。驚いたのは、2700の知名度かな。学校でKOCの話をする時、お笑いに疎い友人も「2700行くの？やった！」とか言ってて、改めて彼らのすごさを実感しました。
- ライスさん。昔から定評のあるバナナ、十分にウケていたと感じたのは9期轟真目だからかもしれない。でも面白かったです！あとはトッピーさん。チャンピオン大会でも披露していたコントを見ることができ、とても嬉しく一番笑いました。そして、しずるさん。一番応援していたからこそ、準備で姿を見て正直「このネタか...」と思ってしまいました。他にも友達同士のネタだったり、あったでしょ？と。でも楽しそうに演じていた2人の姿は素敵でした。これからもずっとファンです。
- ザ・ギース、すごく見直しました。本当に、決勝行けなかったのが残念。
- モンスターエンジンの世界観に飲み込まれました！今年一番の衝撃でした！
- チョップリンはサンパチマイクが事務所に用意してもらえなかった関係で直前に準決勝でやるネタを変えたと聞いたので、本来やるはずだったネタを見たかったなあとと思う。大阪組が残っていないのが残念。アストロNエースの他のネタも見たい。
- 決勝や準決勝に上がれなくても面白い芸人は予選に沢山います。
- 全体の感想なのですが、やはり吉本以外の事務所強いなと実感させる結果でした。それがKOCの大きな特徴なんだなと思います。
- MCがあべこうじでした。司会+前説的な役割も担うので、大変な仕事だと思いますがうまく回せていた印象です。審査結果が出るまでの間もしゃべりでつないでくれて好印象でした。
- 夜ふかしの会。舞台の使い方が上手くて感動しました。人数の多さを生かしすぎてて憎いですw
- 決勝進出者を見て、本当にわくわくしています。どの芸人さんも、他のコンビには決して真似できない、自分達だけの持ち味を持っていて本当に魅力的。みなさん力を出し切って、笑いの絶えない3時間になることを期待しています！

12.来年はこの組に期待している！この組が来るなどの予想と期待をお寄せ下さい。（あれば理

由も)

- うしろシティ -6 (やっぱり期待の若手芸人なので/見るものを一度で引き寄せる彼らのポップさは唯一無二! 来年はいけると信じてます!/来年のラブレターズ枠になるのではないかと個人的に思っています。初めて見た人が他のネタ見なくなる良いコンビなので。/ポップさと構成の妙を併せ持っているから。後は何か一癖身につければ。)
- しずる -5 (鼻唄芸人の巻き返しに期待。昨年から色々模索していたが活路を見い出しきれないうちに勝負が終わってしまったのだが、地力はこんなもんじゃないと思っているので来年も.../2人にしかできないコントをしてくれるコント師だからです。)
- アルコ&ピース -4 (そろそろ決勝に行ってもいいくらいの実力と面白さだと思います。/トップリードに続いてほしい。)
- ライス -4 (今年準決勝まで行った彼らの本気をもっと見てみたい。)
- ニツチェ -3 (来そうな気配を感じています!)
- がつつきたいか -2 (ようやく、オリジナルスタイルが見つかったように思う。外部ライブに出て鍛えられるのを期待!)
- かもめんたる -2 (うだいさんの気持ち悪さを全国に広めて欲しいですw)
- ツィンテル -2 (2人の演技力とネタのストーリー性は、ハマったらものすごく大きい! 今年も惜しかったので、来年こそは!)
- 犬の心 -2 (来年こそ本気liveの成果を爆発しちゃってください!!!)
- グランジ -2 (彼らのクズさをもっといろんな人に知って欲しい!!!!)
- ジグザグジギー (準決勝が面白かったので) -2
- フラミンゴ(毎回あと一歩な感じがするので、そろそろ上がってほしい!)-2
- ニブンノゴ! (毎年毎年ネタチョイスが残念なので、来年こそはという期待をこめて)、ジャングルポケット (コントでも翻弄される役を斉藤さんにしたこと、武山さんの天然ぷりが生かされてバランスがとても良くなっています)、ジューシーズ (独自のニュアンス路線が支持される時代がそろそろ来ても良いのでは?)
- ラバーガール (人力舎で一番面白いコント師だと思うし、実力や経験値があるから。)
- 少年少女 (女性コンビの決勝戦をみたいのと、ポケツッコミの境界線がない二人のネタが斬新だから。)
- かまいたち(そろそろ決勝に行ってもいい)
- ドレッドノート(今年初めて見て、今後楽しみなのは、です。)
- チョコレートプラネ/シソソヌ(ネタ選びを間違わなければ、そろそろ...と思います。)
- ジャンポケ (派手さにも期待!)
- G A G 少年楽団(いつみても、クオリティの高さが素晴らしい。K O C を目指してネタを作っている感じがすごくする。)
- ダイノジ(力はあるし華もあるし、あとは結果を残すだけなんです! 今年の準決勝でも大ウケしたと聞いたので、来年こそは!)
- パンサー(凄く人気もあって面白い。来年こそは!)

- ときどきキャンプ(準決勝のネタがとても面白かったの。)
- ジューシーズ(非常に個人的な推しということで、彼らのようなコントをする人達はいないので、評価は二分されると思いますが、あれが認められるお笑い界であって欲しい。)
- 引き続き、ジャングルポケットに期待します！
- アンガールズ。出場して欲しいという希望を込めて。最近のコントもとっても面白いです。
- さらば青春の光 (TKOの枠をそろそろ若手に)
- ザギース/アンジャッシュなど。(これぞ作り込まれたコントの場合、賞レースでは爆発力に欠ける印象があります。しかし個人的には演技力、構成に力を入れたコントは好きなので、ぜひ勝ち進んでもらいたいです。)
- マリア/少年少女/シソンヌ/ドレッドノート/天竺鼠/マーブルズ/アンドレ/モダンタイムス/シャンゼリーゼ/イトウソウモリタ/ドレッドノート/GAG少年楽団、ソーセージ/ムートンジンカーズ/巨匠

K-PRO

K-PRO ライブ主催 児島さんインタビュー

2011年9月12日 都内某所
(聞き手、文：Punch Line)

K-PRO の歴史

—初めまして。実はずっと児島さんのお話を伺いたかったんです。

児島 ■ よろしくお願ひします。表側から見る方の意見などを逆に聞きたいです。

—ご参考になれば！

児島 ■ 私もどうしてもお客様とコミュニケーションを取る機会があまりなくて、裏側という気持ちがあるのであまり表に出るのも…と思ってしまっただけ。

—本当にキメ細やかにライブを運営されますよね。

児島 ■ ありがとうございます。嬉しいです。そうやっていただけるのが嬉しいです。あまり褒められたことないので(笑)。

—本当ですか？とても面白くて、チケットなどもリーズナブルですし。

児島 ■ もっとお客様が来てくれたらいいな、というかお笑いのライブ界をもっと活発に出来ればいいなと思っています。

—それではまず児島さんの経歴を伺ってもいいでしょうか？

児島 ■ もともと17歳の時にお笑いライブのスタッフ募集を見て、裏方を始めたのがキッカケです。それで2002年くらいから会場を借りて、仲間内でお笑いライブを始めたんです。ミニ沢ミニ晴さんとかが演者側として出てくださっていたり。

—2002年に始められているんですね。

児島 ■ その時は月に一回くらいとかですね。K-PROとしては2004年の5月に『行列の先頭』というライブの一回目をやりました。そこから何年かはライブは月一くらいでしたね。なんだかんだでちゃんとやり始めてからは5年くらいですが、割としっかり出来るようにはなってきたのかなと。芸人さんがライブの名前でわかってくれるくらいにはなりましたね。

—何年目くらいから芸人さんへのブッキング時にK-PROライブというものを認知されるようになりましたか？

児島 ■ いつだろうな…。『トッパレ』のバトルシステムも結構何回も変えていて、芸人さんやお客様の意見を参考にして現在のシステムになっているんですが、毎月定期的にするようになってスパローズさんがMCになったくらいからかな。3～4年くらい前からでしょうか。

—5年でこれだけライブが定着しているのはすごいですよね。

児島 ■ いやいや、何気にそれまでが長いんです。スタッフ時代が。

—スタッフからライブ運営に踏み出す最初の一步ってかなり勇気がいりましたか？

児島 ■ そうですね。どうやったら芸人さんと呼べるのかもわからなくて片っ端から事務所へ連絡して、みたいな感じでしたね。手探りで、いろいろ怒られながら始めていっ

た感じですか。よくわからなくて自分の履歴書とか送って、何がしたいんですか？とか言われて、恥ずかしい思いをしました。

—へえ。そんなスタートだったんですね。

児島 ■ 実は『行列の先頭』をやったときに来て頂いたのが三拍子さんなんです。その時のことを今も高倉さんは覚えてくださっていて「あの時のライブがここまでになって、すごいねー。」と言ってくださったりして。芸人さんに覚えてもらえているのはすごく嬉しいですし、なによりその時に出ていただいた方に、こうして今でもライブに出てもらえていることが嬉しいです。

—やっぱり『行列の先頭』は特別に思い入れのあるライブですか？大事にされているというイメージがあります。

児島 ■ そうですね。一番初めにやったライブであるということと、それをやることによって続けられないと意味がないんだなという思いがうまれました。プロの芸人さんに出てもらって、一緒に舞台を作っていくことが初めてだったのでいろいろ思うこともありましたし。テレビで見ていた芸人さんのイメージを持って裏方を始めて、実際にライブをやってみて「生の舞台って違うんだな」って。なめてかかっちゃダメだったと思ったんです。

—スタッフになったからこそ見えてきたものがあるんですね。

児島 ■ その頃一緒に働いていたスタッフの子も「見ているほうが楽だから」とか「こんなに厳しいと思わなかった」といって何人も辞めていってしまったんです。でも自分自身は、だったら逆に「芸人さんに出たいって思うライブを作りたい」って思ったんです。対お客さんというのはもちろんですが、対芸人さんというのも私にとってはお客さ

んですし、しっかりやっていきたいなど。

—いろいろなライブでスタッフをやっていたんですか？

児島 ■ そうですね、シアターD開催のライブのスタッフをやったり、浅草にも行きました。お笑い全部を知りたくなってしまって（笑）。スタッフとしていろいろなところで手伝わせてもらいました。

お客様が語れるライブ

—スタッフとしてお手伝いして、吸収できることは自分の中で蓄積していこうという感じでしょうか。

児島 ■ はい。自分の中で興味あるもの全てを見たい、知りたいという感じで。お笑い番組も芸人さんが出ていけば全て録画して見る、という感じで。お笑いが好きだったのもありますが、全てを見逃したくなかったですね。好きなところだけ見ればいい、という感覚はありませんでした。

—それはすごくエネルギーが必要ですよね。

児島 ■ 自分が好きなことだったから動けましたし、続けられました。

—やっぱり「続けること」なんですね。

児島 ■ 見続けることの意味というのをすごく感じています。それが始まりだったので、自分のライブも見終わってから「お客様が語れるライブ」にしたいと思っています。

—なるほど！

児島 ■ 一番最初の『行列の先頭』って、バトルライブだったんですよ。“漫才vsコント、面白いのはどっちだ?!”という副題で。漫才5組・コント5組で、それぞれの組の勝ち抜いた一組が最後に決勝でもう一本

ネタやるっていう。今思えば、初めてライブを作ったような人間がそんな大それたものやってしまって、本当に申し訳なかったなと思います。

—今でこそバトルライブって多いですが、その当時はあまりなかったんじゃないですか？

児島 ■ そうですね、芸人さん主催のライブが多かったり、プロダクションライブだったり、シンプルな物が多かったかもしれないです。

—今でもライブを主催している人というのはあまり多くはないですよね。

児島 ■ ライブを作っているのは事務所だったり、作家さんだったり、ライブ主催だけというのはそこまで多くないかもしれないですね。

—作家になるうとは思わなかったんですか？

児島 ■ 私はテレビとかそういうメディアではなく、最初から生の舞台しか考えていなかったですね。やっぱりそこは違うものだと思っているので作家になることは考えませんでした。

—確かにテレビとライブでは、見る側の集中力も違いますね。

児島 ■ 生で会いに行くとその芸人さんをより好きになるし、面白く感じるというか。やっぱりお客様の時間とお金をいただくこと、あと足を運んでもらうということがどれほど大変なのかというのを痛感しています。その三つがすごく大事なんだなと。足を運ばせてお金を払ってもらえるくらいの魅力がないと、一回で終わっちゃうなと思っています。

—実際に企画やブッキングなど、どのような工夫をされているんですか？

児島 ■ ブッキングに関しては自分で見て“面白いし出てもらいたいな”と思う人にオファーすることにはしています。お客様からいただいたアンケートを見て、ネタを見たことがなかった場合は実際にその芸人さんのライブに足を運んでみます。

—ネタ見せをしてもらっているわけではないんですか？

児島 ■ はい、自分でこっそり見に行ってます(笑)。最近だと大阪の芸人さんを見に実際に足を運んでいたりしています。

—すごいですね！大阪ではライブをやったりはしないのでしょうか。

児島 ■ 前は月に一回やってたんですよ。大阪でもライブを主催するところがあまりなくて。若手芸人さんの勉強会という感じでライブをすることはあるみたいなんです。

—実際に大阪での K-PRO ライブ主催を望む声も多いようですよ。

児島 ■ 何年か前に、半月くらいずっと大阪に泊まってライブをたくさん見たことがあって。その時に知り合った作家さんやライブ主催者の方に話を聞いたんですが、大阪ではそういう形のライブをやってもあまり続かなかったりするよ、とは言われたことがありますね。

—そうなんですか。

児島 ■ 今東京でやっている 16 歳から 22 歳までのバトルライブ『レジスタリーグ』だったり『トッパレ』のようなライブの大阪版を 3 つくらい定期的にやってたんですよ。『トリプルバレルライブ』っていう、大阪のよしもとさんと大阪の松竹さんと、あと

東京からゲスト呼んでってというライブをやっていました。最近東京でも出られている、(松竹芸能の)さらば青春の光さんとか恋愛小説家さんなんかは何回か出てもらいました。

ライブの名前で来てもらいたい

—K-PROさんのライブは『トッパレ』とか名前もかわいらしいですね。

児島 ■ 全て私が決めていて、自分の子どもに名前をつけるような気持ちでライブ名はつけています。自分でつけないと愛着もって最後まで出来ない気がしてしまっ

—ライブもかなりの頻度で、開催されていますが、それも全て児島さんが決めてい

児島 ■ もちろんスタッフと相談もしますが、全ての芸人さんに一度は自分のライブに出てもらいたいという気持ちがあっ

—今どのくらい主催ライブの種類があるんでしょうか。

児島 ■ そうですね、名前だけが違う感じなんです。一応ライブごとにコンセプトが全部違うんです。お客さんにどう思われているのかが心配ですが。

—多分それぞれのお客さんにお目当ての芸人さんがいて、お気に入りのライブがあるという感じだと思います。

児島 ■ やっぱり出る芸人さんによってお客様の足を運ぶ動きって変わると思っ

てもらいたいという気持ちはあります。『トッパレライブ』はいつも面白いライブだから行きたい、とか。

—例えば今面白い若手芸人さんを見るなら『若武者』だ、というような感じですね。実際にそういうお客さんも多いと思います。

児島 ■ それは嬉しいですね。

—そういったライブごとのイメージというか、ブランドみたいなものを定着されるのが上手だなと思います。

児島 ■ いえいえ。でもやっぱり一回でいいやと思う気持ちはなくて、お客様に続けて来てほしいし、続けてみている楽しみがあればいいなと思います。

—『トッパレ』の賞金システムなんかは(連勝すると賞金が倍になる)次の賞金の行方は?!と気になりますもんね。

児島 ■ そうですね。一回一回見逃せない戦い!みたいになるといいですね。さすがに全部見に来てくださいとは言えないですけど、見逃せないと思ったものを見に来ていただけたらいいなと思います。

—友達を誘う時も、チケットも安くて間違いがないっていう安心感があるので「信頼と実績のK-PROさん」と友達の間では言っています(笑)。

児島 ■ 期待を裏切らないように頑張ります!

キングオブコントについて

—例えば今回のKOC決勝も芸人さんたちが「K-PROライブみたい」と言うくらい、芸人さんたちの中でもそういう決勝で戦える人たちが出るライブというようなイメージが出来つつあるのかなと思ったりしています。

児島 ■ たまに『K-PRO に出てたみんなが決勝行ったね』とか言ってくれる方とかがいるんですが、私は何もしていないんです。本当に全て芸人さんの力ですから。逆に自分が面白いと思ったから、ライブに出てもらいたいと思っていた芸人さんたちがこうやって決勝に行かれて、すごく嬉しかったです。

— 自社劇場を持っていない事務所の芸人さんたちは、事務所ライブは月一とかしかなかったりするので、K-PRO さんのライブに出て経験や場数を踏んでいるというのは理由としてあるんじゃないでしょうか。

児島 ■ やっぱりちょっとでもお客さんの前でネタを披露できるライブというのを作りたいとは思いますがね。舞台裏にいると芸人さんがいろいろ試行錯誤されているのも見えたりするので、少しでも役に立てればなどは思います。

— 今回の KOC の準決勝は本当に K-PRO さんのライブで見ている芸人さんたちがこんなに残っていて、すごいなあと思いました。

児島 ■ KOC 準決勝後の決勝進出者発表の瞬間も、関係者として見る事が出来たんですが、本当にビックリしました。でも本当は悔しがる芸人さんの表情とかも見せるものではないと思うんですが、知ってほしいところではあるんです。

— やっぱり一緒にライブに出ている仲間ですし、悔しい気持ちはありますよね。

児島 ■ 発表直後のライブではやっぱり楽屋も騒然としていて、芸人さんが悔しい表情を見せることもありましたが、そういう時でも今日のライブでは絶対負けないようにやろう！という気迫を感じましたし、今すごくいい感じに盛り上がってきているので

これからがすごく楽しみです。

— K-PRO さんのライブに出ている芸人さんはみなさん同じ空気感というか、共通の目的を持って、お互い刺激しあっているように感じます。

児島 ■ やっぱり『トッパレ』に出られている芸人さんなんかでも、本当にうちの小さなライブでの勝ち負けに一喜一憂していたり、舞台を降りてすぐ反省されたりしている姿を見るとカッコいいなと思います。

— バトルライブをやることでライバル意識を生み出すような効果もあるのでしょうか。

児島 ■ ポキャブラが終わって、お笑い人気の衰退期というか、ライブにお客さんが入らない時期というのがあって、その時にどうやったら芸人さんのモチベーションを保つライブが作れるかということを考えていました。作り手側から変わっていかないと、と思いましたね。芸人さんに出たいと思ってもらいたいなど。

— 今は K-PRO ライブに出たいと思っている芸人さんもたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

児島 ■ 何かのキッカケになってくれればいいなどは思います。やっぱり厳しい目を持った、いいお客様の前で出来るというのがあると思うんですけど。

— 「芸人さんが出たい」ということと、「お客さんが楽しめるもの」を作るというところのバランスが素晴らしいと思います。

児島 ■ 私はすごく緊張しいなので、ライブ前日とかは寝れなくなるくらいなんです。だけどレギュラーで出てくれている芸人さんが本番当日に雰囲気をよくしてくれるのでライブがうまくいっているとありがたく思っています。

—芸人さんが裏でどういうことを話しているのか、ファンは気になりますね（笑）。

児島 ■ ライブごとに結構色があります。『トッパレ』はとにかく楽屋が賑やかで、楽屋に入った時からスパローズさんがトークライブのごとく話して、ライブを盛り上げるために雰囲気をよくしてくれているので助かっています。勉強させてもらっています。

—今までに印象に残っている思い出のライブはありますか？

児島 ■ 最近だと FKD48 ですかね。芸人さんのパフォーマンスのおかげで盛況で。実は一番最初にやった『行列の先頭』の時、一回目から満員・盛況で成功したので、ちょっと過信してしまった部分があって。次にやった二回目のライブでは宣伝も何もせず、30人くらいしかお客様が集まらなかったんです。出ていただいた芸人さんに「恥ずかしい舞台を踏ませてしまった、あわせる顔がない」という気持ちが強くて。今でもライブを発表するときはその時のことが思い出されてビクビクしています。芸人さんに舞台上に立って損するライブにはしたくないですね。

—FKD48も芸人さんの中でそんな話題が出たらすぐに動かれましたね。そういう動きの素早さというか、実行力がありますよね。

児島 ■ そうですね。やっぱり芸人さんが「やりたい」といったライブをやらせてあげたいんです。『リライブ』なんかもポキャブラ芸人さんが出ていますが、それも芸人さん側のネタを真剣に出来るライブをやらないと、という気持ちから生まれたライブです。『トッパレ』の一番最初のMCが山崎さんで、そこから話がきたりとか。フットワーク軽く動けたらいいなとは思っていま

す。

—単独ライブなどもたくさん手がけられていますよね。

児島 ■ 実は単独ライブは会場を取ったり集客したりと大変なことが多いので、そういう面倒なことは全てうちに任せてもらって、という気持ちでいます。

お客様がやってほしいことと芸人さんがやりたいことって変わらない

—そういえばうしろシティとラブレターズのトークライブがありますね。

児島 ■ はい。KOCも終わったあとなので楽しみですね。タイトルもまだ仮で、それも多分本人たちが決めるんじゃないでしょうか。芸人さんから「こういうライブやりたい」といって決まったライブのひとつです。

—ファンにとっては待ち望んでいたライブです。

児島 ■ 今、お客様がやってほしいことと芸人さんがやりたいことって変わらないと思うんです。芸人さんも自分達から発信したいと思うんですが、やりたいけどやれないってこともあるので、それをなるべくやっていけたらいいなとは思いますが、それにはどうしても集客がネックになると思うので、なるべく他とライブが被らないようにしたいですが、それは難しかったりもするので、出来るだけ色を変えてやりたいですね。

—K-PROさんのHPを拝見するとライブ内容もわかりやすく記載されているので助かります。

児島 ■ ライブをやるからにはそういう宣伝なども含めて全てを請け負うという姿勢でやっています。音響・照明・舞台袖などス

スタッフ全てが出来るようにはしています。今はメインで動いているスタッフは3人で、ブッキングやチラシ作成などは私が1人でやっています。あとの2人は作家です。あとは受付とか舞台進行など手伝いがいるという感じですね。

—チケットとかも手作りで可愛いですよ。名刺サイズで。

児島 ■ 手作り感が出ないほうがカッコイイというのはわかっているんですが、親しみを持ってもらいたくて。自分が手伝っていた舞台などのチケットとかチラシとかを取っておきたいという気持ちがあったので、そういう意識はしています。

—(ライブのオープニングVなどの)映像なども作られているんですか？

児島 ■ 映像はうちのまわりで作っていますね。ゴッホ向井ブルーくんとかも自分で映像を作ったりしているので。今の現代っ子はすごいですね(笑)。「行列の先頭」などはプロの方にお任せしていたり、協力してくださる方が増えていたりして、お客様に満足していただけるようにいろんなところを強化しています。ライブごとの色ももっとつけていきたいですね。

—初めて足を運んだ方にライブのカラーがわかりやすいというのは大事ですよ。

児島 ■ アンケートに書いていただいたご意見などを参考にしていたりします。実は悪いところというのは何となくわかります。お客様がどこを見ているかとかどこに満足していないのかというのは同じ空間にいるとなんとなく伝わってくるんですが、逆にいいところというのはわからないので、書いていただくともっとそこを伸ばそう！と思えますね。

—アンケートも読んでくれているのかな？
と思いつつ書いていますが、結構読まれているんでしょうか？

児島 ■ 結構ライブ出演者もアンケートは読んでいますね。『プレスリー』とか『若武者』のような若手ライブは特によく読んでいますし、応援メッセージとかは喜んでますよ。やっぱりお客様の反応は気になりますから。

3月11日の大地震後のライブ運営

—会場を選ぶ時の基準というのはあるんでしょうか。

児島 ■ お客様の声(見やすい、見づらい)というのは取り入れてます。あとはライブに合ったところを選びます。出来れば会場を変えずにやりたいんですけどね。間違えて別の会場に行ってしまったという声をいただいて、予約メールに劇場名など詳細を入れたりしています。やっぱり地震の影響からなのか、劇場予約が少なくなっているようで、劇場側も使い手をさがしているというところはあるみたいですね。

—実際に地震直後のライブ運営というのはどうだったんでしょうか。

児島 ■ もちろんお客様の安全第一だったので、直後は中止にしました。やっぱり芸人さんたちもどういう顔してお客様の前に立てばいいかというのが不安だったと思いますし、どんどんライブがなくなってモチベーションが下がっているのも感じましたので、少しでも自分で動けることがあればと思って、割と早く再開しましたね。その時にどういうテンションで出ればいいのかとみんなが迷っている中で、一番に頭に浮かんだのはスパローズさんだったんです。まずスパローズさんに舞台に立ってもらおう

と。本当にスパローズさんにはお世話になっていて、今の『トッパレ』の雰囲気を作ってくださったのも彼らです。

— そうなんですね。

児島 ■ それで、スパローズさんが出るライブから再開させよう、と思ったんです。そのライブでも芸人さんをほぐしてくれるような雰囲気を作ってくれて、みんなホッとしたと思います。とても感謝しました。本当にあの時は単独などもどんどん中止になっていたりして、ライブ業界が終わったな、と思うぐらいだったので芸人さんに力を借りて早めに再開させました。

— スパローズさんの存在は大きいんですね。芸歴もあって、どのライブに出ても安定されている芸人さんですよ。

児島 ■ 今東京の芸人さんたちを引っ張っていると言ってもおかしくないくらい、本当にすごいです。前にトッブリードさんなどにうちのライブについて聞いたことがあるんですが、その時も『トッパレ』は「どんなボールを投げてでも打ち返してくれるのがスパローズさんだから安心する」と言ってましたね。これもレギュラーメンバーで長く続けていることがひとつあるのかな、と思います。

— ライブ自体のブランド力があるなと感じますね。例えばK-PROさんのライブ告知って最初出演者がわからない状態で発表されているのに、早い段階から予約をしようと思いますし。

児島 ■ 確かに『トッパレ』などはかなり早い段階からご予約いただいているので、期待を裏切らないように、とは思いますがね。

— ライブチケットの安さも行きやすい一つの要因だと思います。結構ギリギリに設定

されているのかなと。

児島 ■ スポンサーが付いているライブとは違うので、なるべく値段を上げずにお客様に足を運びやすいライブにしようと思っていて、一番メインのライブである『行列の先頭』よりは値段を下に設定するというのが基準になっています。『行列の先頭』が一番上のライブという図式だけは守ってきたいです。

— なるほど。『若武者』なんかはすごく値段も安くて面白いので満足度が高いですよ。土日の昼間にやるのでライブ被りもあまりないですし、友達を誘いやすいです。

児島 ■ それは意識しています。若武者は土日しかやっていないですし、それぞれのライブの色や出演者の方を大事にして。出演者の方にもライブに愛着を持ってもらいたいなと思います。最初『行列の先頭』と『トッパレライブ』しかやっていなかった頃に、次に『プレスリーライブ』というのを始めたんですが、そのライブに出演して下さっていた芸人さんたちに「僕達もK-PROのライブに出たいんです」って直接言ってもらったことが“もう一つライブを作ろう”って思ったキッカケの一つですね。『トッパレ』にたまにスポットで出してもらった芸人さんにも「毎月出れるようなライブがほしいです」と言われたこともライブが増えていくキッカケになりました。今のライブをたくさんやるキッカケになったのはその芸人さんたちの一言なんです。本当に芸人さんとお客様に感謝しています。

— 芸人さんやお客さんといい関係性が出来ていくといい方向へ進んでいくんですね。その中心がK-PROさんになっていて、ステキだなと思います。だからこそお話を伺いたかったんです。

児島 ■ そう言っていただけで嬉しいです。あまり取材などをされることがないので、そんな興味ある話なのかなとか思ってしまっ
て…。

— いえいえ、みんな聞きたいと思っ
ていますよ！

今後の話

芸人さんが“やりたい”と思うことを出来るだけ形にしたい

— これからの展開や目標などあれば伺いた
いのですが。

児島 ■ 本当にやりたいなと思っているのは、自分のライブのタイトルでツアーをやりたいなと思っています。大阪で『トッパレ』をやるとか、自分のライブを地方などに持って行きたいな、という希望はあります。東京でこんなに面白いライブがあるんだよ、というのを生で見せたいです。

— いいですね！そういうツアーは今よしもとさんくらいしかしてないですもんね。

児島 ■ 昔は事務所単位で地方のバスツアーとかあったんですけど、最近はないですね。芸人さんとかも気心しれたみんなで行きたい！とか言っていたりして。遊びたいだけみたいですけど（笑）。

— 地方でのファンを作るということも大事ですよ。KOC でまた需要は増えると思います。

児島 ■ 東京や大阪以外にもお笑いが好きな人はたくさんいるので、もっと知ってもらいたいし、笑ってもらいたいし、いろんなところでライブを見せられたらいいなと思います。挑戦したいという気持ちが一番なんですけど。集客が一番難しいと思うので、その土地土地での地域性というかそういう

ものを勉強しないといけないですね。

— 東京大阪をベースにいろいろなところでやりたいという感じなんですね。

児島 ■ そうですね。芸人さんが“やりたい”と思うことを出来るだけ形にしたいという気持ちがあって。少し話がずれますが、私フォークダンス de 成子坂の村田渚さんにすごく影響を受けたというか、もともとすごく好きで。渚さんにうちの MC をやって頂いた時に「こういうコントライブをやりたい」という話を直接もらったことがありました。でも「それやりたいですね、面白そうですね！」と話がまとまった直後に急に亡くなられてしまったのです。その時に“やりたいと思ったことをすぐに出来なかった”ということがすごく心残りです。それで、芸人さんがやりたいって思ったことは、面白くても、つまらなくとも、お金にならなくとも、全部形にしたいなという気持ちがあるんです。

— そんなことがあったんですね。

児島 ■ やりたかったことを出来ずに渚さんが亡くなられたということがずっと自分の中でも残っているので、やれることはやりましょう、と。だからこそ「これをやりたい！」と言ってくれるのが嬉しいんです。芸人さんは自分を表現する、自分たちのやりたいことをどれだけ自分達でプロデュース出来るかというのがあると思うので、なるべくそれを形にしたいなとは思っています。

— 芸人さんの考えていることをなるべく実現しようという気持ちを明確にされているので、芸人さんたちの信頼が厚いんだろうなと思います。

児島 ■ いえいえ、とんでもないです。芸人さんとお客様を繋ぐキッカケになればいいなと思ってはいますね。その空間をどれだ

けお互い気持ちよく出来るか、という気持ちはありますし、芸人さんにもお客様にも楽しんで帰ってほしいと思います。難しいですけどね。反省もすごくしますし、自分で満足できることはあまりなくて。でもそれが逆に次は頑張ろうと思えるますね。

—常にちょっとでも良くしようとする気持ちをずっと持ち続けるのはすごいと思います。モチベーションをキープするのって難しいですし。

児島 ■ 最初月に一回しかライブをやっていなかったのは、すごく疲れるしすごく面倒くさいというのが自分の中であって。その頃はライブ終わって1~2週間は何もやらずに遊んでましたね。だけど次の会場借りてるから何かやらなきゃと慌てだす、という悪いサイクルだったのが、ライブが増えることによってお笑いに関わる時間が長くなって、今はライブがない日のほうが逆に持て余すくらいになっていますね。

—今はいいリズムでやられているんですね。

児島 ■ 本当はもっともっとやりたいんですけどね。お客様が毎日でもライブ見にいきたい！と思うのと、私たちが毎日ライブやりたい！と思うのはきっと同じ感じですね（笑）。

芸人さんとの関係性

ライブの最中の楽屋の雰囲気も大事

—ところで、ゴッホ向井ブルーさんなどスタッフもやられてますが、K-PROさんの預かりなんですか？

児島 ■ プロダクションではないので、所属というわけではないんですが、プロダクションに入る前にいろんな先輩芸人さんのネタなどを舞台袖から見て勉強したいというこ

とで来てもらっていますね。今は舞台袖係といわれる進行役をやってもらいつつ、見て学んでもらって自分の出番のチャンスをうかがうというか。すごくこちらも助かってます。

—今はゴッホさんとティラノサウルスさんだけですか？

児島 ■ あと前ホリプロコムに所属していたフレンチトースターズの原くんが解散してフリーになったということで手伝ってもらっていますね。あとはミニ沢（ミニ晴）さんですね。ご存知ですか？

—ネタは拝見したことないのですが、よく芸人さんたちの話で出てきますよね。

児島 ■ 何をしているのかわからないお客様も多いんだと思うんですけど（笑）。芸人さんはみんなミニ沢さんのこといじるんですよね。あとアルコ&ピースの平子さんがライブ前に楽屋でネタ合わせしようとする、酒井さんがどっかいっちゃってていなくて。それでずっと平子さんが「酒井どこいった？」っていうのが毎回どのライブでも恒例になってるんですけど。大体そういう時はミニ沢さんと話してます（笑）。シャイなので酒井さんも普段は全然しゃべらないんですけど、ミニ沢さんとだけはずっとしゃべってますね。

—例えばゴッホさんやミニ沢さんなどの芸人さんたちを含めてプロダクションにしたいとか劇場を運営したいということではなく、あくまでもライブ運営をやっていきたいという感じなのではないでしょうか。

児島 ■ そうですね。生のお笑いライブをやりたい、面白いライブをやりたいという気持ちだけです。タレントを持ってその売り込みとか、テレビにとかそういうことは考えていなくて、本当にライブだけです。

—何をやりたいか、何が出来るかというのを明確にされているんですね。それがある種のK-PRO ライブの魅力であり、ブランド力であると思います。

児島 ■ いやー、必死に頑張っています (笑)。まだまだです。

—芸人さんといい関係が出来ていると感じます。やっぱり芸人さんが出て楽しくなかったらそれもお客さんへ伝わってしまうでしょうし。

児島 ■ そうですね、舞台から降りてきたときの芸人さんの表情とかは見ていますね。これはヤバイかなと思ったときには周りからも盛り上げるようにしたりとか。お客様には見えないところですが、ライブの最中の楽屋の雰囲気も大事にしています。

—楽屋の雰囲気なども大切なんですね。

児島 ■ 以前『行列の先頭』の楽屋で、鬼ヶ島の野田さんがムスツとされていることがあって、どうしたんですか？って聞いたら「(ケータリングの) おにぎりがなくなった」って言われたんです。それですぐにおにぎりを買いにいって、そしたらすごい笑顔になって「ありがとう！買いにいってくれたの？」って (笑)。ライブの最中やOP後、舞台から降りてきた後などに、そうやって芸人さんに話しかけたりもしますね。

—野田さんかわいいですね (笑)。

児島 ■ おにぎり買ってきたあともすぐに「次はサンドイッチにしてね！いつもおにぎりばかりじゃないか」とか言ってきたりして、そういうところで芸人さんも楽しんでくれているのかなとは思っています。

—なんだかお母さんみたいになってますね。芸人さんたちにいいライブをしてもらうためにコンディションをよくしてもら

という。

児島 ■ 最近本当に言われます。寮母さんみたいな感じですね (笑)。さっきのおにぎりもそうですけど野田さん、というか鬼ヶ島さんはいつも食べ物のことばかり言ってますね。それ言われてからスペシャルライブのときは食べ物を多くして、飲み物が切れたらすぐ買ってきて、というようにはしています (笑)。

—そういうちょっとした心配りが大切なんですね。それがあって常に面白いものが生まれて、需要に答えて。例えば企画とかもマメに練り直しされている感じなんですか。

児島 ■ そうですね。意外と企画に力を入れているライブって少ないと思うんです。よしもとさんとかは本当に企画が面白いので、うちもネタ以外のところでいいものを見せたいとか。バトルライブとかは緊張感があるので、それ以外のラフに見られるところなどを大事にしていたりします。

—ネタ以外のプラスアルファで何が見れるのかっていうのは、見る側も選ぶ基準になると思いますね。事務所ライブではないからその組み合わせとかも楽しみです。

児島 ■ 『K-PRO プレミアム yard』もツインテルさんがMCをやられたんですけど、一回目のあとに今まで同世代の中で自分がMCというのがないので新鮮だったって言っていて、ラブレターズさんもツインテルさんに仕切られるのが新鮮だったと言っていました。今までやったことがないことでも、失敗してもスベってもいいから、やりたいことがあればやってください！という気持ちですね。何でも経験になってくれればいいなと思ってます。

—ネタをやるだけでなく、コーナーとかで

スベれる場を提供するっていうのが意外と大事なのかもしれませんね。当然スベるのは嫌でしょうけど、前に出る場を作るといふか。

児島 ■ 芸人さんたちからしたら行きにくいとかやりにくいとかスベったらいやだからとかで前に出ないで終わってしまうことがあると思うんです。裏話なんですけど、今『若武者』に出てもらっているツインテルさんとか、最初の頃本当に2人ともブスツとしていて、実際はそんな方じゃないんですけど「企画でも俺ら面白いこと出来ないし」みたいなこと言っていて。

——へえ！そうなんですか。

児島 ■ それをいつものノリで「なんでエンディングでブスツとしてるんですかー？」とか言ってみたら「そうだった？」って。初めてそういうこと言われたみたいで。「真ん中にいるんだからもっとやればいいのに！」って言ったら2人が「じゃあ次は笑わせてやりますよ！俺らがやってやりますよ！」って、スベっても前が出るキャラクターみたいになって、次の回からガラッと変わったっていうことがあったんです。実はただ緊張してたみたいなんですけどね。

——ひとつ殻を破る瞬間という感じですね。

児島 ■ そうです。せっかくなのでただライブに呼ばれてネタやって帰るのではなく、そこからひとつ面白いことが生まれればと。本当にそのあとから『若武者』が盛り上がってきたので、今いい感じになってますね。

——普通なら主催者の方にスベる姿を見られたくないと思うんですよ。それを児島さんから「スベってもいいから」って言われて楽になったんじゃないですかね。

児島 ■ 最初は腹立ったと思いますよ、ツイン

テルさんも（笑）。でも私は嫌われてもいいから好きなことをやってください、とは伝えようと思っています。やりたいということをやらせないってことは絶対しないので、やりたいなら言ってほしいし。芸人さんのほうが自分なんかより全然頑張っているんで、もっと頑張らないとダメだなんて思います。

ライブの面白さを もっといろんな人たちに広めていきたい

——いや本当に素晴らしいです。本当に今すぐく芸人さんとの信頼関係などが出来て、いい形になっているなど見ているとも思いますので、これからはK-PROさんには頑張っていたきたいです。

児島 ■ ライブの面白さをもっといろんな人たちに広めていきたいなと思います。芸人さんをもっと見てもらいたいです。応援してもらいたいですね。

——ライブシーンを盛り上げて行きたいですね。今テレビ番組などもどんどん終わっていていますし、ライブが大事になってきていますよね。

児島 ■ 頑張ります！ライブしかないので、本当に頑張ります。ライブも芸人さんも、継続するということが大変だと思うんですよね。芸人さんが舞台に立つことでやりがいを感じる事が出来るように頑張ります。舞台でもチャンスになるんだ、これだけお笑いってすごいんだっていうヤル気みたいなものを形にしていけるようにしたいですね。とにかく継続することですね。

——そうですね。継続することが大切ですね。いろいろと貴重なお話ありがとうございました。これからは面白いライブを期待しております。

ライブシーンの盛り上がりには、面白い芸人さんの活躍に加え、愛ある裏方さんが必要だ。

今年のキングオブコント 2011 決勝に、K-PRO 主催ライブでおなじみの面々が進出したことは、お笑いファンなら誰でも知っているはず。それを背後から支えた一人が児島さんだ。（ご本人は謙遜されていたので、あえて言います！）お笑いファンに愛され、芸人さんの信頼も厚いライブ運営の背後にはこんな熱い想いがあったのかと、しみじみ感動してしまった。これからも東京のライブシーンを活気づけてくれるだろう児島さんと、質の高い内容ときめ細やかな運営の K-PRO ライブをこれからも是非応援したいところだ。

中でも児島さん肝いりの『行列の先頭』が近々開催予定。是非足を運んで明日の人気者を目撃しよう。

～ K-PRO スペシャルライブ～
『行列の先頭 19』

【日にち】 2011/9/27 (火)

【時 間】 開場 18:30/開演 19:00

【会 場】 なかの ZERO 小ホール

【料 金】 前売 ¥2800- (全席指定) / 当日 ¥3000-

【出 演】 スパローズ、アルコ&ピース、サンドウィッチマン、
キングオブコメディ、エレキコミック、U字工事、
2丁拳銃、鬼ヶ島、THE GEESE、磁石、流れ星、
三拍子、マシンガンズ、ハマカーン、どきどきキャ
ンプ、うしろシティ、ラブレターズ

詳細は公式 HP にて。 <http://kpro-web.com/>

近未来からの どうでももしポート

うんなん
@27_21



2012年10月から始まった深夜番組「夜空アゴラ」。複数のパーソナリティが毎日知りたくもない情報を垂れ流しています。

とくにアシスタントの女子アナ三波ミナの1分コーナー「三波ミナのちょっと気になるっ〜!」はどうでもよさとつまらなさが天下一品と話題です。

そんなコーナーで鬼ヶ島とトップリードが紹介されていたので、2013年7月分を書き起こしてみました。

2013年7月5日(金)

梅雨はいつ明けるのでしょうか?あれ?もう明けましたか?私は今日、雨だったのでタクシーでここまで来ました!楽でした!

本日の「気になるっ〜」は、初島!

初島は熱海から船で25分の静岡県の島です!島っていいですね〜。海に囲まれてますから!

初島はとっても小さな島なんですけど、きれいで大きなリゾートホテルがあって、そのプールやスパでのんびりできます。豪華なホテルなんですよ〜。セレブ気分になれそう!

東京からこんなに近くにステキなリゾートがあるなんて嬉しいですね!相模湾でスキューバを楽しんで、スパでゆっくり疲れをとります。それから、シーフードも楽しみですよね〜。

私は無類のイカ好きなので、イカを大量に食べたいです。生で、焼いて、ゆでて、あーおいしそう!初島、いつか行ってみたいです。

三波ミナでした!



2013年7月12日(金)

学生さんはテストの時期かな?私は今日大江戸線でここまで来ました!狭かったです!

本日の「気になるっ〜」は、トップリード!

「もう!いまさら〜」と言われてしまうかもしれませんが、今週放送された情熱大陸を見て気になり始めました!キングオブコント2012での優勝により、すっかり一流コント師としての位置を確立したトップリードですが、お二人の人となりあんまりよく知らなかったんです。

あんなキャラクターだったなんて!トップリードのお二人ってすごく仲良しなんですって!特に新妻さんが和賀さんのことを大好きなようです。そういうのっていいですね!全然知りませんでした。

また、タクシーのネタをしている場面があったのですが、ただのパイプ椅子に座っているだけなのに、本当にタクシーに乗っているように見えました。すごーい!

情熱大陸では毎年定期的に行っているという単独ライブに密着していました。単独ライブは、いつもその完成度の高さから拍手がなりやまないんですって!あ〜観た〜い。今年はもう終わってしまったようなので、来年は行きたいと思いま〜す。

三波ミナでした!



2013年7月19日(金)

皆さん夏休みの予定は立ちましたか？私はローマへ行く予定です。飛行機で！

本日の「気になるう～」は、鬼ヶ島！

毎日、テレビで見ないことはない彼らですが、私は2011年キングオブコントのときから注目してるんです。惜しくも優勝はなりませんでしたでしたが私は1番面白かったな！

ちなみに私は大川原さんがちょっとタイプです。キングオブコントで見たマリオネットのコントで私も操られたーい！と思ってしまう。なんて…本当は…あのとき、ダウタウンの2人にツッコまれてドギマギしている野田さんの顔が可笑しくて可笑しくて、そればかり印象に残ってるんですけど…(笑) 野田さんの顔、面白いですよ～。

それですっかりファンになった私はその年の年末に鬼ヶ島の単独ライブにも行ったんですよ！たくさんネタを見て、そこで野田さん以外のお2人の顔もぼちり覚えちゃいました。キングオブコントで見たものとは少し印象が違って、途中で踊りだしたりしませんでしたけど、でも本当に面白くて、私の目に狂いはなかった！なんて思っちゃいました。

最近はずっかり大川原さんのしっかり者で甘えん坊なキャラクターとクズ人間和田さんもすっかり定着して、テレビでひっぱりダコですね！でももっとコントもみたいなあ。お願いだからまた単独ライブやってえー！

三波ミナでした！



2013年7月26日(金)

毎日暑いですね！地下鉄の駅は若干涼しいけれど、臭いのがいやです。

本日の「気になるう～」は、おかずグミ！

今までグミといたら甘いお菓子が基本でしたが、最近、このように(※1)カレー味、ハンバーグ味、カツ丼味など、食事の代わりになるグミが発売されています。

実は私、これが大の苦手なのですが、まあ…気になることは気になりますよね～。明太子味というのもあって、あやちゃん…あ、藤堂あやちゃんのことです。あやちゃんなんて、白米をそれで食べるんですよ～。信じられな～い！

でもこれが、一昨年あったら、私もハマっていたかもしれないな～、なんて思います。一昨年は私も女子大生だったので、こういうものが大好きだったはず！それから、よく考えてみると、非常食としてもいいかもしれませんね。私もなんとかして好きにならないと！

あ、フランクフルト味なんていうのもあるう～！

三波ミナでした！

※1 現物持ってを紹介

※2 藤堂あやとは三波ミナの同僚で木曜日のアシスタント



Collaborators.

ご協力頂いた皆様。(@twitter ID) *アンケートご協力者様は匿名にさせていただきました。

☆編集鳥



Punch Line a.k.a. ぴっぴ(@punch_line)

お笑い好きで狂ってる。萌え人格と批評人格をもてあまし気味に飼いならず。チーモンチョーチュウ、御茶ノ水男子、うしろシティが大好き。ポップさやかわいさについて考えている。近頃コント師びいき。Visual Culture Studiesが専門。

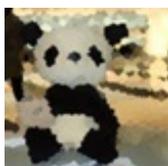
<http://d.hatena.ne.jp/punch-line/>

☆ライター/座談会参加者



あや(@ayamagic21)

プログラマーの卵です。お笑いが好き。鬼ヶ島が好き。他には囲碁将棋、フラミンゴ、うしろシティ、アルコ&ピースなど。ただ基本的に無節操。そんなあたしでもよければ仲良くしてくださいませ。読書や音楽も好き。おかげでいつも金欠。



うんなん(@27_21)

お笑い(LLR、POISON GIRL BAND、鬼ヶ島、ノンスモーキン、トッピードなど)を観にいたり、映画(主にギャングもの)を観にいたり、本(PR誌が中心)を読んだり、のんびり生きています。」とツイッターのプロフィールに書いてのんびり生きているつもりが、見逃したくないライブが多すぎて生き急ぐ日々。コーナータイトル。



サイノマコト(@nezimaku)

日々是修行 sainomakoto@gmail.com 『ほうほう堂@留守番』と『私たちは眠らない』を観て『春式』に参加しました。ほうほう堂とKENTARO!!が大好きです。テニスコートとヨシノモモコが大好きです。うしろシティとラバーガールとトッピードと鬼ヶ島と磁石が大好きです。カレーが好きでした。



菅家志乃歩 (@Sugaya03)

香川県在住のお笑いDVDコレクター。但し、社会人になってから、DVDを観る時間が少なくなって困っている。その結果、通勤中に聴くようになった落語のCDが増え続け、気付けばディスクに囲まれた毎日を過ごすことに。どうにかならんもんか。「殺人(笑)時代」(<http://omoshow.blog95.fc2.com/>)というブログを運営中。



なお(@hanao91249)

お笑い好きの女子大生。東京吉本若手中心にライブ通い。

元々漫才好きですが最近ではコントもピンも。トーク、ダンス、芝居公演も大好き。

ポテト少年団、犬の心、サカリスト、オコチャ、チーモンチョーチュウ、ロシアンモンキー、囲碁将棋、井下好井、タモンズ、シソヌ、御茶ノ水男子等々のライブにすることが多い。けど雑食です。気まぐれでいろいろ。一度ハマるとなかなか抜け出せない。今一押しのライブは「ショータイム」と「僕らの休み時間」と「ロシモンの裏」。きっかけは多分品川庄司、チュートリアル、ライセンス。



ナオミ(@naomi_lc)

神保町花月ファン。月に5回~15回ほど神保町花月へ通う。夢は神保町に住むこと。

<http://laff-circus.com/blog/>

☆夏実

甘酸っぱい日々」というブログをやっております。



にそうしき(@nisousikey)

30歳男。お笑いファンで、爆笑問題と人力舎の鬼ヶ島が好き。ゲームミュージックも好き。@onigasma_botの管理も行っておりま



すので、何かありましたらご連絡ください。 http://twitter.com/onigasima_bot



はたはた(@kremomosnow)

うんちなうプロジェクト責任者。LLR・POISON GIRL BANDを中心によしもと芸人を轟頂中。最近ではスパローズ・トップリード・鬼ヶ島などのよしもと以外の芸人さんにもこっそり浮気中。ついったーでは愛を叫ぶこと多し。

音楽もこよなく愛しており、MONOBRIGHT・シュリスペイロフ・ネズミハナビ・鶴などのライブに通う日々。



フウ(@Tefutefu_2)

お笑い中心の生活を始めてようやく2年のヒヨッコ。語彙は少なく、箸にも棒にも引っ掛からないツイートが得意。単純で脳天気。女子力向上努力中。【好き】ラブレ/キング/どきキャン/鬼/THE GEESE/フラミンゴ/タイム/トップリ/阿佐ヶ谷姉妹/アンジャ/うしろ/ニッチェ等。漫才よりコント派。全力で熱くラブレターズ応援中☆



深読 モカコ(@own_mokako3)

テレビっ子が興じて放送作家になるも、お笑いライブ通いのため仕事を抑え、早や数年。

現在は、バッファロー吾郎信者・平成ノブシコブシ狂い・鬼ヶ島フリーク。

おもろい人は全員好き。

<http://d.hatena.ne.jp/true-too/>



みなちん/ちゅちゅ(@cyucyubobo)

お笑いが好きな外科脳外ナース。ロシモン、LLR、時々



Lic@あゆみ(@12ocmboys)

おっかけ体質/名前はLicと書いて、りくと読みます/好きなもの…御茶ノ水男子(御茶さんはチャレから好きになり現在も追いかけ中)ラブレターズ/うしろシティ/やまだひさし/GLAY/関ジャニ∞/川島如恵留/特撮/コスプレ/戦国鍋TV/村井良大様/日々忙しく生きてます。 <http://profile.livedoor.com/viva3runaway2/>

☆デザイナー/イラストレーター



AZ(@az65535)

ゲーム(主にFC~SFCあたりのビッグタイトル)とゲーム音楽(主に90年代スクウェアもの)とお笑い(主に爆笑問題と人力舎系、FKD48)と絵を描くことが好きです。※鬼ヶ島KOC決勝進出に伴い、現在ほぼ鬼ヶ島のことしかツイートしておりません。表紙絵担当。



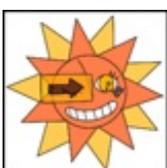
えな(@joena_k)

ショータイムと神保町花月が好きなデザイナーです。章ごとの扉帯デザインなど。編集長のアイコンデザイン。



かじ(@h_kaji)

86年生。ノンポリ情弱。お笑い好き(マセキ轟頂、コント好き)| tweet: お笑い、TV・ラジオ・Ust実況多、日常| サンドリ・スクール9・シャンおじ、たまにANN・JUNK| 祇園花月、テングキ、新宿に稀にいる| 最近のベタ惚れ芸人さんツィンテル
表紙絵担当。



スイッチ@ちちくりマンボウ(@waaaalaugh)

お笑い/音楽/お絵かき/読書などが好きです。ふわりと生きてます。



meG(@Si_me9)

絵をかいたり映像をつくったりいろいろそうさくしてます おわらいとおんがくがすぎです :::2011/12/7-11中央展@東京芸術劇場
2012/2/25-26卒展

<http://si00.web.fc2.com/>



ふさのり(@husanori)

【なんとなくでかけた鍵なので気軽にフォローリク、リプしてください！】東京吉本若手の皆さん大好きです!得にブロードキャスト
更に言うと房野さんに溺愛です。その他佐久間一行/犬の心/田畑藤本/ロザン/6期/7期/9期/ポルノグラフィティには過剰反応します
。 日常アカ→@husanori2

最近、関西のインディーズ系イベントにも足を運び中。



ヤーン(@yam3)

千葉在住・東京勤務。平日昼間は社内ひきこもり。

<http://d.hatena.ne.jp/yamyamyarn/>

インタビュー記事デザイン。

おまけ：ぴっぴのひとりごと(@punch_line)

ぎりぎりになりましたが、なんとかキングオブコント決勝直前緊急特別号を出すことが出来ました。今回はファン座談会を中心に、芸歴3年目での決勝進出という快挙を果たしたラブレターズさんのインタビューも収録しました。まだ2回戦が終わった段階でインタビューを敢行したので、まさかこんな結果になるとはびっくりです。ずっと前から大好きで応援していた方達だったので、うれしかったですねえ。

そして、今回は私が足しげく通わせて頂いているライブを運営しているK-PROを主催している、児島さんにもお話を伺いました。長年ライブ運営をしている方の、熱い言葉は本当に素晴らしいです。こんな方だからあんなに楽しいライブを提供できるんだなあと感心感動。是非読んでみて下さい。

今回はなるべく多くの方に読んで頂きたいので、いつもと違うフォーマットの雑誌ではありませんが、無料公開にしています。通常号では、座談会やアンケートではなく、テーマ毎に（若手コント師特集、漫才師特集など）ライターさん個人の好きな芸人さんについてや、興味のあることについて書いて頂いています。こちらも読み応え満載です。なにせ本当に好きな人のことに関しては誰よりも詳しく、語りだしたら止まらない人達の文章です。楽しいに決まっていますよね。なるべくファイナリスト全組の記事を集めたかったのですが、本誌と私が普段超若手を応援しているため、残念ながら何組か記事を集められませんでした。今後の課題としたいところです。

ではなんとか本号外を出せて安堵したタイミングで、私のアイコンも新しいものへチェンジ！初号の表紙を描いてくれたえなさんの作品です。どうでしょうか。かわいいですよー。

ではでは、これからも愛あるマニアックなファン雑誌を作っていきます。
どうぞよろしく！

ぴっぴ



fan*fun ファンによるファンのためのお笑い雑誌 vol.3.5

KOC直前緊急特別号

<http://p.booklog.jp/book/34714>

著者 : punch-line

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/punch-line/profile>

http://d.hatena.ne.jp/fan_fun/

<http://d.hatena.ne.jp/punch-line/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/34714>

メール

punchline.pippi@gmail.com

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/34714>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.